

## は じ め に

国際的な学力比較調査の結果等から、我が国の児童生徒の学力が低下傾向にあることが懸念されるとともに、教育の機会均等や水準確保などの責務を果たすため、新たな義務教育の質を保証する仕組みを構築することが求められるようになっていきます。

このような状況を踏まえ、平成19年4月に、原則として全ての小学校6年生、中学校3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」が実施されました。同年10月には調査結果が公表され、知識や技能を活用する力に課題があることや基本的な生活習慣が身に付いている児童生徒の方が教科の問題の正答率が高い傾向がみられることなど全国的な状況が明らかになっています。

山口県の詳細な調査結果については、本委員会において精力的に分析を進め、12月には学習指導上の改善点や生活習慣等と教科の結果の関連等についての「中間まとめ」を作成し、各学校や関係機関に配付をいたしました。また、この度、これらの分析結果に加え、学校や教育委員会における効果的な取組の推進や課題の改善につながるよう、学校質問紙調査の結果や学校改善支援プラン等を追加し報告書としてまとめました。

各学校及び各教育委員会におかれましては、本報告書を十分活用され、学校や地域の実態を踏まえた取組を推進し、山口県児童生徒の学力の定着・向上が図られますようお願いいたします。

終わりにになりましたが、本報告書をまとめるにあたり、格別な御尽力をいただきました山口県教育委員会、各市町教育委員会、各関係学校の皆様に対しまして、深く感謝申し上げます。

平成20年3月

山口県検証改善委員会

会 長 林 徳 治

# 目 次

## I 平成19年度全国学力・学習状況調査について

1 調査概要	-----	3
(1) 目 的		
(2) 調査日時		
(3) 調査を実施した学校・児童生徒数		
(4) 調査内容		
① 教科に関する調査		
② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査		
(5) 用語について		
2 調査結果		
(1) 結果分析に当たっての基本的な考え方	-----	5
(2) 教科に関する結果		
① 小学校国語	-----	6
② 小学校算数	-----	18
③ 中学校国語	-----	30
④ 中学校数学	-----	43
(3) 質問紙調査の結果		
① 児童生徒	-----	58
② 学 校	-----	81

## II 学校改善支援プラン

1 作成に当たって	-----	95
2 活用について	-----	95
3 総論	-----	96
4 各論	-----	98

## III 資料

# I 平成19年度全国学力・学習状況調査について

## 1 調査概要

### (1) 目的

- 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図り、併せて児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげる。

### (2) 調査日時 平成19年4月24日(火)

#### 【小学校】

1 時限(45分)	2 時限(45分)	3 時限(45分)	4 時限 (45分)
国語A(20分) 算数A(20分)	国語B(40分)	算数B(40分)	質問紙調査(40分)

#### 【中学校】

1 時限(50分)	2 時限(50分)	3 時限(50分)	4 時限(50分)	5 時限 (50分)
国語A(45分)	国語B(45分)	数学A(45分)	数学B(45分)	質問紙調査(45分)

### (3) 4月24日に調査を実施した学校・児童生徒数

学 年	学 校 数	児 童 生 徒 数
小学校第6学年	市町立小学校 324校 特別支援学校 1校	児 童 12,916人
中学校第3学年	县市町立中学校 160校 中等教育学校 1校 特別支援学校 3校	生 徒 12,440人

#### (4) 調査内容

##### ① 教科に関する調査（国語、算数・数学）

問題A…主として「知識」に関する問題

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等を中心とした出題

問題B…主として「活用」に関する問題

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等にかかわる内容を中心とした出題

##### ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

ア 児童生徒に対する調査【小…99項目 中…101項目】

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等

イ 学校に対する調査【105項目】

学校における指導方法等に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況及び児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等

#### (5) 用語について

語句	説明
平均正答数	児童生徒の正答数の平均
平均正答率	平均正答数を百分率で表示 ○国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学Bごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数） ○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率
解答類型	各設問についての正答、予想される誤答等の解答状況を分類し整理したもの

## 2 調査結果

### (1) 結果分析にあたっての基本的な考え方

各教育委員会、学校等が、調査結果を十分活用して自らの教育及び教育施策の成果や課題等を具体的に把握・検証できるよう、児童生徒の学力・学習状況等について多面的な分析を行う。

#### ① 教科の調査について

平均正答数、平均正答率等の数値による分析だけではなく、児童生徒の正答数の分布の形状等から全体的な状況を把握したり、設問別や解答類型別の結果から個々の設問における誤答や無解答の状況を分析するなど、それぞれの状況に即し、多面的な分析を行い、学習指導上の課題等を明らかにする。

#### ② 質問紙調査【児童生徒・学校】について

児童生徒の学習意欲・学習環境・生活習慣等、学校の指導方法に関する取組や教育条件の整備の状況について、全国の状況との比較や教科の正答率及び正答数との関連を、学校改善支援プラン作成に資する項目について詳細に分析する。

各質問項目と教科調査の正答数との関係については、統計的な処理<sup>\*1</sup>を行い、選択肢ごとの正答数に有意差がある質問項目について考察する。統計処理の全体的な結果は資料として示す。

#### ③ 留意事項

ア 本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることを考慮する。

イ 調査結果については、序列化や過度な競争につながらないように配慮する。

ウ 教科の正答率と質問紙調査結果の関係については、データから読み取れる内容と実際の状況とをよく照らし合わせて分析する。

---

#### \*1○ 児童生徒質問紙調査

- ・ 全国と山口県の比較：カイ二乗検定
- ・ 各質問項目の回答選択肢と各児童生徒の正答数の関係：分散分析後、各選択肢別の平均正答数の詳細についてTukey法で多重分析

#### ○ 学校質問紙調査

- ・ 各質問項目の回答選択肢と各学校の平均正答数の関係：分散分析後、各選択肢別の平均正答数の詳細についてTukey法で多重分析
- ・ 全国で平均正答率が高い傾向がある5県、低い傾向がある5県と山口県の比較：カイ二乗検定

- 統計分析によって1%水準の有意差があった項目は「\*\*」、5%水準の有意差があった項目は「\*」を資料に記載（1%水準がより精度の高い有意差）

## (2) 教科に関する結果

### ① 小学校国語

#### ア 全体的な結果について

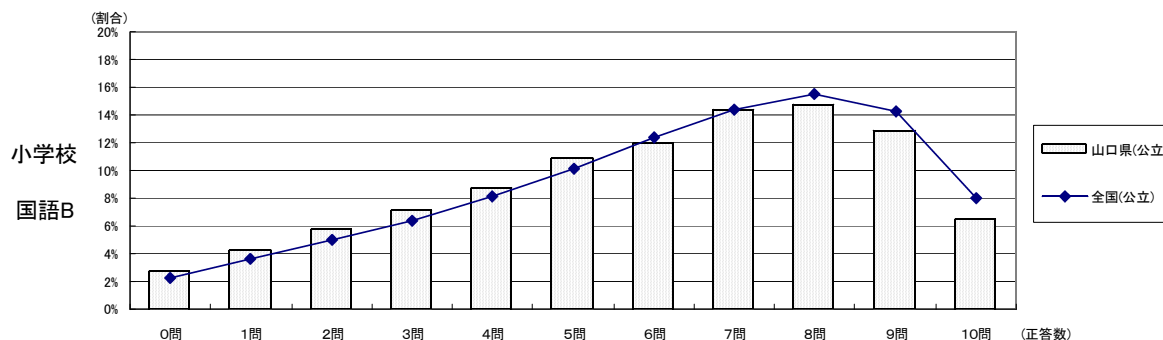
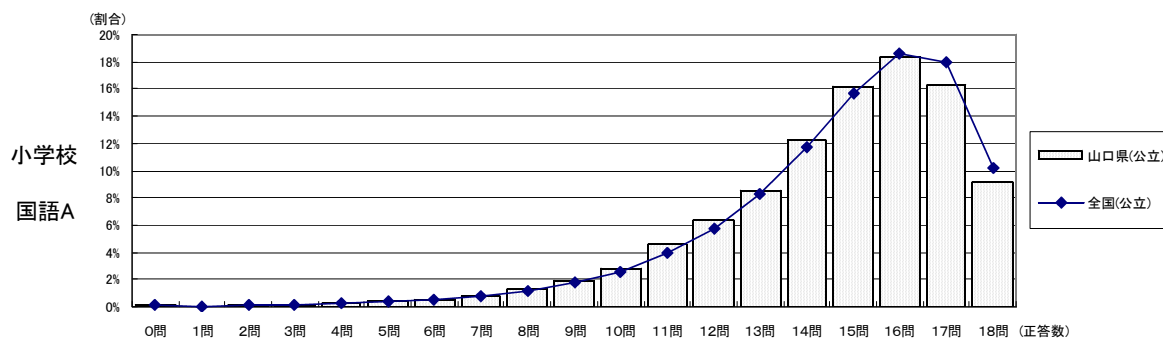
「知識」に関する問題については、相当数の児童が今回出題されている学習内容を理解しているが、「活用」に関する問題については、「知識」に関する問題に比べ、平均正答率が低く、知識・技能を活用する力に課題がみられる。

	国語A (主として「知識」に関する問題)		国語B (主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数(問・18問中)	平均正答率(%)	平均正答数(問・10問中)	平均正答率(%)
山口県	14.5	80.6	6.0	60.0
全国	14.7	81.7	6.2	62.0

#### イ 正答数の分布について

正答数の分布については、いずれの問題についても右よりの単峰分布の形状となっているが、「活用」に関する問題では、「知識」に関する問題に比べて正答数の少ない児童の割合が高い。

全国の場合と比べると、正答数の多い児童の割合が、低い傾向がみられる。

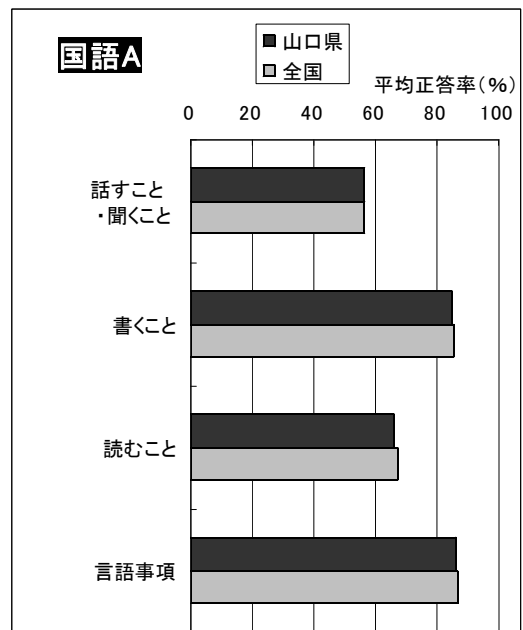


## ウ 学習指導要領の領域ごとの結果

- 「知識」に関する問題では、「書くこと」及び「言語事項」の領域について85%前後の平均正答率であり相当数の児童が学習内容を理解しているが、「話すこと・聞くこと」の領域については、平均正答率が56.1%であり課題がみられる。
- 「活用」に関する問題では、「書くこと」及び「読むこと」の領域について、平均正答率が60%に満たない状況である。
- 「書くこと」については、「知識」に関する問題の平均正答率が84.6%であるのに対し、「活用」に関する問題の平均正答率が58.5%と低く、知識・技能を活用して書くことに課題がみられる。

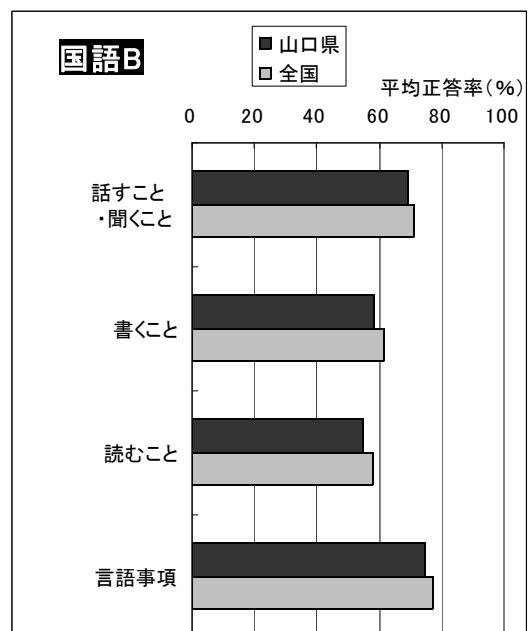
学習指導要領の領域	国語A（知識）	
	山口県	全国
話すこと・聞くこと	56.1	56.6
書くこと	84.6	85.3
読むこと	66.1	67.3
言語事項	85.8	86.8

平均正答率（%）



学習指導要領の領域	国語B（活用）	
	山口県	全国
話すこと・聞くこと	69.0	70.9
書くこと	58.5	61.7
読むこと	55.0	57.7
言語事項	74.7	77.0

平均正答率（%）

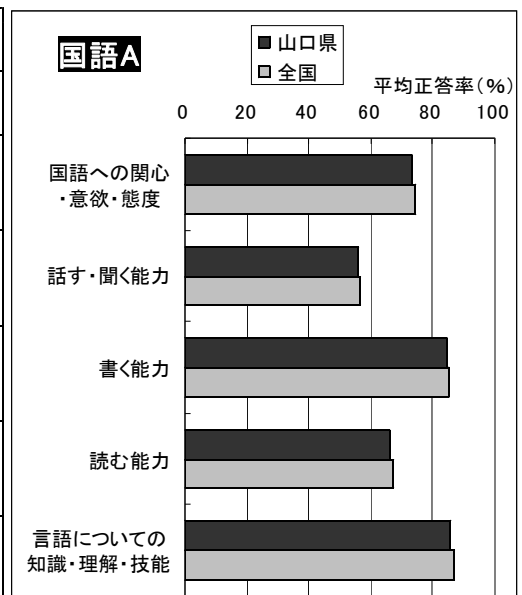


## エ 評価の観点ごとの結果

- 「知識」に関する問題では、「書く能力」及び「言語についての知識・理解・技能」の観点の平均正答率が85%前後であり、相当数の児童が学習内容を理解している。
- 「活用」に関する問題では、「言語についての知識・理解・技能」の観点の平均正答率が74.7%と最も高く、「読む能力」の観点の平均正答率が55.0%で最も低い。
- 「国語への関心・意欲・態度」の観点は、「知識」に関する問題で73.0%であるのに対して、「活用」に関する問題では64.7%と8.3ポイント低い。

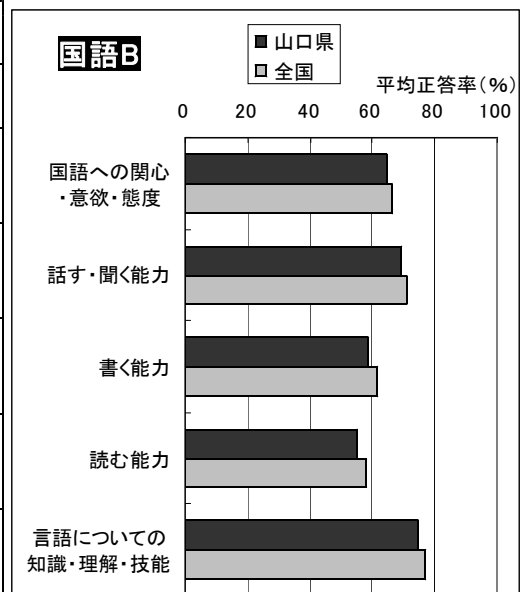
評価の観点	国語A (知識)	
	山口県	全国
国語への関心・意欲・態度	73.0	74.7
話す・聞く能力	56.1	56.6
書く能力	84.6	85.3
読む能力	66.1	67.3
語についての知識・理解・技能	85.8	86.8

平均正答率 (%)



評価の観点	国語B (活用)	
	山口県	全国
国語への関心・意欲・態度	64.7	66.3
話す・聞く能力	69.0	70.9
書く能力	58.5	61.7
読む能力	55.0	57.7
語についての知識・理解・技能	74.7	77.0

平均正答率 (%)



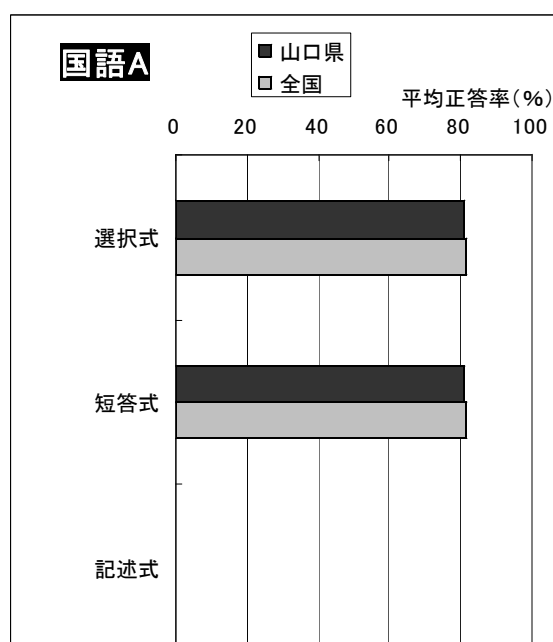


## オ 問題形式ごとの結果

- 「知識」に関する問題では、「選択式」、「短答式」両方の問題について平均正答率が80%を上回っており、問題形式による違いはみられない。
- 「活用」に関する問題では、「選択式」、「短答式」、「記述式」のいずれも平均正答率が60%前後であり、全国と比べ、「短答式」の平均正答率が3ポイント低い。
- 「短答式」の問題については、平均正答率が「知識」に関する問題で80.8%であるのに対して、「活用」に関する問題では59.4%であり、内容により差がみられる。

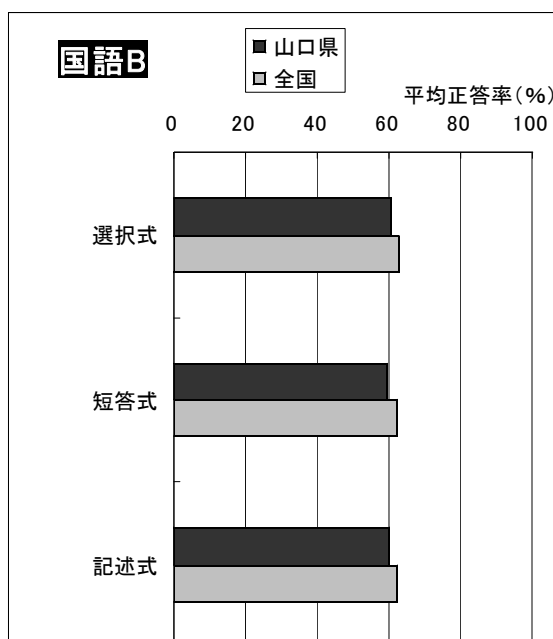
問題形式	国語A（知識）	
	山口県	全国
選択式	80.8	81.6
短答式	80.8	81.8
記述式	—	—

平均正答率（%）



問題形式	国語B（活用）	
	山口県	全国
選択式	60.7	62.8
短答式	59.4	62.4
記述式	59.9	62.1

平均正答率（%）



# カ 設問ごとの結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			山口県(公立)		全国(公立)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)
<b>国語A</b>																	
1ー(1)	漢字を読む(リーダーとして勝利に導く)				○					○	○		95.5	1.5	95.2	1.8	
1ー(2)	漢字を読む(話し合いを重ねる)	学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を正しく読む			○					○	○		95.6	1.4	96.2	1.3	
1ー(3)	漢字を読む(責任をもつ)				○					○	○		97.2	1.3	97.1	1.3	
1二(1)	漢字を書く(みんなできょうりょくする)				○					○	○		94.0	1.8	94.3	1.7	
1二(2)	漢字を書く(先生にぞうだんする)	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく書く			○					○	○		54.8	8.0	58.0	7.7	
1二(3)	漢字を書く(魚を空く)				○					○	○		68.5	4.9	70.7	4.6	
2一	文脈に適した接続語を選択する(順接)				○					○	○		98.5	0.2	98.6	0.2	
2二	文脈に適した接続語を選択する(添加)	文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を正しく使う			○					○	○		98.4	0.2	98.3	0.2	
2三	文脈に適した接続語を選択する(逆接)				○					○	○		99.0	0.2	99.1	0.2	
3一	指示語の指し示す内容を選択する(語句)	指示語の種類や役割を押さえた上で、文脈の中における働きを理解している			○					○	○		92.0	0.3	92.6	0.3	
3二	指示語の指し示す内容を選択する(内容)				○					○	○		86.5	0.5	88.5	0.4	
4	漢字辞典の効率よい調べ方を選択する	調べたい事柄について、辞書を効率よく利用する			○	○				○	○		79.0	0.5	81.2	0.4	
5	一文を二文に分けて書く	物語の主人公について一文で書かれた内容を理解し、一文を二文の構成にして書き換える			○	○				○	○		55.8	5.3	57.8	4.4	
6	インタビューのメモの工夫を選択する	話の要点を聞き取り、効率よくメモを取る	○				○	○					55.4	0.5	57.5	0.6	
7	スピーチでの聞き手に分かりやすい話し方を選択する	聞き手にとって分かりやすいスピーチにするために大切なことを理解している	○					○					56.8	0.7	55.7	0.8	
8	べっこうあめ作りの感想を、作り方の説明書にする	目的や様式に応じて必要な事柄を選んで、文章を書き換える		○			○						84.6	3.7	85.3	3.5	
9	説明文の一部を読んで、内容に合うものを選択する	説明文の段落の内容をとらえる			○					○			80.7	2.7	81.0	2.9	
10	物語の一部を読んで、登場人物の心情として適切なものを選択する	物語文の登場人物の心情について、表現や叙述に即して読む			○					○			61.7	4.0	63.1	4.2	
<b>国語B</b>																	
1一	話し合いの内容を整理した司会者の発言を書く	司会者として発言者の提案を聞き、内容を整理する	○					○					59.8	6.0	62.9	4.9	
1二	司会者の進行の良いところを書く	司会者として発言者の意見や提案を受け止め、出席者が納得いくように進行する	○				○	○					78.1	7.4	79.0	6.9	
2一	グラフを読み取り、文章中の空欄に適切な数字をあてはめる	文章とグラフにまとめられた事実を関係付けて読む			○					○			57.1	3.0	60.8	2.2	
2二	古紙の再生利用が重要な課題となってきた理由を書く	取り上げた事実が、どのような理由で述べられているかについての確に読み、その理由を要約する		○	○				○	○			40.6	4.7	45.4	4.0	
2三(1)	古紙を回収に出すときに守ることを新聞に書く	情報の中から必要な事柄を取り出し、新聞の一部に注意点として書き換える		○	○					○			45.9	13.6	49.0	11.5	
2三(2)	ごみを減らすための取り組みを考えて80字以上120字以内で書く	自分の考えを決められた字数で、記事として具体的に提案する		○	○		○	○			○		72.8	12.0	75.2	10.4	
3一(1)	同じ本を読んで書いた2人の感想文から、共通する書き方の良いところを書く	二つの文章を比べて読み、共通する書き方のよさや工夫を評価し、自分の考えとしてまとめる			○		○			○			54.9	13.5	55.9	13.2	
3一(2)					○		○			○			53.2	17.8	54.9	17.5	
4一	広告の情報を読み取って、正しい内容を選択する	広告の情報を的確に読み取り、正しく説明する			○					○			60.7	7.1	62.8	6.7	
4二	客に対する勧誘の表現を適切に改めて書く	客に対する勧誘の表現や敬意表現を適切に用いる		○	○					○	○		74.7	9.8	77.0	9.4	

キ 課題と学習指導上の改善点

「知識」に関する問題

- 既習漢字を読むこと・書くこと

文脈に沿って読むことについては、相当数の児童が理解しているが、書くことについては、日常生活で活用することが少ない文字について課題がみられる。

【正答率 54.8%】

1

一 次の(1)から(3)の文の——部の漢字をひらがなに直して書きましょう。

(1) リーダーとして勝利に導く。

(2) 話し合いを重ねる。

(3) 責任をもつ。

二 次の(1)から(3)の文の——部のひらがなを漢字に直して、ていねいに書きましょう。

(1) みんなできょうりよくする。

(2) 先生にそうだんする。

(3) 魚をやく。

国語A 1 二(2) 解答類型		反応率 (%)	正答
1	「相談」と解答しているもの	54.8	◎
2	「相」と解答しているが、「談」と解答していないもの	4.1	
3	「相」と解答していないが、「談」と解答しているもの	24.8	
4	「相談」と解答していないもの	8.2	
5	上記以外の解答	0.1	
6	無解答	8.0	

【学習指導上の改善点】

- 「相談」については、「談」よりも「相」を書き違える児童の割合が高い。漢字を文章の中で活用できるようにする指導を大切にするとともに、既習漢字についても、様々な場面をとらえて繰り返し指導していくことが大切である。
- 同音異義語や類似した字形等を区別して的確に使えるようにすることが大切である。特に、漢字の指導場面で、同音異義語や類似した字形の漢字を組み入れた指導が必要である。

○ 取り出した情報の条件に合わせた書き換え

一文を二文の構成に書き換えることに課題がみられる。【正答率 55.8%】

5

次の□の中の——部には、二つの内容がくまれています。「ごん」を主語にして、二つの文に分けて書きましよう。

「ごんは、ひとりぼっちの小ぎつねで、しだのいっばいしげった森の中に、あなをほって住んでいました。そして、夜でも昼でも、辺りの村へ出てきて、いたずらばかりしました。」

(新編 美濃古「ごんぎつね」による)

国語 A 5 解答類型		反応率 (%)	正答
(正答の条件) 次の条件を満たして、二文に分けて書いているもの ① (ごんは、) ひとりぼっちの小ぎつねでした。 ② (ごんは、) しだのいっばいしげった森の中に、あなをほって住んでいました。			
1	①②の両方を満たして解答しているもの	55.8	◎
2	①は満たしているが、②は満たさないで解答しているもの	8.0	
3	①は満たしていないが、②は満たして解答しているもの	10.1	
4	①、②のいずれも満たさないで解答しているもの	20.8	
5	無解答	5.3	

【学習指導上の改善点】

- 誤答の中で、二つの条件に気が付いて二文に書き換えていないものが多いことから、文の中での語句の係り方や照応の仕方を押さえること、文の構成についての理解の定着を図ることなどが大切である。例えば、物語文の中で一文を取り上げ、主語と述語を見付ける活動や一文を内容ごとに分けて書く活動等が必要である。
- 物語を読むときは、主人公の心情や考え方等を叙述に即してとらえさせることが大切である。その際、人物の行動や場面の様子等を押さえておくことが大切である。

「活用」に関する問題

○ 段落構成を踏まえた理由の要約

説明文の中から取り上げた事実と関係の深い文を取り出して、要約して書くことに課題がみられる。【正答率 40.6%】

2

川本さんの学級では、ごみを減らす取り組みの一つとして、身近な紙の問題を調べ、新聞にまとめて書くことになりました。そこで、紙についての資料を集めました。次の資料を読んで、あとの問いに答えましょう。

資料1

1 家庭や地域などから毎日のようにさまざまなごみが出されます。ごみの量をこれ以上増やさないようにするために、わたしたちに何が出来るでしょうか。また、資源として大切に使うために、どのようなことが出来るでしょうか。身近な紙の問題を調べて考えてみましょう。

2 紙は、わたしたちのくらしの中でなくてはならないものであると同時に、産業や文化を支える大事な働きをしています。トイレットペーパーやティッシュペーパーなどは、生活用品として、また、新聞や雑誌、本などは、情報と知識を伝えるものとして、はば広く使われています。

3 一般に紙は、「紙」と「板紙(厚手の紙のこと)」に区別されます。新聞、雑誌、印刷用紙、コピー用紙、ノート、ティッシュペーパーなどは、「紙」に区別されます。段ボールや紙箱用のボール紙などは、「板紙」に区別されます。

4 日本の紙と板紙の生産量は、二〇〇二年(平成十四年)には、世界第ア位となっています。そのほとんどは国内で消費されています。

5 社会や経済の発展にともない、紙はより多くの分野で使われるようになり、新しく木から作り出す紙だけでは不足するようになってきました。そこで、一度使い終わった紙を古紙として、再生利用することが世界的に重要な課題となってきました。紙の原料である森林を守るためにも、古紙を利用して、むやみに木を切ることがないようにする必要があります。

6 古紙には、新聞紙、雑誌、段ボール、紙パックなど、いくつかの種類があります。中でも、新聞紙、雑誌、段ボールの三種類が、古紙の大部分をしめています。

7 古紙の再生の方法としては、同じ種類の紙に生まれ変わることが多くなっています。段ボールの古紙は段ボールに、新聞紙の古紙は新聞紙になります。そのため、同じ種類の古紙はひもでくくり、まとめて回収に出すことが大事です。また、水にぬれていると再生しにくくなったり、金属が付いていると手回りがかかってしまったりします。回収に出すときに少し気をつけることで、古紙の再生に役立ちます。

8 このように、わたしたちの身近なところから古紙の再生を進めていくことは重要です。古紙を使って紙を生産し、古紙からできた紙をさらに再生利用することで紙のごみを減らし、資源を有効に活用することができます。わたしたちの身近なところからごみを減らすことを考えて、取り組んでいくことが必要ではないでしょうか。

二 資料1の第5段落に、「一度使い終わった紙を古紙として、再生利用することが世界的に重要な課題となってきました」と書いてありますが、なぜ、重要な課題となってきたのですか。その理由を本文中から探して、二つ書きましょう。

(ア)も、正解は、解答用紙に書きましょう。

国語B 2 二 解答類型		反応率 (%)	正答
(正答の条件) 次の二つの条件を両方とも満たしていること ①新しく木から作り出す紙だけでは不足するようになってきたこと ②森林を守るためにも、古紙を利用して、むやみに木を切ることがないようにする必要があること			
1	①と②の2つを満たしているもの	40.6	◎
2	①は満たしているが、②を満たしていないもの	16.1	
3	①は満たしていないが、②を満たしているもの	25.8	
4	両方とも満たしていないもの	12.5	
5	上記以外の解答	0.3	
6	無解答	4.7	

【学習指導上の改善点】

- 誤答の中で、①の「作り出す紙の不足」を満たしていないものが多いことから、前後の文脈や前時の学習との関連を踏まえて考えさせる指導が大切となる。例えば、問題文と関係の深い文を抜き出させるなどの活動が必要である。
- 筆者の主張や整理した事柄が、どのような理由や根拠によって述べられているかをとらえさせるためには、前後の文脈、段落と段落との相互関係、文章全体の構成等を踏まえて要約する指導が大切である。例えば、重要語句を意識させ、字数制限を設けて記述させるなどの活動が考えられる。

○ 取り出した情報の条件に合わせた書き換え

情報の中から必要な事柄を取り出し、条件（新聞の内容に合わせる）に応じて書き換えることに課題がみられる。【正答率 45.9%】

国語B 2 三 (1) 解答類型		反応率 (%)	正答
(正答の条件) 次の両方またはいずれかを満たしているもの ①古紙はかわかしてから回収に出すこと ②金属を取り外してから回収に出すこと			
1	①②の両方を満たして解答しているもの	36.6	◎
2	①②のいずれかを満たして解答しているもの	9.3	○
3	①②のいずれも満たさないで解答しているもの	40.2	
4	上記以外の解答	0.3	
5	無解答	13.6	

【学習指導上の改善点】

- 誤答には、条件を満たしていないものが多く、資料1の文章の一部を抜き出しているだけの解答が多いと考えられる。また、無解答率も高いことから、与えられた条件を的確に把握する指導が大切となる。例えば、課題の意味を問う学習や友達の発言が課題に即しているかを吟味する学習等が必要である。
- 取り出した情報を与えられた条件に応じて書くなどの活動が大切である。その際、字数や表現様式等の様々な条件を設定して書き換える活動も考えられる。

○ 二つの文章を比べての評価

二つの文章を比べて読み、共通する書き方のよさや工夫を見付け出し、自分の考えにまとめることに課題がみられる。

【正答率 設問1 54.9% 設問2 53.2%】

＜高橋さんが書いた感想文＞

わたしは、「相手のきげんをとったり、合わせた  
りするのは、本当の友達とはいえない。」という主  
人公あゆみの言葉をうまく受け入れられません。  
この本を読んで、人と人がつながることのむず  
かしさを改めて考えました。  
あゆみは、親友どうまういなくなつたとき、  
今までとはちがう見方をしました。少しずつはな  
れていく関係になやみながらも、新しく友達との  
関係をつくることができました。いつまでも考え  
こまず、気持ちを切りかえるようにしたのです。  
あゆみは自分にとって本当の友達とは何かとい  
うことこの答えを見つけたのです。  
わたしも、あゆみと同じような体験をしたこと  
があるのですが、うまくいきませんでした。広く  
人とかかわり、新しく友達を見つけていくことは  
大事です。だからといって、すぐに気持ちを切り  
かえるのはかんたんではありません。これからも、  
人と人とのつながりについて、考えていきたいと  
思います。

＜青木さんが書いた感想文＞

主人公あゆみの印象的な言葉。「いつもそばに  
いていっしょに行動することだけが友達じゃない。  
ときにはきよりを置き、友達を見守ることが大切  
だ。」わたしは、この本を読んで、はげまされ、勇  
気をもらいました。  
あゆみは、親友とささいなことでけんかをしま  
す。少しずつ二人の心ははなれてしまい、落ちこ  
んでいきます。そんなとき、全く気が合わないと  
決めつけていた別の友達が、「気にしすぎだよ。  
そのうち、仲良くなれるよ。」と声をかけてきま  
した。話すことが少なかった友達が、声をかけて  
くれたことで、あゆみは元気づけられ、前向きな気  
持ちになれたのでした。  
わたしは、この本と出会ってから、いろいろな  
人と広くかかわることができるようになりました。  
少しのけんかは気にせずに、できるだけ多くの友  
達をつくろうと思います。この本に出会うことが  
できて、本当によかったです。

3  
中川さんの学級では、夏休みに読んだ本の中で心に残ったものを感想文に書き、図書新聞にのせることにしました。先生が、感想文の書き方の勉強になるように二人の感想文をしようか  
いしました。同じ本について書いた二人の感想文を読んで、あとの問いに答えましょう。

先生は、この二人の感想文はどちらも良い書き方だと思いましたが、二つ書きました。二人  
に共通する良い書き方とは、どのようなことですか。二つ書きました。  
※メモは、次のページにあります。

国語B 3 解答類型		設問1 反応率 (%)	設問2 反応率 (%)	正答
(正答の条件) 以下のいずれかを満たしているもの ①体験をもとにした感想や意見、決意が明確であること ②引用や要約をしていること ③段落構成や言葉の使い方を工夫していること				
1	①②③の複数あるいはいずれかを満たして解答しているもの	54.9	53.2	◎
2	①②③の内容のいずれも満たさないで解答しているもの	31.0	28.5	
3	上記以外の解答	0.6	0.5	
4	無解答	13.5	17.8	

【学習指導上の改善点】

- 誤答には、条件を満たさずに解答しているものが多いことから、よさを具体的に  
取り上げず、「よく書けている」など漠然と評価した解答が多いと考えられる。  
例えば、学習場面において、あいまいな発言の具体を問うなど、条件に応じた的  
確に書くことを指導する必要がある。
- 複数の文章や資料を取り上げ、観点を設定して比べて読むなど、評価しながら  
読む活動を充実させることが大切である。また、観点に沿って大事なことを取り  
出した上で、自分なりに考えたことを簡潔に書くなどの指導が必要である。

- 15 -

## ク 質問紙調査とのクロス集計結果

- 読書習慣が定着している児童は、平均正答率が高い傾向がみられた。
- 国語の勉強が好きだと思う児童、国語の勉強を大切だと思う児童は、そうは思わない児童に比べ、「活用」に関する問題で平均正答率が20ポイント前後高い。
- 国語の授業で資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている児童は、話したり書いたりしていない児童に比べ、「活用」に関する問題で平均正答率が20ポイント以上高い。

家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、読書をしますか。

選択肢	児童数	割合	平均正答率 (%)	
			国語A (18問)	国語B (10問)
1 2時間以上	697	5.4	81.1	64.0
2 1時間以上, 2時間より少ない	1,396	10.8	82.2	64.0
3 30分以上, 1時間より少ない	2,654	20.6	83.3	64.0
4 10分以上, 30分より少ない	3,190	24.7	82.8	63.0
5 10分より少ない	2,164	16.8	78.9	56.0
6 全くしない	2,780	21.6	77.2	53.0

国語の勉強は好きですか。

選択肢	児童数	割合	平均正答率 (%)	
			国語A (18問)	国語B (10問)
1 当てはまる	2,798	21.7	84.4	66.0
2 どちらかといえば、当てはまる	4,576	35.5	82.2	62.0
3 どちらかといえば、当てはまらない	3,696	28.7	80.0	58.0
4 当てはまらない	1,815	14.1	73.3	49.0

国語の勉強は大切だと思いますか。

選択肢	児童数	割合	平均正答率 (%)	
			国語A (18問)	国語B (10問)
1 当てはまる	7,950	61.7	82.8	63.0
2 どちらかといえば、当てはまる	3,711	28.8	79.4	57.0
3 どちらかといえば、当てはまらない	917	7.1	73.3	48.0
4 当てはまらない	305	2.4	68.3	39.0

国語の授業で資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。

選択肢	児童数	割合	平均正答率 (%)	
			国語A (18問)	国語B (10問)
1 している	2,163	16.8	84.4	68.0
2 どちらかといえば、している	5,441	42.2	82.2	63.0
3 どちらかといえば、していない	4,368	33.9	79.4	56.0
4 していない	908	7.0	71.7	43.0



## ケ 全体的な考察と指導の工夫

平均正答率については、「知識」「活用」とも、全国平均より若干低い状況であり、「活用」に関する問題の方がその差は大きい。また、正答数の分布では、正答数の多い児童の割合が低い。

- 内容を的確に把握させるために、言語事項の定着を図り、知識・技能を生活に生かす指導を工夫することが大切である。
- 文章に対する自分なりの考えをもたせるために、複数の資料から情報を取り出す活動や与えられた条件に応じて書き換える活動等を大切にしたい。
- 自分がまとめた考えを吟味したり、課題の意図と考えの整合性について振り返ったりする場を設けることが大切である。

「知識」に関する問題では、言語事項や体験に基づいて考えを書くこと等は、相当数の児童ができている。しかし、メモの取り方や文の分割など60%を下回る問題もあり、内容により差がみられる。

- 基礎的、基本的な事項の定着のために、漢字の読み書き、接続語の使用、指示語の内容、体験に基づいて書くこと等を今後も継続して指導することが大切である。
- 学習したことを他の場面で使えるようにするために、インタビューや物語文の読み取り等の活動において学習内容を明確にし、振り返り活動等でポイントを押さえて指導することが大切である。

「活用」に関する問題では、自分の考えをある程度の字数で書いたり、司会者のよさを見付けたりする問題はできている。しかし、文章の内容と資料の情報とを関係付けて読み取ることや、二つの文章の共通点を端的にまとめることに課題がみられる。

- 複数の資料から必要な情報を読み取り的確にまとめるために、複数の文章や文章と資料とを関係付けて読み取る活動、読み取ったことを観点に沿ってまとめる活動、考えを書く活動等を充実させることが大切である。
- 文章とともにグラフや図・表等の非連続型テキストを取り上げ、読み取った情報を関係付けながら考察を加えること、また、その考察について検討し合う活動を仕組むことが大切である。

読書習慣が定着している児童、国語の勉強が好き、国語の勉強は大切であると感じている児童は、そうでない児童に比べて「活用」に関する問題の平均正答率が高い。

- 学習に対しての必要感を高めるために、授業において、資料を読み、自分の考えを話したり書いたりする活動と生活場面とを結び付ける工夫が大切である。
- 読書習慣を定着させるために、何をどう読むかの読解指導とあわせ、本に親しむ態度を培うなど読書指導を充実させることが大切である。

## ② 小学校算数

### ア 全体的な結果について

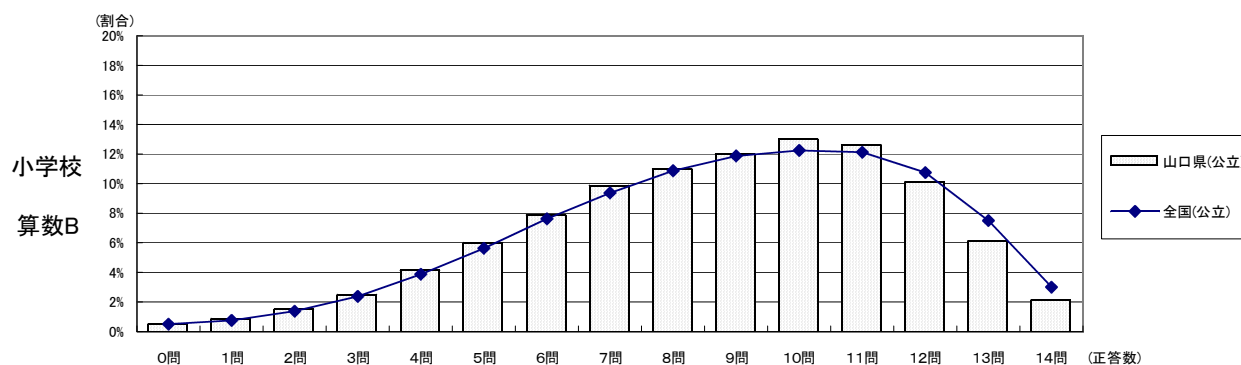
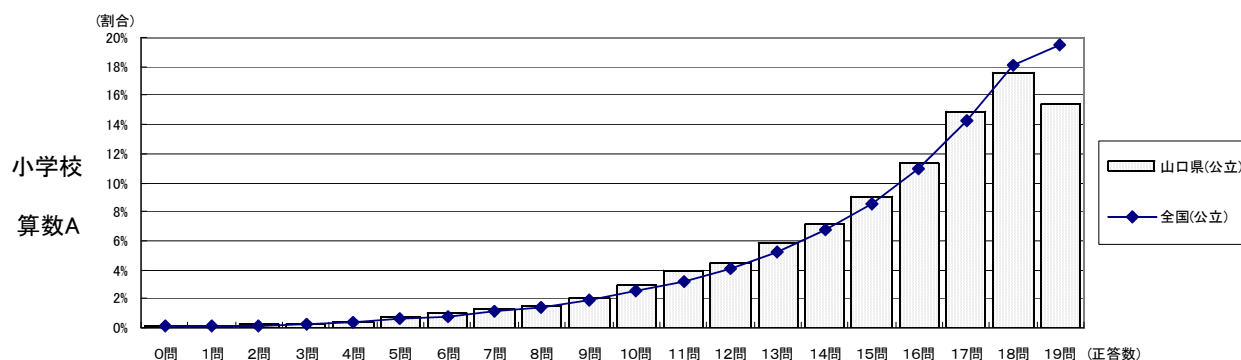
「知識」に関する問題については、相当数の児童が今回出題されている学習内容を理解しているが、「活用」に関する問題については、「知識」に関する問題に比べ平均正答率が低く、知識・技能を活用する力に課題がみられる。

	算数A (主として「知識」に関する問題)		算数B (主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数(問・19問中)	平均正答率(%)	平均正答数(問・14問中)	平均正答率(%)
山口県	15.3	80.5	8.7	62.1
全国	15.6	82.1	8.9	63.6

### イ 正答数の分布について

正答数の分布については、「知識」に関する問題は、右よりの単峰分布の形状、「活用」に関する問題では、平均正答数より少し右よりの単峰分布の形状となっている。

各正答数の児童の割合は、全国平均と概ね同じ傾向がみられるが、「知識」「活用」とともに、正答数の多い児童の割合が、全国平均よりも低い傾向がみられる。

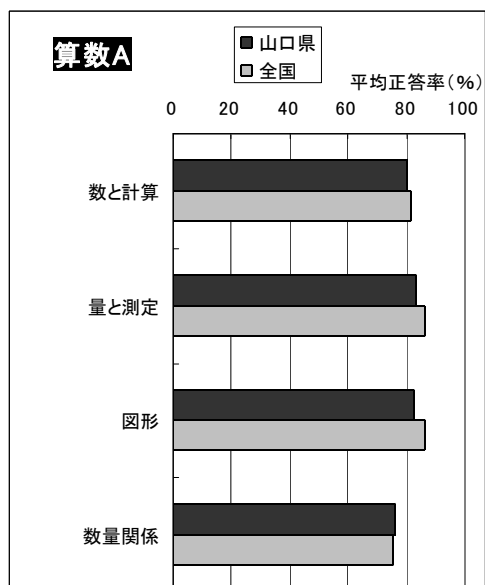


## ウ 学習指導要領の領域ごとの結果

- 「知識」に関する問題の「数と計算」「量と測定」「図形」の3領域については、全国の平均正答率よりは低いものの、各平均正答率が80%以上で、相当数の児童が学習内容を理解している。
- 「活用」に関する問題では、「図形」領域の平均正答率が71.3%と最も高く、「量と測定」領域の正答率が55.3%と最も低い。
- 「量と測定」領域は、「知識」に関する問題では83.5%で、他の領域よりも平均正答率が高い半面、「活用」に関する問題では55.3%で、他の領域よりも平均正答率が低い。

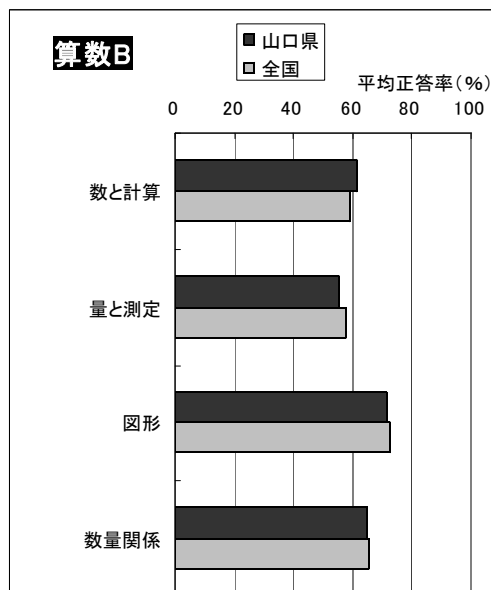
学習指導要領の領域	算数A（知識）	
	山口県	全国
数と計算	80.0	81.5
量と測定	83.5	86.1
図形	82.5	86.1
数量関係	76.0	75.4

平均正答率（%）



学習指導要領の領域	算数B（活用）	
	山口県	全国
数と計算	61.6	58.9
量と測定	55.3	58.0
図形	71.3	72.5
数量関係	64.8	65.5

平均正答率（%）

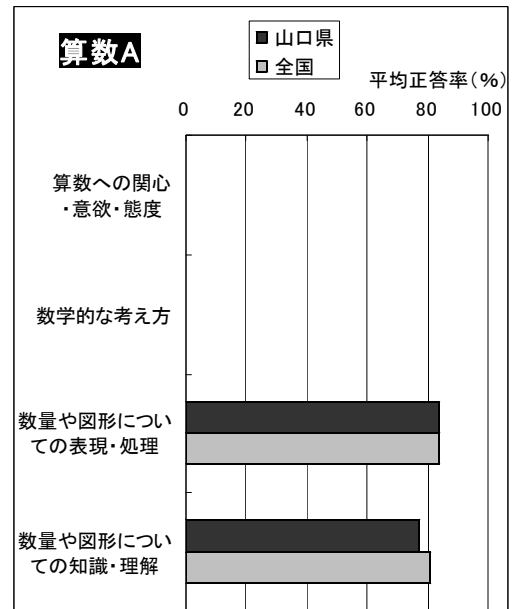


## エ 評価の観点ごとの結果

- 「知識」に関する問題では、「数量や図形についての表現・処理」の観点の平均正答率が84.0%で、相当数の児童が学習内容を理解している。
- 「活用」に関する問題では、「数量や図形についての知識・理解」の観点の平均正答率が72.4%で最も高く、「数学的な考え方」の観点の平均正答率が58.8%で最も低い。
- 「数量や図形についての知識・理解」の観点は、「知識」に関する問題では、平均正答率が77.5%で「数量や図形についての表現・処理」よりも低い、「活用」に関する問題では、他の領域よりも高い。

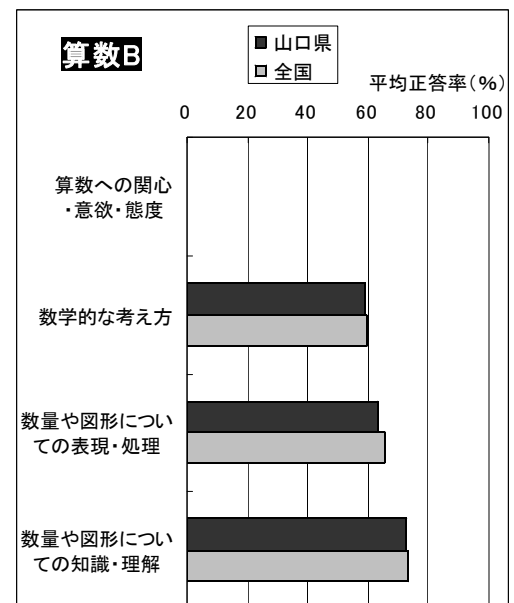
評価の観点	算数A（知識）	
	山口県	全国
算数への関心・意欲・態度	—	—
数学的な考え方	—	—
数量や図形についての表現・処理	84.0	83.6
数量や図形についての知識・理解	77.5	80.7

平均正答率（%）



評価の観点	算数B（活用）	
	山口県	全国
算数への関心・意欲・態度	—	—
数学的な考え方	58.8	59.6
数量や図形についての表現・処理	63.2	65.5
数量や図形についての知識・理解	72.4	73.2

平均正答率（%）

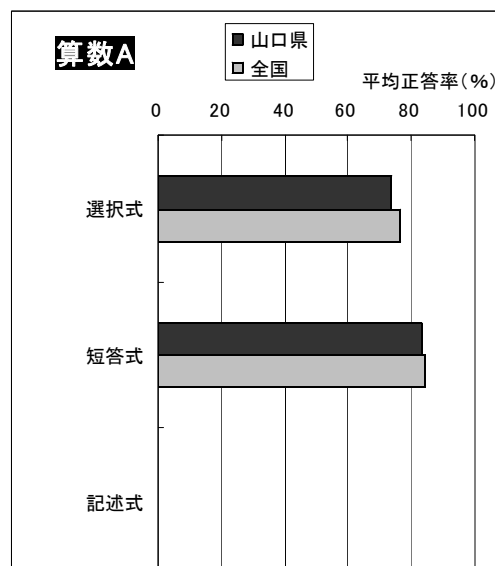


## オ 問題形式ごとの結果

- 「知識」に関する問題については、「選択式」の問題よりも「短答式」の問題の方が平均正答率が高い。
- 「活用」に関する問題では、「記述式」の問題の平均正答率が43.8%で、他の問題形式の平均正答率よりも低い。
- 「短答式」の問題については、「知識」に関する問題では83.1%、「活用」に関する問題では、73.1%で、いずれの問題においても他の問題形式よりも平均正答率が高い。

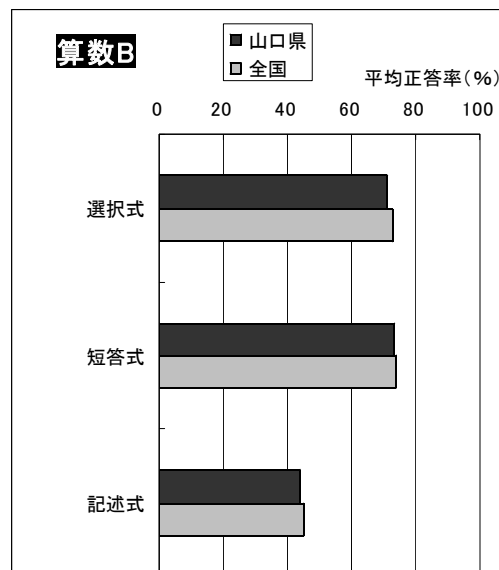
問題形式	算数A（知識）	
	山口県	全国
選択式	73.6	76.5
短答式	83.1	84.1
記述式	—	—

平均正答率（%）



問題形式	算数B（活用）	
	山口県	全国
選択式	71.3	73.0
短答式	73.1	73.7
記述式	43.8	45.0

平均正答率（%）



# カ 設問ごとの結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			山口県(公立)		全国(公立)		
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
算数A																	
1(1)	28+72を計算する	繰り上がりのある加法の計算をすることができる	○						○		○			98.2	0.1	98.3	0.1
1(2)	27×3.4を計算する	整数と小数の乗法の計算をすることができる	○						○		○			84.8	0.4	85.5	0.5
1(3)	9.3×0.8を計算する	小数と小数の乗法の計算をすることができる	○						○		○			84.8	0.6	84.7	0.6
1(4)	12÷0.6を計算する	整数と小数の除法の計算をすることができる	○						○		○			73.5	1.1	72.7	1.2
1(5)	1-5/8を計算する	同分母の分数の減法の計算をすることができる	○						○		○			94.7	0.9	93.8	1.2
1(6)	3/7+4/7を計算する	同分母の分数の加法の計算をすることができる	○						○		○			98.3	0.3	98.4	0.4
1(7)	6+0.5×2を計算する	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる	○			○			○		○			68.2	1.1	68.9	1.1
2	正方形の面積の2/3が塗られている図を選ぶ	分数の意味について理解している	○							○	○			86.2	0.2	89.3	0.2
3(1)	7/10を数直線上に表す	真分数を数直線上に表すことができる	○							○	○			93.5	1.2	95.0	0.9
3(2)	0.5, 7/10, 4/5のうち最大の数を、数直線上に表す	三つの分数と小数の中で最大の数を見つけ、数直線上に表すことができる	○							○	○			48.9	3.4	55.6	2.4
4	210×0.6の式で答えが求められる問題を選ぶ	小数の乗法の意味について理解している	○							○	○			49.3	0.9	54.1	0.7
5(1)	底辺4cm、高さ6cmの平行四辺形の面積を求める式と答えを書く	平行四辺形の面積を求める公式を理解し、面積を求めることができる		○						○	○			94.2	1.0	96.0	0.9
5(2)	底辺6cm、高さ4cmの三角形の面積を求める式と答えを書く	三角形の面積を求める公式を理解し、面積を求めることができる		○						○	○			88.8	1.2	89.4	1.3
5(3)	半径10cmの円の面積を求める式と答えを書く	円の面積を求める公式を理解し、面積を求めることができる		○						○	○			67.6	2.8	73.0	2.5
6(1)	2つの角の大きさが75°、35°である三角形の、残りの角の大きさを求める	三角形の三つの角の大きさの和が180°であることを理解している			○					○	○			75.2	1.6	83.7	1.3
6(2)	方眼紙上で、3点が与えられた平行四辺形の残りの点の位置を選ぶ	平行四辺形の定義や性質を理解している			○					○	○			89.9	0.9	88.5	0.9
7(1)	16cmのひもで縦の長さが3cmの長方形を作ったときの横の長さを求める	まわりの長さが一定である長方形の縦の長さを基に、横の長さを求めることができる				○				○	○			81.9	2.3	82.4	2.2
7(2)	16cmのひもで長方形を作ったときの縦と横の関係の長さを表した表を完成させる	まわりの長さが一定である長方形の縦と横の長さの関係を表にまとめることができる				○				○	○			77.5	1.6	75.3	1.5
7(3)	16cmのひもで作った長方形の縦の長さが1cmずつ増えるときの横の長さの変化を答える	長方形の縦と横の長さについて調べた表から、変化の規則性をよみとることができる				○				○	○			76.3	1.3	75.1	1.3
算数B																	
1(1)	長方形のまわりの長さを求める式を選ぶ	長方形のまわりの長さの求め方を理解している			○	○				○	○			66.3	0.7	67.2	0.5
1(2)	全体の長方形から内部の長方形を除いた残りの部分の面積を求める式を選ぶ	L字型の図形の面積の求め方を表す式をよみとることができる		○		○				○	○			86.7	1.5	88.1	1.3
1(3)	全体の長方形から内部の長方形を除いた残りの部分の面積が等しいことの理由を説明する	条件を変えた複数の図形で、面積が等しいことの理由を説明することができる		○						○	○			66.0	9.7	67.9	8.8
2	25×32を、筆算を用いずに工夫して計算する方法を説明する	計算の工夫をよみとり、それを用いて異なる数値の問題の解決方法を説明することができる	○			○					○			65.1	8.8	58.8	9.3
3(1)	漁業に携わる人数を表した棒グラフを見て、人数が最も多いグループを選ぶ	棒グラフから人数の大小をよみとることができる				○				○	○			90.5	0.9	90.9	0.7
3(2)	漁業に携わる人数を表した棒グラフを見て、全体の数がどのように変化してきたかを書く	棒グラフから人数の変化の様子をよみとることができる				○					○			86.6	3.1	85.2	3.3
3(3)	漁業に携わる人数のグループ別の割合を表した帯グラフを見て、正しい記述を選ぶ	帯グラフから割合の変化の様子をよみとることができる				○					○			50.4	1.3	53.9	1.2
4(1)	木曜日と日曜日に安売りをするケーキ屋で指定されたケーキを買うとき、どちらの曜日がいくら安くなるかを求める式と答えを書く	条件を基に各曜日の代金を求めて比較することができる				○					○			26.5	9.8	29.2	8.6
4(2)	5個のケーキを買うとき、与えられた条件から残り2個のケーキの買い方を答える	問題の条件を整理して、筋道を立てて考えることができる	○							○	○			58.2	9.2	59.1	8.4
5(1)	2地点間を往復する際、行きに通った道を通らず、行きと同じ道のりとなる帰りの経路をかく	平行四辺形を見いだし、その性質を用いて移動経路を考えることができる			○						○			69.0	6.8	71.2	6.1
5(2)	A地点からB地点まで進む2つの経路について、どちらの道のりが長い答える	直角三角形を見いだし、三辺の長さの関係を基に道のりの長短を判断することができる			○						○			78.5	1.9	79.2	1.9
5(3)	長方形の形をした公園と、平行四辺形の形をした公園について、面積が広い方の公園を答え、その理由を説明する	地図を観察して図形を見いだし、面積を比較して説明することができる			○						○			13.2	3.3	17.9	3.5
6(1)	式を用いて計算した走り高跳びのめあてと実際の記録を比べ、正しい記述を選ぶ	言葉の式に数値を当てはめて値を求め、実際の記録と比較し、判断することができる				○				○	○			62.5	8.4	64.9	8.2
6(2)	2人の走り高跳びのめあてについて、計算せずに大小を比較できる理由を説明する	式の形に着目して計算結果の大小を判断し、根拠となる考えを説明することができる				○					○			48.3	21.3	51.2	20.4

キ 課題と学習指導上の改善点

「知識」に関する問題

○ 分数や小数の意味

分数や小数の意味と大きさの理解に課題がみられる。【正答率 48.9%】

**3**

次の数直線には、となりあった整数の間を10等分した目もりがついています。  
下の問題に答えましょう。

(2)  $0.5$ ,  $\frac{7}{10}$ ,  $\frac{4}{5}$  の中で、いちばん大きい数を数直線で見つけます。  
いちばん大きい数の目もりの記号を、アからスまでの中から1つ選んで、  
書きましょう。

算数A <b>3</b> (2) 解答類型		反応率(%)	正答
1	ケ と解答している	48.9	◎
2	カ と解答している	4.3	
3	ク と解答している	20.6	
4	上記以外の解答	22.8	
5	無解答	3.4	

**【学習指導上の改善点】**

- 誤答クを選んでいる児童が20.6%いる。これは、 $\frac{7}{10}$ と $\frac{4}{5}$ について、分子のみに着目して $\frac{7}{10}$ が大きいと判断し、クを選択したものと考えられる。したがって、具体物を使った算数的活動を取り入れ、分数の大きさについての感覚を豊かにするとともに、異分母の分数を同じ数直線上に表す活動等を通して、分数の大きさについての理解を深めることが大切である。
- 長さやかさ等のある量を、小数や分数を使って表すなどの学習を、複数学年に渡って継続的に取り入れる。
- 数直線についての理解を確実にすることが大切である。そのためには、低学年における数字カードをならべる活動やテープ図をよむ活動を取り入れるなどの素地指導を充実するとともに、一目盛りがいくつを表すのかを確認するなど、数直線をよみとる技能を高める必要がある。

○ 演算決定

小数の乗法の意味について理解し、問題の場面から式を考えることに課題がみられる。【正答率 49.3%】

**4**

答えが  $210 \times 0.6$  の式で求められる問題を、下の **1** から **4** までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

**1** 砂糖を  $0.6 \text{ kg}$  買って、 $210$  円はりました。  
この砂糖  $1 \text{ kg}$  のねだんはいくらでしょう。

**2**  $210 \text{ kg}$  の大豆を  $0.6 \text{ kg}$  ずつふるにつめます。  
大豆を全部つめるには、ふるはいくついるでしょう。

**3**  $1 \text{ m}$  のねだんが  $210$  円のリボンが  $0.6 \text{ m}$  買いました。  
リボンの代金はいくらでしょう。

**4** 赤いテープの長さは  $210 \text{ cm}$  です。  
赤いテープの長さは白いテープの長さの  $0.6$  倍です。  
白いテープの長さは何  $\text{cm}$  でしょう。

算数A <b>4</b> 解答類型		反応率 (%)	正答
1	1と解答している	4.7	
2	2と解答している	10.8	
3	3と解答している	49.3	◎
4	4と解答している	34.2	
5	上記以外の解答	0.1	
6	無解答	0.9	

【学習指導上の改善点】

- 誤答4を選んだ児童が34.2%と多い。これは、文章に「倍」という表現があることから乗法と判断したものと考えられる。選択肢で示されたような問題の学習では、すぐに立式させるのではなく、答えにあたる数量についての見通しをもたせるなどの指導が大切である。例えば、選択肢1では「 $1 \text{ kg}$  の値段は、 $210$  円より高いか安いのか」、選択肢4では「赤いテープと白いテープのどちらが長いのか」と問いかけるなどの工夫が考えられる。
- 小数の含まれた式の意味理解を確かに行うことが大切である。本問題では、 $0.6$  を6に置き換えることで、乗法適用の場面か除法適用の場面かの判断が容易になり、数量関係を適切にとらえられたと考えられる。日頃の算数の学習において、問題中の小数を整数に置き換えても数量関係が変わらないことを理解する学習が必要である。



## 「活用」に関する問題

### ○ 情報の分類整理と問題解決


買い物の場面で、与えられた条件を基に必要な情報を取捨選択し、百分率などを用いて、筋道を立てて問題を解決することに課題がみられる。


【正答率 26.5%】


算数B 4 (1) 解答類型	反応率 (%)	正答
(正答の条件) ① 各曜日の代金を求めた後、その差を求める。 ② 各曜日の値引きの額を求めた後、その差を求める。 ③ 各ケーキについて木曜日と日曜日の値段の差額を求めた後、その差を求める。		
1	15.5	◎
2	11.0	○
3	1.2	
4	6.0	
5	4.6	
6	51.9	
7	9.8	


**4**


まなぶさんの町にケーキ屋があります。  
このケーキ屋のロールケーキ、チーズケーキ、イチゴケーキ、チョコレートケーキの定価は、次のとおりです。



  
ロールケーキ  
250円

  
チーズケーキ  
300円

  
イチゴケーキ  
350円

  
チョコレートケーキ  
400円

このケーキ屋は、木曜日と日曜日が安売りの日です。木曜日と日曜日は、次のようにケーキを売っています。


**木曜日**

すべてのケーキを定価の20%引きで売ります。  
例えば、定価250円のケーキは、50円引きになって200円になります。


**日曜日**

定価が320円よりも安いケーキは、どれも200円で売ります。

(1) まなぶさんは、チーズケーキ1個とチョコレートケーキ1個を買おうと思います。



定価で買うと、 $300 + 400 = 700$ だね。でも、木曜日か日曜日に買えば700円よりも安くなるね。



まなぶ

木曜日の代金と日曜日の代金では、どちらのほうがいくら安くなりますか。求める式と答えを、それぞれ書きましょう。

### 【学習指導上の改善点】

- 百分率の意味理解を確実にすることが大切である。例えば、割合を表す小数と百分率を同じ数直線上に表したり、問題に示されている場面や内容を簡単な図や絵で表現したりするなどの学習が考えられる。
- 誤答には、より多く値引きされる曜日とその値引き額を書いているものや、木曜日は全ての代金が50円引きと解釈しているもの等があった。指導に当たっては、下記の表を作るなどの活動により、情報を整理する学習を積極的に取り入れることが大切である。

木曜日と日曜日のケーキの値段

	木曜日	日曜日
チーズケーキ(300円)	$300 \times 0.8 = 240$ 円	200円
チョコレートケーキ(400円)	$400 \times 0.8 = 320$ 円	400円
合計	560円	600円

- 日常生活の中で、身に付けた算数の知識を使いながら、問題を解決する教材の開発を進めることが大切である。

○ 事象の観察と判断

与えられた条件を基に、地図を観察して図形を見出し、求積に必要な数値を選び、二つの面積を比較してその大小を説明することに課題がみられる。  
【正答率 13.2%】

5 (3) ひろしさんの家の近くに東公園があります。  
東公園の面積と中央公園の面積では、どちらのほうが広いですか。  
答えを書きましょう。また、そのわけを、言葉や式などを使って書きましょう。

○ 道路ア、イ、ウは、それぞれ道路ケに垂直です。  
○ 道路ア、イ、ウは、それぞれ道路コに垂直です。

5 次の図形の面積を求める式と答えを書きましょう。  
(1) 平行四辺形

算数A	5 (1) 解答類型	反応率 (%)	正答
1	式 $4 \times 6$ 答え24	93.9	◎
2	式 底辺×高さ 答え24	0.3	○
3	式 $4 \times 6 \div 2$ 答え12	2.7	
4	上記以外の解答	2.1	
5	無解答	1.0	

算数B	5 (3) 解答類型	反応率 (%)	正答
(正答の条件) 【答え】① 東公園の面積の方が広い 【わけ】② 2つの公園の面積を求める式 ③ 2つの公園の面積の値 ④ 面積に対応した公園の名称			
1	①②③④、または①②③、または①③④を書いているもの	12.8	◎
2	①②④、または①②を書いているもの	0.4	○
3	類型1, 2で、2つの公園の面積を求める計算に誤りがあるもの	1.4	
4	中央公園の面積を「底辺×斜辺」で求めているもの	34.6	
5	辺の長さや周の長さで比較しているもの	9.0	
6	上記以外の解答	38.5	
7	無解答	3.3	

【学習指導上の改善点】

- 公式の意味理解を確実にすることが大切である。算数A 5の平行四辺形の面積を求める問題の正答率は94.2%であるが、本問題においては、平行四辺形の面積を「底辺×斜辺」で求めているものが34.6%いる。日頃の学習においても、問題解決に必要なでない情報を含む課題を提示し、その中から必要な情報を適切に選択するなどの学習を取り入れる必要がある。
- 本問題では、辺や周の長さを用いて面積を比較しているものが9.0%いる。面積の学習の導入等で、平行四辺形を三角形に分割したり長方形に等積変形したりするなどの算数的活動を充実し、平行四辺形の面積が、(底辺) × (高さ) で求められることの理解を深めることが大切である。
- 考えの過程を明確にし、それを説明できるようにすることが大切である。例えば、本問題の場合は、それぞれの面積を求める式や計算過程を書かせ、それらを比較しながら、自分の考えを説明する活動を取り入れることが必要である。

○ 数学的表現の解釈と判断


言葉の式と表をよみとり、式の形に着目して、計算結果の大小を判断し、根拠となる考えを明確にして説明することに課題がみられる。【正答率 48.3%】

**6**

体育で走り高とびの学習をしています。  
走り高とびの記録は、身長と50m走の記録に関係すると言われています。  
次の式で計算すると、走り高とびのめあてとなる高さが何cmになるかがわかります。

走り高とびのめあてとなる高さ (cm) を求める式

$$\text{身長 (cm) の半分に120を加えて、50m走の記録 (秒) の10倍をひきます。}$$


$$(\text{身長} \div 2) + 120 - (50\text{m走の記録} \times 10)$$


けんた                      よしお

けんたさんとよしおさんの身長と50m走の記録は、次のとおりです。

	身長 (cm)	50m走の記録 (秒)
けんた	140	8.0
よしお	160	8.0

(2) よしおさんも、左の式を使って、自分のめあてとなる高さを計算して求めようとしています。  
けんたさんは、けんたさんとよしおさんの身長と50m走の記録を見て、次のように言いました。



よしおさんのめあては、ぼくのめあてよりも高くなるのが、計算しなくてもわかるね。

けんた

けんたさんは、なぜ「高くなるのが、計算しなくてもわかる」と言ったのですか。  
そのわけを、言葉や式を使って書きましょう。

算数B <b>6</b> (2) 解答類型	反応率 (%)	正答
(正答の条件) ① 2人のめあてを求める式、または、めあてを求める式の形の説明 ② 2人の身長値の大小の判断、または、めあてを求める式での2人の身長に関する部分の大小判断 ③ 2人の50m走の記録が等しいこと、また、めあてを求める式での2人の50m走の記録に関する部分が等しいこと		
1 ①②③を書いているもの	1.4	◎
2 ②③を書いているもの	11.7	◎
3 ①②を書いているもの	2.1	◎
4 ②のみを書いているもの	27.8	○
5 ①②③のうち一部を書いているが、正答とみなせるもの	5.3	○
6 2人の身長差が異なることのみを書いているもの	8.6	
7 めあての値を計算して求め、それをもとに説明しているもの	1.1	
8 上記以外の解答	20.7	
9 無解答	21.3	

【学習指導上の改善点】

- 筋道を立てて考え、説明する力を高めることが大切である。誤答には、身長が異なることのみ、または、50m走の記録が同じことのみを書いているものがあると考えられる。この中には、分かっているが説明不足であったものも含まれる。したがって、日頃の学習の中で、既知の事柄を基にして「AだからBとなる」など根拠を明らかにして説明したり、その説明の有効性やよさ等を話し合ったりする活動を充実すること等が求められる。
- 無解答が21.3%いるのは、本問題が最後の問題のため時間不足が理由のものも多かったと考えられる。日頃から、多様な内容や形式の問題を解く経験をさせておくとともに、能率的な問題解決、計算処理の力を高めることも必要である。

## ク 質問紙調査とのクロス集計結果

- 算数の勉強が大切だと思う児童、及び算数の授業で学習したことが将来役立つと思う児童と、そう思わない児童とでは、「活用」に関する問題で平均正答率に20ポイント以上の差がみられた。
- 問題の解き方が分からないとき、あきらめずにいろいろな方法を考える児童と、そうでない児童とでは、「活用」に関する問題で平均正答率に20ポイント以上の差がみられた。
- 順序よく考える問題を解いた経験が何度もある児童と、全くない児童とでは、「知識」に関する問題で20ポイント以上、「活用」に関する問題で30ポイント以上の差がみられた。

算数の勉強は大切だと思いますか。

選択肢	児童数	割合	平均正答率 (%)	
			算数A	算数B
1 当てはまる	9,190	71.3	82.6	64.3
2 どちらかといえば、当てはまる	2,709	21.0	77.9	59.3
3 どちらかといえば、当てはまらない	709	5.5	71.1	50.7
4 当てはまらない	273	2.1	63.7	43.6

算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

選択肢	児童数	割合	平均正答率 (%)	
			算数A	算数B
1 当てはまる	9,056	70.3	82.1	64.3
2 どちらかといえば、当てはまる	2,599	20.2	80.0	60.7
3 どちらかといえば、当てはまらない	877	6.8	73.7	54.3
4 当てはまらない	336	2.6	63.2	42.1

算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。

選択肢	児童数	割合	平均正答率 (%)	
			算数A	算数B
1 当てはまる	5,495	42.6	85.3	67.1
2 どちらかといえば、当てはまる	4,418	34.3	80.5	62.1
3 どちらかといえば、当てはまらない	2,226	17.3	74.2	54.3
4 当てはまらない	737	5.7	65.8	45.7

算数B-4-(2)の問題のような順序よく考える問題を解いたことがありますか。

選択肢	児童数	割合	平均正答率 (%)	
			算数A	算数B
1 何度もある	3,183	24.7	89.0	73.6
2 時々ある	5,479	42.5	82.1	63.6
3 あまりない	3,425	26.6	73.7	52.9
4 全くない	713	5.5	64.7	42.9

## ケ 全体的な考察と指導の工夫

山口県の正答数の分布をみると、正答数の多い児童の割合が、全国と比べると低い傾向がみられる。特に、「知識」に関する問題では、満点の児童の割合が全国平均より約4ポイント低い。

- 学習内容の確実な定着を図るため、授業のねらいや学習内容を一層明確にし、基礎的・基本的な内容に繰り返して取り組ませる学習を工夫することが大切である。
- 学校全体で学力向上の取組を推進するため、一人ひとりの実態に応じた少人数指導やT T等のきめ細かな指導を工夫することが大切である。

「知識」に関する問題では、基本的な四則計算や平行四辺形の求積の正答率は高いが、加法と乗法が混じった計算や円の求積の正答率は低いなど、同じ領域において、正答率が高い問題と低い問題との差がある。

- 児童が間違いやすい事柄を事前に予想して、学習活動を工夫したり、重点的・継続的に指導したりすることが大切である。
- 学習内容の系統を踏まえ、例えば「小数」や「分数」の学習の際に、他方の内容を意図的に取り上げるなど、内容を関連付けて指導する工夫が大切である。

「活用」に関する問題では、筋道を立てて考え解決する問題や求められたことを分かりやすく説明する問題の正答率が低い。

- 筋道を立てて問題解決する力を高めるため、事象を観察して必要な情報を選び出し分類整理したり、数学的表現をよみとり解釈したりする学習を工夫することが大切である。
- 分かりやすく説明する力を高めるため、既知の事柄を基に根拠を明らかにしながら順序立てて説明したり、その説明のよさ等を話し合ったりする活動を工夫することが大切である。

算数の学習が大切で将来役に立つと思う児童、あきらめずにいろいろな方法を考えようとする児童、順序よく考える問題を解いた経験が何度もある児童は、そうでない児童に比べて正答率がかなり高い。

- 算数が生活に役立つことを実感させるため、生活に関連の深い問題に取り組みせたり、他教科において算数科で学んだことを活用させたりすることが大切である。
- あきらめずにいろいろな方法で取り組む態度を養うため、児童一人ひとりが創意工夫できる算数的活動を行うことが大切である。
- 筋道を立てて順序よく考えることの楽しさ、よさを感じ取らせるため、いろいろな解き方を意図的に取り上げ、それぞれのよさや特徴などをとらえさせることが大切である。

### ③ 中学校国語

#### ア 全体的な結果について

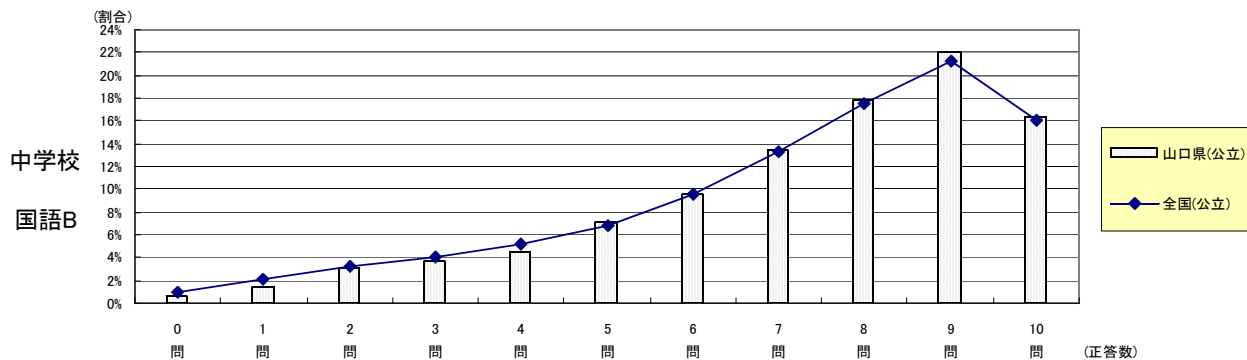
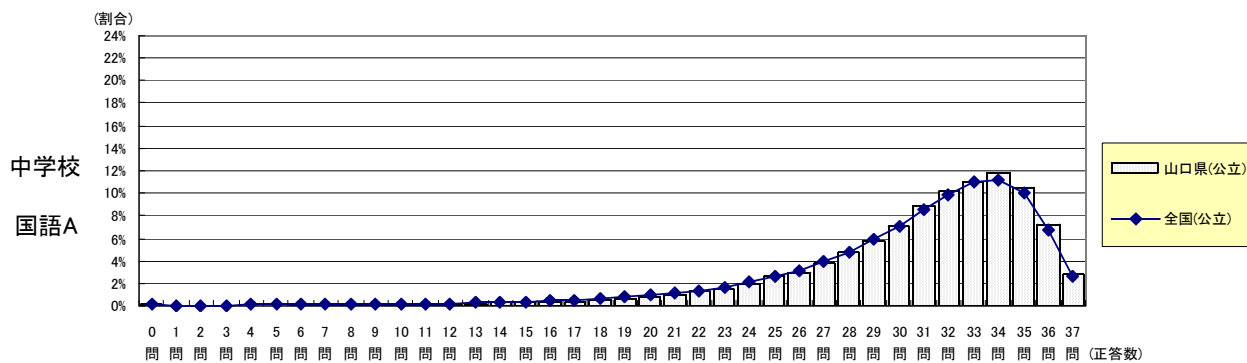
「知識」に関する問題については、相当数の生徒が今回出題されている学習内容を理解しているが、知識・技能を活用する力については、更に身に付けさせる必要がある。

	国語A (主として「知識」に関する問題)		国語B (主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数(問・37問中)	平均正答率(%)	平均正答数(問・10問中)	平均正答率(%)
山口県	30.6	82.7	7.3	73.0
全国	30.2	81.6	7.2	72.0

#### イ 正答数の分布について

正答数の分布については、「知識」「活用」とも右よりの単峰分布の形状になっている。

全国平均の分布と比べると、ほぼ同じ分布傾向がみられる。

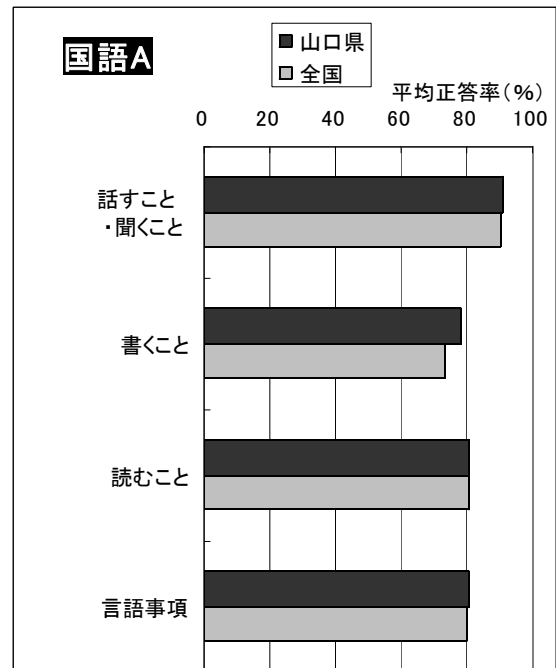


## ウ 学習指導要領の領域ごとの結果

- 「知識」に関する問題の平均正答率は「書くこと」が78.2%と、80%をやや下回るものの、他は80%を上回っており、相当数の生徒が学習内容を理解している。
- 「活用」に関する問題において、「書くこと」「言語事項」の平均正答率は70%を下回り、他の領域と比べ課題がみられる。
- 「書くこと」「言語事項」においては、「知識」の問題に比べ「活用」の問題の平均正答率が10ポイント以上低く、知識を活用する力を更に伸ばしていく必要がある。

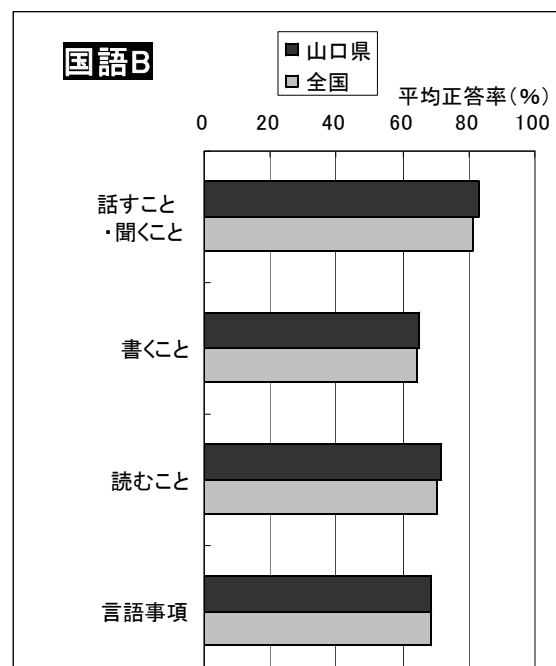
学習指導要領の領域	国語A (知識)	
	山口県	全国
話すこと・聞くこと	90.9	90.1
書くこと	78.2	73.4
読むこと	80.8	80.6
言語事項	80.8	80.3

平均正答率 (%)



学習指導要領の領域	国語B (活用)	
	山口県	全国
話すこと・聞くこと	82.9	81.3
書くこと	65.3	64.4
読むこと	71.8	70.6
言語事項	68.5	68.5

平均正答率 (%)

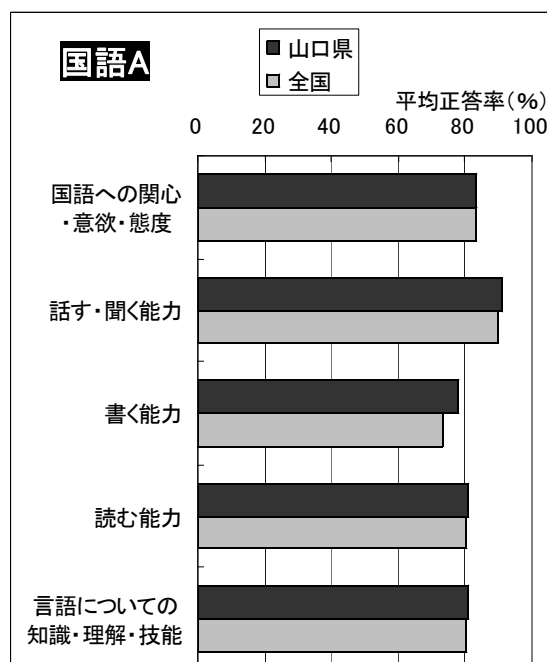


## エ 評価の観点ごとの結果

- 「知識」に関する問題の平均正答率は、「書く能力」が78.2%と80%をやや下回るものの、他は80%を上回っており、相当数の生徒が学習内容を理解している。
- 「活用」に関する問題において、「国語への関心・意欲・態度」「書く能力」については、平均正答率が70%を下回り、課題がみられる。
- 「国語への関心・意欲・態度」の平均正答率は、「知識」に関する問題に比べ「活用」に関する問題の方が17.8ポイント低く、課題がみられる。

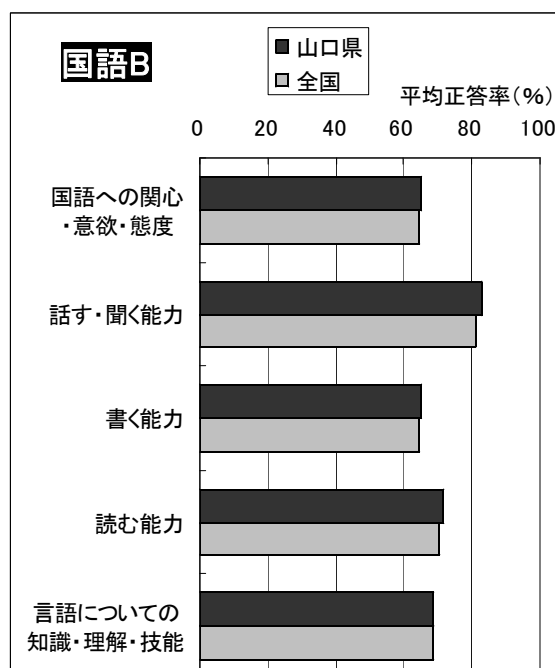
評価の観点	国語 A (知識)	
	山口県	全国
国語への関心・意欲・態度	83.1	83.5
話す・聞く能力	90.9	90.1
書く能力	78.2	73.4
読む能力	80.8	80.6
言語についての知識・理解・技能	80.8	80.3

平均正答率 (%)



評価の観点	国語 B (活用)	
	山口県	全国
国語への関心・意欲・態度	65.3	64.4
話す・聞く能力	82.9	81.3
書く能力	65.3	64.4
読む能力	71.8	70.6
言語についての知識・理解・技能	68.5	68.5

平均正答率 (%)



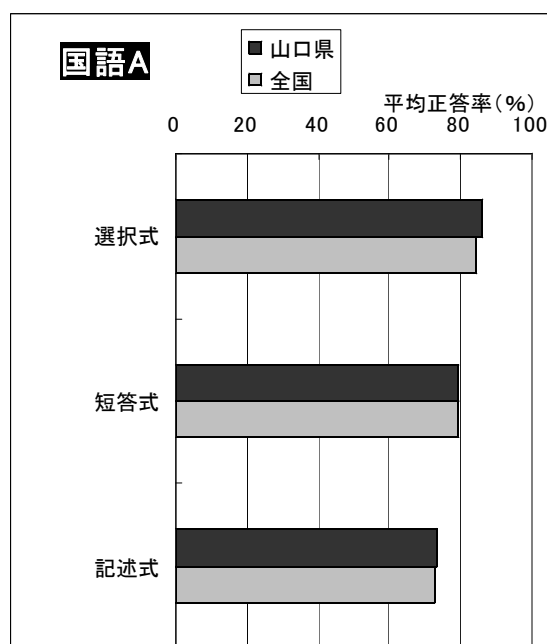


## オ 問題形式ごとの結果

- 「知識」に関する問題の平均正答率は記述式が最も低く、選択式が最も高い。
- 「活用」に関する問題では、「知識」に関する問題同様、選択式の平均正答率が最も高いが、短答式と記述式にはほとんど差がみられない。
- 「知識」「活用」の両方の問題で記述式の平均正答率が最も低い。「書くこと」の学習内容を踏まえ課題を検討する必要がある。

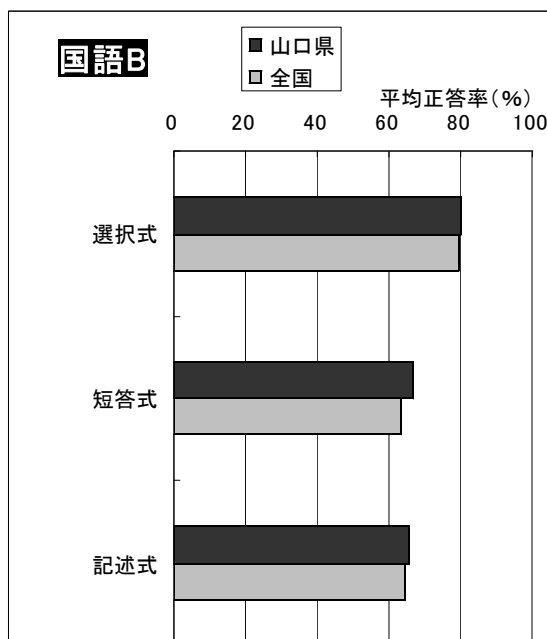
問題形式	国語 A (知識)	
	山口県	全国
選択式	86.0	84.2
短答式	79.1	79.3
記述式	73.3	72.4

平均正答率 (%)



問題形式	国語 B (活用)	
	山口県	全国
選択式	79.9	79.3
短答式	66.5	63.5
記述式	65.3	64.4

平均正答率 (%)



# カ 設問ごとの結果

## 国語 A

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			山口県(公立)		全国(公立)					
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)			
1一	「満天の星」を聞き手に分かりやすい表現に直す	聞き手を意識して使用する語句を工夫する	○							○					○			87.2	3.9	86.6	4.6
1二	スピーチの内容にふさわしい題名をつける	話し手の意図を理解し、内容にふさわしい題名を付ける	○							○					○			87.9	0.2	87.7	0.3
2一	手紙の結語「敬具」に対応する頭語を選択する	手紙の頭語について理解している		○							○				○			89.6	0.2	85.4	0.3
2二	手紙の本文の書き出しの語を選択する	手紙の本文の書き出しの語について理解している		○							○				○			87.2	0.2	80.6	0.2
2三	手紙の後付けの適切な書き方を選択する	手紙の後付けについて理解している		○							○				○			62.8	0.4	55.0	0.4
3一	小説の中の表現についての適切な説明を選択する	文脈における自然描写を的確に読み取る			○						○				○			71.3	0.2	70.0	0.3
3二	小説に描かれた場面と表現についての適切な説明を選択する	比喩等の表現技法に注意して内容をとらえる			○						○				○			71.8	0.4	71.6	0.4
4一	詩(歌詞)のリズムについての適切な説明を選択する	表現の仕方や詩の特徴に注意して音読し、詩の韻律(リズム)について理解する			○						○				○			76.7	0.6	75.7	0.6
4二①	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(かをる)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む			○						○				○			91.3	2.8	91.8	2.8
4二②	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(ふるふ)				○							○			○			78.6	3.7	76.4	4.2
4三	歴史的仮名遣いで書かれた表現を読み取り、様子についての適切な説明を選択する	語句の意味に注意して内容を読み取る			○						○				○			91.3	0.4	90.6	0.5
5一1	電話の内容をメモする(行事の内容)	伝える必要のある内容を簡潔なメモにまとめる	○								○				○			96.3	1.2	95.4	1.5
5一2	電話の内容をメモする(場所)		○								○				○			98.4	1.0	98.0	1.3
5一3	電話の内容をメモする(連絡先)		○								○				○			90.9	1.1	90.4	1.4
5二	電話の相手の話に不足している情報について質問する	不足している情報に気付き、適切な表現で話し手に確かめる	○							○	○				○			91.7	4.3	90.1	5.3
6一	インタビューの目的にあった質問内容を考え、質問しなくてもよいものを選択する	目的に沿った質問をする	○								○				○			93.0	0.3	92.1	0.5
6二	インタビューの一部を読み、改善点として適切なものを選択する	効果的なインタビューの仕方について理解している	○								○				○			81.6	0.4	80.5	0.6
7一	グラフから読み取れる内容について提示された文章に合うように書く	グラフから情報を読み取り、文章の結論につながるように書く		○							○				○			73.3	9.0	72.4	10.0
8一1	漢字を書く(会社の <u>リ</u> エキを上げる)	文脈に即して漢字を正しく書く				○					○				○			66.6	12.8	68.2	12.8
8一2	漢字を書く(おもしろみが <u>ハン</u> ゲンした)					○					○				○			66.0	15.7	66.3	15.0
8一3	漢字を書く(友達に本を <u>カ</u> す)					○						○			○			59.1	6.7	58.1	7.3

8二1	漢字を読む(道路を拡張する)					○					○	○					83.5	4.1	83.0	4.9
8二2	漢字を読む(草木が繁茂している)	文脈に即して漢字を正しく読む				○					○	○					25.9	28.8	30.3	28.3
8二3	漢字を読む(入会を勧める)					○					○	○					64.4	3.7	66.2	3.7
8三ア	適切な同訓異字を選択する(税金を納める)					○					○	○					89.2	0.5	87.5	0.6
8三イ	適切な慣用句を選択する(努力が水の泡となってしまった)					○					○	○					98.2	0.4	97.7	0.6
8三ウ	適切な四字熟語を選択する(崖刀直入にものを言う)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				○					○	○					89.3	0.8	89.4	0.9
8三エ	適切な語句を選択する(「絶対安静」にしない。)					○					○	○					96.4	0.4	96.1	0.6
8三オ	適切な語句を選択する(放送は、B劇場から中継した)					○					○	○					86.3	0.6	86.8	0.8
8三カ	適切な語句を選択する(のどのかわきをいやした)					○					○	○					91.9	0.7	91.6	0.9
8四	行書で書かれた漢字を楷書で書いたときの総画数を選択する	行書の書き方を理解している				○					○	○					81.0	0.5	78.3	0.7
8五	文字を読みやすくするための改善点を選択する	文字の大きさや配列・配置を考えて書く				○					○	○					84.8	0.7	83.5	1.0
8六	「枕草子」の冒頭を書く	代表的な古典に親しんでいる				○					○	○					84.3	6.8	88.0	5.7
8七ア	文を推敲する(主語・述語の対応)	文の成分の照応に注意して書く				○					○	○					92.7	3.5	91.7	4.3
8七イ	文を推敲する(副詞の呼応)					○					○	○					89.1	4.1	88.1	4.8
8八ア	適切な敬語を選択する(尊敬語)					○					○	○					96.9	0.7	93.8	1.0
8八イ	適切な敬語を選択する(謙譲語)	生活の場面で敬語を適切に使う				○					○	○					92.8	0.7	89.4	1.0

## 国語B

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域			評価の観点			問題形式			山口県(公立)		全国(公立)						
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)		
1一	話題を具体化するために資料を用いる箇所を選択する	話すことの内容に応じて、適切な資料を提示する	○						○		○						82.9	0.3	81.3	0.4
1二	ロボットを開発した人の考えに合う内容を選択する	必要な情報を収集し、表現に生かす			○						○						93.0	0.3	92.5	0.4
1三	ロボットと共存する未来社会について想像し、自分の考えを書く	情報を基に、根拠を明らかにしながら、自分の考えが適切に相手に伝わるように書く		○	○		○		○				○				76.8	7.7	75.9	9.6
2一	「蜘蛛の糸」を読み、その内容や表現についての適切な説明を選択する	作品の内容や表現上の特徴をとらえる			○						○						81.5	0.5	81.3	0.6
2二アイ	「蜘蛛の糸」の一部分を朗読する場合の適切な工夫を選択する	作品の展開や心情の変化に着目して朗読する			○	○					○	○					68.5	0.5	68.5	0.6
2三	「三」の場面の有無に関して、自分の考えを80字以上120字以内で書く	作品の内容や構成、表現上の特色を踏まえ、自分の考えを書く		○	○		○		○				○				77.6	8.4	74.8	10.1
3一	広告カードについての会話文とカードの内容から、書いた人を特定する	表現の仕方の特徴をとらえる			○						○						73.8	0.6	73.1	0.8
3二(1)	中学生が作成した広告カードに共通して書かれている情報を二つ書く	広告カードを比較して、共通して書かれている情報を読み取る			○						○						76.1	5.7	73.2	6.8
3二(2)	中学生の広告カードと、店員が作成した広告カードを比較し、違いを説明する	資料に表れているものの見方や考え方をとらえ、伝えたい事柄や考えを明確にして書く			○	○		○			○						57.0	8.9	53.9	10.0
3三	中学生の広告カードと、店員が作成した広告カードを比較し、違いを説明する	資料に表れているものの見方や考え方をとらえ、伝えたい事柄や考えを明確にして書く		○	○		○		○		○						41.6	10.2	42.6	12.4

キ 課題と学習指導上の改善点

「知識」に関する問題

○ 手紙の後付の書き方

手紙の後付の書き方についての理解に課題がみられる。【正答率 62.8%】

4                      3                      2                      1

五月十五日	池田三郎様 三年二組一同	池田三郎様 五月十五日	三年二組一同 五月十五日
三年二組一同	池田三郎様	三年二組一同	池田三郎様

三

ア

次の1から4のうち、最も適切なもの一つを選びなさい。

2

中学生の大本さんの学級（三年二組）では、「総合的な学習の時間」でお世話になった池田さんに、お礼の手紙を出すことにしました。次は、その手紙の下書きです。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

前略

新緑がまぶしい季節になりました。池田さんにおかれましては、お変わりなくお過ごしのことと思います。私たちは三年二組の生徒一同も毎日元気に過ごしています。――先日、この町に伝わる踊りを指導してください、ありがとうございます。私も、笛の音色に合わせて踊るうちにだんだん慣れてきて、楽しく踊ることができました。一番心に残ったのは、「百数十年続いたこの踊りを、あなたたちの手で次の世代へ伝えていってほしい。」とおっしゃった言葉です。昔から今に伝わる文化を大切にしていきたいと思いを。最後にになりましたが、池田さんの御健康をお祈り申し上げます。またお会いできる日を楽しみにしております。

敬具

ア

国語 A	2	三	解答類型	反応率(%)	正答
1			1と解答しているもの	10.5	
2			2と解答しているもの	62.8	◎
3			3と解答しているもの	6.6	
4			4と解答しているもの	19.8	
5			無解答	0.3	

**【学習指導上の改善点】**

- 手紙を書く機会が少ないためか、頭語や結語など、手紙に特有な表現形式が身に付いていない。書写に関する学習も有効に活用するなどして、国語の授業全体で取り上げ確実に指導する工夫が必要である。
- 手紙の書き方以外にも案内状の作成や返信の仕方等、日常生活の中で、国語の授業で学習したことを活用していく指導が必要である。
- 国語科だけでなく他の教科や学校生活の中で、適切な機会をとらえて言語活動を充実する指導を行うことが大切である。例えば、総合的な学習の時間等で、お世話になった外部の指導者の方にお礼の手紙を書くなど、機会をとらえて指導する必要がある。

○ 漢字の読み・書き

漢字の読み・書きについては、ほとんどの問題の正答率が70%を下回り、なかでも日常生活で使用頻度が少ない漢字の定着に課題がみられる。

【正答率 一(書き)1 66.6% 2 66.0% 3 59.1% 二(読み)2 25.9% 3 64.4%】

<p>3 入会を勤める。</p> <p>2 草木が繁茂している。</p> <p>1 道路を拡張する。</p>	<p>二次の1から3の文中の1線部の漢字の正しい読みをひらがなで書きなさい。</p> <p>3 友達に本を<u>か</u>す。</p> <p>2 期待がはずれて、おもしろみがハン<u>ゲ</u>ンした。</p> <p>1 会社のリ<u>エ</u>キを上げる。</p>	<p>8 一次の1から3の文中の1線部のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに書きなさい。</p>
--	---	---

国語A		8	一 1~3	解答類型	反応率(%)	正答
1	1	「利益」と解答しているもの			66.6	◎
	2	「利益」のうち「利」だけ正しく解答しているもの			17.3	
	3	「利益」のうち「益」だけ正しく解答しているもの			0.5	
	4	上記以外の解答			2.8	
	5	無解答			12.8	
2	1	「半減」と解答しているもの			66.0	◎
	2	「半減」のうち「半」だけ正しく解答しているもの			8.7	
	3	「半減」のうち「減」だけ正しく解答しているもの			4.9	
	4	上記以外の解答			4.7	
	5	無解答			15.7	
3	1	「貸(す)」と解答しているもの			59.1	◎
	2	上記以外の解答			34.2	
	3	無解答			6.7	

国語A		8	二 1~3	解答類型	反応率(%)	正答
1	1	「かくちょう」と解答しているもの			83.5	◎
	2	「かくちょう」のうち「かく」だけ正しく解答しているもの			0.2	
	3	「かくちょう」のうち「ちょう」だけ正しく解答しているもの			11.4	
	4	上記以外の解答			0.8	
	5	無解答			4.1	
2	1	「はんも」と解答しているもの			25.9	◎
	2	「はんも」のうち「はん」だけ正しく解答しているもの			29.7	
	3	「はんも」のうち「も」だけ正しく解答しているもの			0.7	
	4	上記以外の解答			14.9	
	5	無解答			28.8	
3	1	「すす(める)」と解答しているもの			64.4	◎
	2	上記以外の解答			31.9	
	3	無解答			3.7	

【学習指導上の改善点】

- 漢字を書くことの指導については、習熟の実態に配慮した指導が大切である。その際、使用頻度の低いものは意図的に取り上げたり、間違えやすいものを重点的に扱ったりするなど指導の工夫が必要である。
- 漢字を読むことの指導については、文脈の中で意味を理解しながら読むことができるよう、漢字のもつ意味を部首等に注目して意識させたり、同じ漢字を用いた他の語句と関連させたりするなどして、理解を深めていく指導を工夫することが大切である。

「活用」に関する問題

○ 文学作品の読み取りと朗読

文章の構成や文脈を正確にとらえて理解し、登場人物の心情の変化に着目して朗読を工夫することに課題がみられる。【正答率 68.5%】

二 次は、「二」の場面の一部です。この部分を朗読する場合の工夫について、あとの問いに答えなさい。(①から⑥は、文の番号を表す。)

①すると、「生懸命にのぼったかいがあつて、さっきまで自分がいた血の池は、今ではもうやみの底にいつの間にかかくれております。

②それからあのぼんやり光っている恐ろしい針の山も、足の下になつてしまいました。

③この分でのぼって行けば、地獄からぬけ出すのも、存外わけがないかもしれません。

④健陀多は両手を蜘蛛の糸にからみながら、ここへ来てから何年にも出したことのない声で、「しめた、しめた。」と笑いました。

⑤ところがふと気がつきますと、蜘蛛の糸の下の方には、数限りもない罪人たちが、自分ののぼった後をつけて、まるで蟻の行列のように、やはり上へ上へ一心によじのぼつて来るではございませんか。

⑥健陀多はこれを見ると、驚いたのと恐ろしいのとで、しばらくはただ、大きな口を開いたまま、眼ばかり動かしておりました。

ア この部分を、話の展開に沿って大きく二つに分けるとすれば、どこで分けますか。次の1から5のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1 ①と②の間で分ける。  
 2 ②と③の間で分ける。  
 3 ③と④の間で分ける。  
 4 ④と⑤の間で分ける。  
 5 ⑤と⑥の間で分ける。

イ アで答えたところで二つに分けて朗読する場合、前と後ろとをどのように読み分けますか。次の1から4のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1 前は、不安を感じている様子が表れるように読み、後ろは、次第に不安が解消される様子が表れるように読む。  
 2 前は、不安を感じている様子が表れるように読み、後ろは、その不安が急に増大する様子が表れるように読む。  
 3 前は、希望をもっている様子が表れるように読み、後ろは、予想外の展開に驚いている様子が表れるように読む。  
 4 前は、希望をもっている様子が表れるように読み、後ろは、その希望がふくらんでいく様子が表れるように読む。

国語B	2	二 解答類型	反応率(%)	正答
1	「ア」を4と解答し、「イ」を3と解答しているもの。		68.5	◎
2	「ア」を4と解答し、「イ」を3と解答していない(無解答を含む)もの。		5.7	
3	「イ」を3と解答し、「ア」を4と解答していない(無解答を含む)もの。		12.7	
4	上記以外の解答		12.6	
5	無解答		0.5	

【学習指導上の改善点】

- 文学作品を味わうためには、音読や朗読する活動を十分に行った上で、文章の構成や文脈をとらえたり、登場人物の心情の変化に着目したりする学習が大切である。その際、生徒同士の話し合い等、意見交換の場を設け、自分の読みを確かめさせたり深めさせたりする指導の工夫が必要である。
- 朗読の仕方を工夫する学習では、「どのような読み方をしたいか」、「なぜそのような工夫がよいのか」という点について生徒自身に考えさせ、作者の心情や情景の描写等を踏まえた朗読となるよう工夫することが大切である。

○ 複数の資料を比較しながら読む（広告カード）

広告カードの内容を比較し、特徴や違いを見つけ、それを自分の言葉で説明することに課題がみられる。

【二 2つめの正答率 57.0%】  
【三 正答率 41.6%】

③ 書店へ職業体験に行った三人の中学生「中川さん・小林さん・山口さん」は、店長さんに本の広告カードの作成を頼まれました。次は、三人の作った広告カードと、三人が店長さんへ文を添えている様子「A」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

① 広告カードの作成を依頼された本

② 中川さんの広告カード

③ 小林さんの広告カード

④ 山口さんの広告カード

⑤ 店長さんが紹介してくれた広告カード

⑥ 店長さんが同じシリーズの本について作った広告カード

⑦ 中川さん、小林さん、山口さんの会話の様子

⑧ 三人の作った広告カード

⑨ 三人の作った広告カードには、一本の題名「書名」のように共通して書かれている情報があります。一本の題名「書名」以外に共通して書かれている情報一つ書きなさい。

⑩ 「A」の中に、「このカードと君たちのカードを比べてもらって」とありますが、四人の会話を踏まえ、三人の作った広告カードと店長さんが紹介してくれた広告カードを比較して、その違いを説明しなさい。

⑪ 店長さん これ、本の題名がすぐ目にとびこんでくる点がいいね。やはり、魅力的な題名の本はよく売れるからね。

⑫ 中川さん ありがとうございます。この五日間の職業体験で、店員さんが作られた魅力的な広告カードをたくさん見ることができたので、とても参考にしました。

⑬ 小林さん 思った以上に、お客様が広告カードを読まれているのにも驚きました。そして、そういうお客様は、いろんなカードの前で立ち止まってじっくり読んで、やはりそこで紹介されている本を買っていかれていましたね。

⑭ 山口さん 店員さんの広告カードは、読者であるお客様と同じ目線で書かれているのがいいですね。

⑮ 店長さん いいところを見つけました。そういう意味では、君たちのカードに加えてほしいポイントがあるんだよ。今回君たちが作成した本も、いろんなお客様に読んでもらって、楽しい気分を味わっていただきたいんだ。このカードと君たちのカードを比べてもらって、（注）コピーは本業の作業を引く広告文、宣伝文句。

⑯ 三人の作った広告カードには、一本の題名「書名」のように共通して書かれている情報があります。一本の題名「書名」以外に共通して書かれている情報一つ書きなさい。

⑰ 「A」の中に、「このカードと君たちのカードを比べてもらって」とありますが、四人の会話を踏まえ、三人の作った広告カードと店長さんが紹介してくれた広告カードを比較して、その違いを説明しなさい。

国語B ③ 二 解答類型		反応率(%)	正答
一つめ	1 「著者名」、「登場人物」、「本の内容」、「コピー（宣伝文句）」など、共通して書かれている情報を解答しているもの	76.1	◎
	2 上記以外の解答	18.2	
	3 無解答	5.7	
二つめ	1 「著者名」、「登場人物」、「本の内容」、「コピー（宣伝文句）」など、共通して書かれている情報を解答しているもの（一つ目の欄の解答と同じ内容のものは除く）	57.0	◎
	2 上記以外の解答	34.1	
	3 無解答	8.9	

【学習指導上の改善点】

○ 共通して名前が書かれていることには気付いても、それを「登場人物」という言葉でまとめられないなど、内容を言葉で一般化することができていない。また、情報を整理する力を身に付けるために、資料の比べ読み等を通して共通点を見付ける学習を行うことが大切である。その際、読み取った内容を簡潔に表現する力を高める指導が大切である。

○ 読書は言語活動の基礎を培う活動であり、県内でも朝の読書等に全校で取り組む学校が増えている。これらの取組が生徒の主體的な読書活動の定着につながるよう、発達段階に応じた本を紹介し、多様な本との出会いを演出するなど、学校図書館の経営を工夫することが望まれる。

国語B ③ 三 解答類型		反応率(%)	正答
	広告カードの違いについて、店長さんが示した視点を踏まえながら書いている。 (正答の条件) ① 中学生三人が作った広告カードは、中学生を対象にしているということを書いている。 ② 店長さんが紹介してくれた広告カードは、幅広い年齢層の読者を対象にしているということを書いている。		
1	条件①、②を満たして解答しているもの	29.0	◎
2	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	0.6	○
3	条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	12.0	○
4	上記以外の解答	48.2	
5	無解答	10.2	

### 【学習指導上の改善点】

- 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むことは、文章の内容理解を深めることに役立つものである。カードのような非連続型テキストを含めた様々な種類のテキストから情報を正確に読み取り、様々な情報を総合的に判断し、その中から必要な情報を適切にまとめ直す学習が大切である。また、複数の資料を比較して、共通点や相違点を整理したうえで自分の考えを発表するなど、情報を整理し、目的に応じて活用する力を身に付けさせる指導も大切である。
- 与えられた条件を踏まえてわかりやすい文章を書くためには、事実や根拠をもとに中心となる主張を明らかにして、筋道を立てて書くことが大切である。授業においても、必要な材料を取捨選択し、構成を考えながら系統立てて文章を書くなどの指導を工夫したい。
- 日常生活では会話によって必要な情報が交換されることが多い。「三」の問題も、カードの比較だけでなく、会話の内容を的確にとらえることが大切である。日常生活における言語の働きを考える活動を通して、社会生活の中での言葉の役割やその重要性を意識させる指導の工夫が必要である。



## ク 質問紙調査とのクロス集計結果

- 国語の勉強を大切だと感じ、普段から、相手や場面に応じた言葉づかいに気を付けている生徒の平均正答率が高い傾向がみられる。
- 日頃の授業の中で、自分の考えや意見を書く機会が多い生徒の平均正答率が高い傾向がみられる。
- 解答を文章で書くとき、最後まで解答を書こうとする生徒の平均正答率が高い傾向がみられる。
- 設問に対して、「当てはまる」など肯定的な回答をした生徒と「当てはまらない」など否定的な回答をした生徒の平均正答率の差は、「知識」に関する問題より、「活用」に関する問題の方が大きい。

国語の勉強は大切だと思いますか。

選択肢		生徒数	割合	平均正答率(%)	
				国語A(37問)	国語B(10問)
1	当てはまる	7,149	57.5	84.3	75.5
2	どちらかといえば、当てはまる	4,036	32.5	82.0	72.0
3	どちらかといえば、当てはまらない	921	7.4	77.6	64.4
4	当てはまらない	304	2.4	72.3	51.7

相手や場面に応じた言葉づかいに気を付けていますか。

選択肢		生徒数	割合	平均正答率(%)	
				国語A(37問)	国語B(10問)
1	当てはまる	6,034	48.6	84.3	75.7
2	どちらかといえば、当てはまる	4,634	37.3	82.8	73.2
3	どちらかといえば、当てはまらない	1,342	10.8	78.6	65.7
4	当てはまらない	394	3.2	71.8	53.3

国語の授業では、自分の思いや考えを書くことが多いですか。

選択肢		生徒数	割合	平均正答率(%)	
				国語A(37問)	国語B(10問)
1	多い	3,144	25.3	84.7	76.4
2	どちらかといえば、多い	5,368	43.2	84.2	75.7
3	どちらかといえば、少ない	3,000	24.1	80.6	69.1
4	少ない	893	7.2	74.5	57.4

解答を文章で書く問題は、最後まで解答を書こうと努力しましたか。

選択肢		生徒数	割合	平均正答率(%)	
				国語A(37問)	国語B(10問)
1	最後まで解答を書こうと努力した	9,361	75.4	85.8	79.0
2	途中であきらめたものがあった	2,657	21.4	74.7	57.0
3	書く問題は全く解答しなかった	380	3.1	64.1	35.3

## ケ 全体的な考察と指導の工夫

手紙の書き方等、一部に基礎的な知識・技能の定着に課題がみられたが、「知識」に関する問題の平均正答率は82.7%であり、相当数の生徒が理解していると考えられる。「活用」に関する問題の平均正答率は「知識」に関する問題に比べ、9.3ポイント低くなっており、基礎的な知識・技能を活用する力を身に付けさせる指導方法の工夫・改善を行う必要がある。

- 小学校までに身に付けた基礎的な知識・技能を更に伸ばしていくため、発達段階に応じた課題を設定し、社会生活に必要な発表、討論、鑑賞などの言語活動を行う能力の基礎を身に付けることができるよう指導を工夫することが大切である。
- 思考力・判断力・表現力等、知識・技能の活用に課題があることから、記録、要約、説明、論述等の学習活動を充実させるとともに、国語科はもとより、観察・実験やレポート作成といった各教科における学習活動を工夫することも大切である。

「知識」に関する問題では、語句の意味を理解して正しく使うこと、文の成分の照応、生活の場に応じて敬語を使うことは相当数の生徒ができているが、文脈に即して漢字を正しく読んだり、書いたりすることには課題がみられる。

- 漢字の読み書きについては、他教科等の学習をはじめ、学校生活全体の様々な場面において、日常の会話や記述でも意識して指導することが大切である。
- 繰り返し学習による知識の定着に加え、文脈に即して理解したり、漢字に対する意識を高めたりするなど指導方法を工夫することが大切である。

「活用」に関する問題では、グラフから必要な情報を取り出して書くことや、作品の構成や内容を読み取り相手に伝わるように書くことについては多くの生徒ができている。複数の資料を読み込んだり、比較して書いたりすることについては課題がみられる。

- 複数の資料を比較し整理してまとめることには課題がみられたことから、非連続型テキストを含め、様々な資料から必要な情報を取捨選択し目的に応じてまとめるような学習活動を工夫することが大切である。
- 知識・技能を目的に応じて活用する力を身に付けさせるため、社会的な事柄を含む広い範囲から課題を見付け、根拠を明確にししながら自分の考えをまとめて簡潔に記述するなどの指導を工夫することが大切である。

生活の中で読書を習慣化したり、相手や場面を意識した言葉づかいに気を付けたりする生徒の平均正答率が高い傾向がみられる。

- 県内でも多くの学校が朝読書に取り組んでいるが、更に主体的な読書習慣の形成につながるよう、学校図書館の効果的な活用を含め読書指導を工夫することが大切である。
- 言葉についての意識を高めるため、国語科を中心に、学校の教育活動全般を通して言語環境を整える取組が大切である。

#### ④ 中学校数学

##### ア 全体的な結果について

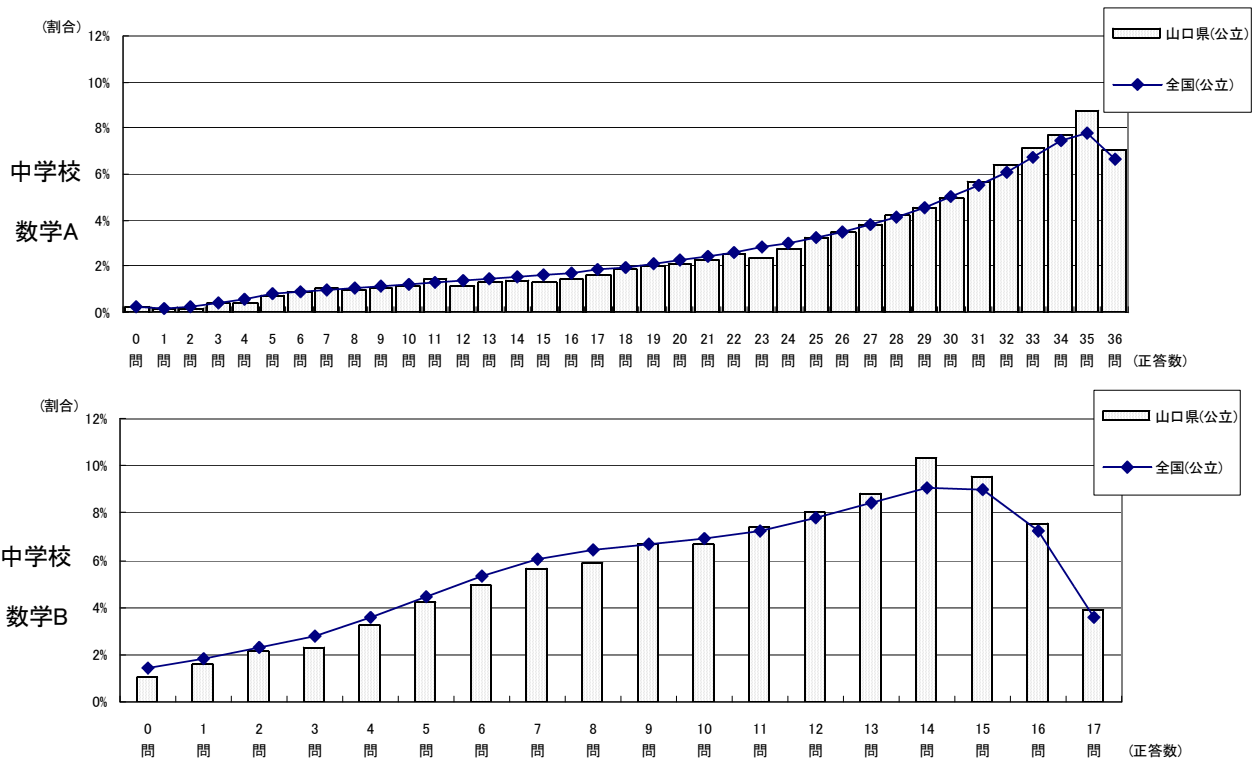
「知識」に関する問題については、相当数の生徒が今回出題されている学習内容を理解しているが、「活用」に関する問題については、「知識」に関する問題に比べ平均正答率が低く、知識・技能を活用する力に課題がみられる。

	問題A (主として「知識」に関する問題)		問題B (主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数(問・36問中)	平均正答率(%)	平均正答数(問・17問中)	平均正答率(%)
山口県	26.4	73.3	10.6	62.4
全国	25.9	71.9	10.3	60.6

##### イ 正答数の分布について

正答数の分布については、「知識」「活用」のいずれに関する問題も右よりの単峰分布の形状となっている。「活用」に関する問題では、「知識」に関する問題に比べ中間層の生徒の割合が高い傾向がみられる。

全国平均の分布と概ね同じ傾向がみられるが、「知識」「活用」のいずれに関する問題も、全国平均に比べ正答数の多い生徒の割合が高い傾向がみられる。

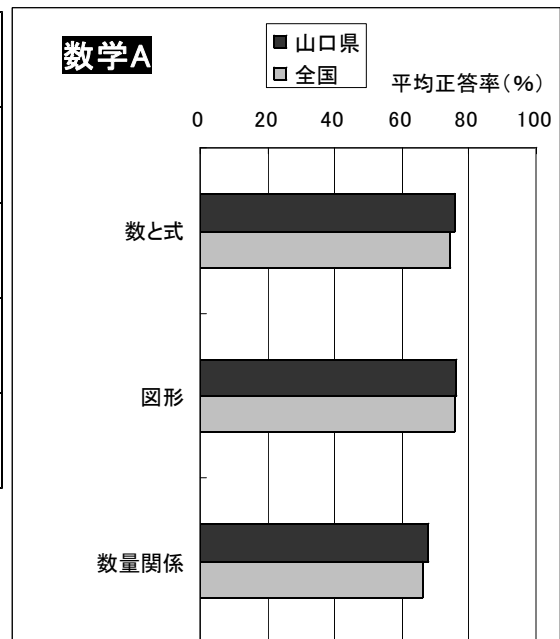


## ウ 学習指導要領の領域ごとの結果

- 「知識」に関する問題においては、「数量関係」領域の平均正答率が70%を下回っており、課題がみられる。
- 「活用」に関する問題においては、「数と式」「図形」領域のいずれも平均正答率が60%を下回っており、課題がみられる。
- 「知識」「活用」のいずれに関する問題においても、すべての領域について平均正答率が全国平均を上回っている。

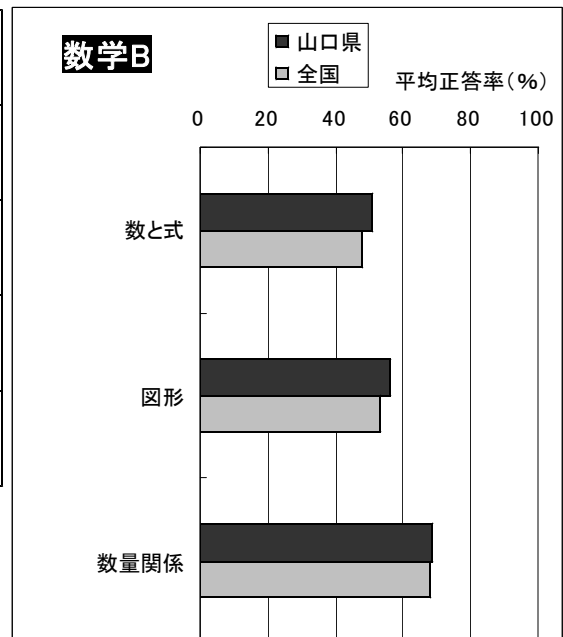
学習指導要領の領域	数学A（知識）	
	山口県	全国
数と式	75.3	74.4
図形	76.4	75.5
数量関係	68.1	65.9

平均正答率（%）



学習指導要領の領域	数学B（活用）	
	山口県	全国
数と式	51.0	48.2
図形	56.3	53.1
数量関係	68.9	67.9

平均正答率（%）

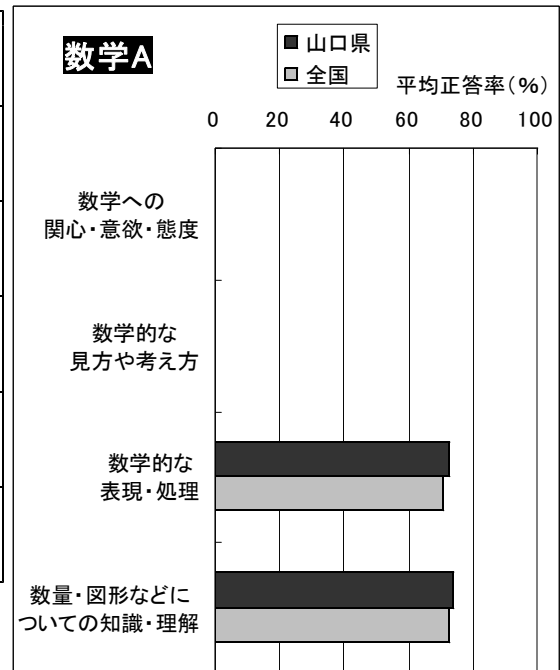


## エ 評価の観点ごとの結果

- 「知識」に関する問題においては、「数学的な表現・処理」「数量・図形などについての知識・理解」のいずれも平均正答率が70%を上回っている。
- 「活用」に関する問題においては、「数学的な見方や考え方」の平均正答率が58.3%と低く、課題がみられる。
- 「知識」「活用」いずれに関する問題においても、すべての観点について平均正答率が全国平均を上回っている。

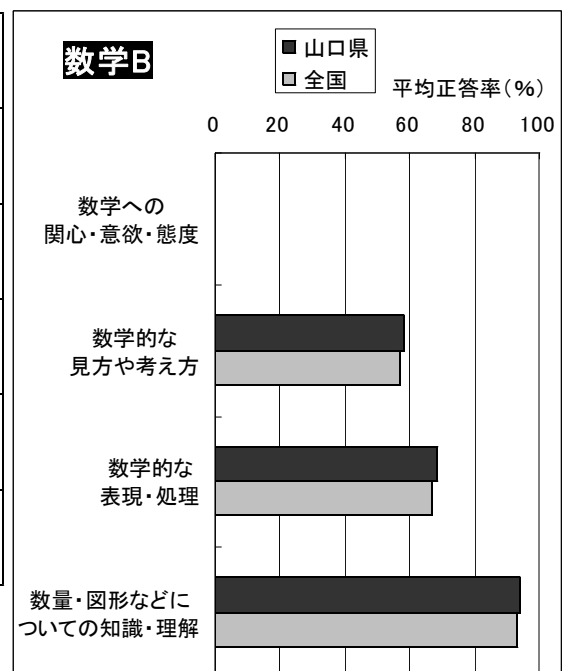
評価の観点	数学A (知識)	
	山口県	全国
数学への関心・意欲・態度	—	—
数学的な見方や考え方	—	—
数学的な表現・処理	72.6	70.6
数量・図形などについての知識・理解	73.7	72.8

平均正答率 (%)



評価の観点	数学B (活用)	
	山口県	全国
数学への関心・意欲・態度	—	—
数学的な見方や考え方	58.3	56.5
数学的な表現・処理	68.5	66.5
数量・図形などについての知識・理解	93.7	93.0

平均正答率 (%)

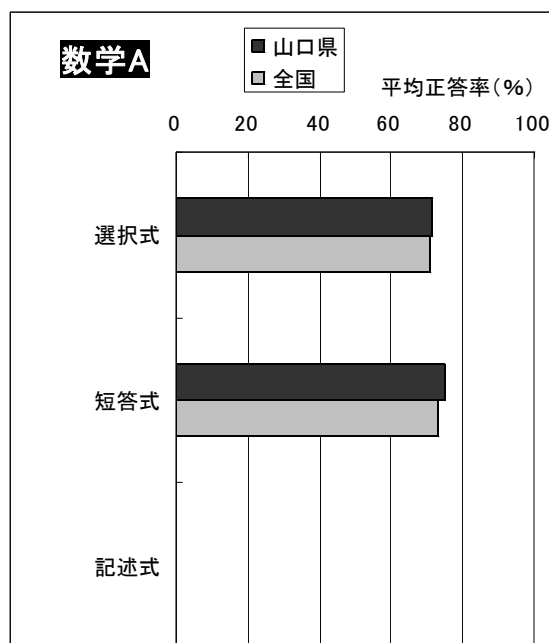


## オ 問題形式ごとの結果

- 「知識」に関する問題では、「選択式」「短答式」のいずれも平均正答率が70%を上回っている。
- 「活用」に関する問題では、「記述式」の平均正答率が46.8%と低く、課題がみられる。
- 「知識」「活用」いずれに関する問題においても、すべての問題形式において平均正答率が全国平均を上回っている。

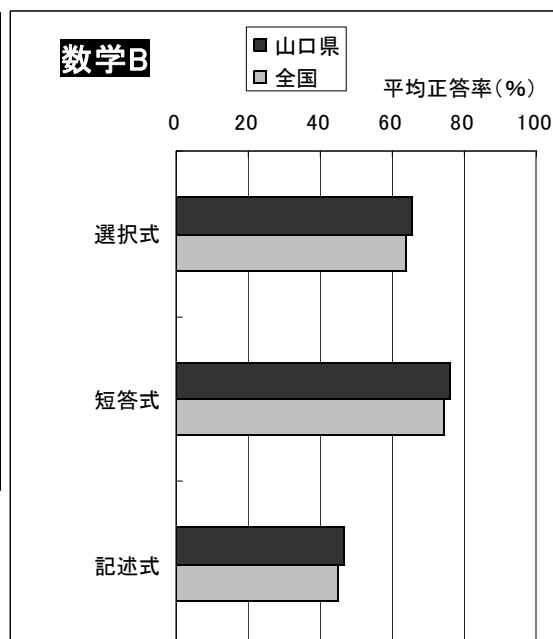
問題形式	数学A (知識)	
	山口県	全国
選択式	71.7	70.9
短答式	74.9	73.0
記述式	—	—

平均正答率 (%)



問題形式	数学B (活用)	
	山口県	全国
選択式	65.7	63.9
短答式	76.0	74.2
記述式	46.8	45.1

平均正答率 (%)



カ 設問ごとの結果  
数学A

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域			評価の観点			問題形式		山口県		全国	
			数と式	図形	数量関係	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方の表現・処理	数量・図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)
1(1)	$2/3 \div 5/7$ を計算する	分数の除法の計算をすることができる	○				○		○		82.8	6.7	82.5	7.0
1(2)	$1/3, 0, -2.4, -1/2$ の中から、最小の数を選ぶ	正の数と負の数の大小関係を理解している	○					○	○		86.8	0.2	85.2	0.3
1(3)	$2 \times (-3)^2$ を計算する	指数を含む正の数と負の数の計算をすることができる	○				○		○		88.5	1.2	88.3	1.5
1(4)	$8-5 \times (-6)$ を計算する	四則を含む正の数と負の数の計算をすることができる	○				○		○		80.6	1.7	77.1	1.9
2(1)	$(2x+7y)-2(x-3y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算をすることができる	○				○		○		74.7	3.2	72.9	3.8
2(2)	$a=5, b=-4$ のときの式 $3a+5b$ の値を求める	文字式に数値を代入して式の値を求めることができる	○				○		○		84.4	6.4	83.1	7.3
2(3)	縦 $a$ 、横 $b$ の長方形において、 $2(a+b)$ が表す量を選ぶ	文字式の意味を、具体的な事象の中でよみとることができる	○				○	○			62.5	0.5	62.6	0.7
2(4)	$2x+3y=9$ を $y$ について解く	等式を目的に合うように変形することができる	○				○		○		56.2	11.9	55.9	12.9
3(1)	一次方程式を解くとき、移項の意味を選ぶ	方程式の移項と等式の性質の関係を理解している	○					○	○		61.2	1.2	60.8	1.4
3(2)	$4(x+5)=80$ を解く	( ) を含む一元一次方程式を解くことができる	○				○		○		83.1	7.2	82.9	7.1
3(3)	数量の関係を連立二元一次方程式で表す	数量の関係をとらえ、連立二元一次方程式を立式することができる	○				○		○		70.8	12.2	70.4	12.3
3(4)	連立方程式 $5x+7y=3, 2x+3y=1$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	○				○		○		72.1	10.6	71.9	9.8
4(1)	線対称な図形の対称軸を選ぶ	線対称な図形の対称軸を理解している	○					○	○		82.5	0.7	83.3	0.9
4(2)	角の二等分線の作図の手順を選ぶ	角の二等分線の作図の手順を理解している	○					○	○		86.5	0.6	85.7	0.8
5(1)①	直方体において、与えられた面に垂直な辺を書く	空間での平面と直線の位置関係(面と辺の垂直)について理解している	○					○	○		68.4	3.7	65.9	4.0
5(1)②	直方体において、与えられた辺とねじれの位置にある辺を書く	空間での直線と直線の位置関係(ねじれの位置)について理解している	○					○	○		72.0	4.1	70.1	4.6
5(2)	長方形を1回転させてできる立体を選ぶ	円柱が長方形の回転により構成されていることについて理解している	○					○	○		87.2	0.6	86.7	0.7
5(3)	円錐の展開図を選ぶ	円錐の見取図を展開図へ置き換えることを理解している	○					○	○		88.1	0.5	88.1	0.6
5(4)	円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ	底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している	○					○	○		37.7	0.8	36.5	0.8
6(1)	平行線の同位角の大きさが等しいことを利用して、角の大きさを求める	平行線に直線が交わってできる角の性質を理解している	○					○	○		91.7	2.3	91.3	2.5
6(2)	円周角から中心角を求める	同じ弧に対する円周角と中心角の関係を理解している	○					○	○		86.9	5.6	85.4	6.3
6(3)	平行四辺形になるための条件を表した記号をもとに、正しく述べられた文を選ぶ	記号を用いて表された辺の位置関係や相等関係の意味を理解している	○					○	○		68.4	0.8	66.4	0.9
7	証明の意義や必要性について、正しいものを選ぶ	証明の意義について理解している	○					○	○		71.9	1.2	72.9	1.2
8	証明で用いられた三角形の合同条件を選ぶ	証明をよみ、用いられた三角形の合同条件を理解している	○					○	○		74.9	0.8	73.2	1.0





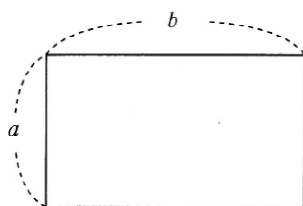
キ 課題と学習指導上の改善点

「知識」に関する問題

- 文字式の計算とその利用

与えられた文字式の意味を具体的な事象の中でよみとることに課題がみられる。【正答率 62.5%】

(3) 次の図のような、縦の長さが  $a$ 、横の長さが  $b$  の長方形があります。  
このとき、 $2(a+b)$  は、何を表していますか。下のアからオの中から1つ選びなさい。



- ア 長方形の面積  
イ 長方形の面積の2倍  
ウ 長方形の周の長さ  
エ 長方形の周の長さの2倍  
オ 長方形の対角線の長さ

	数学A 2 (3)	解答類型	反応率 (%)	正答
1	アと解答しているもの		9.5	
2	イと解答しているもの		16.5	
3	ウと解答しているもの		62.5	◎
4	エと解答しているもの		10.0	
5	オと解答しているもの		1.1	
6	無解答		0.4	

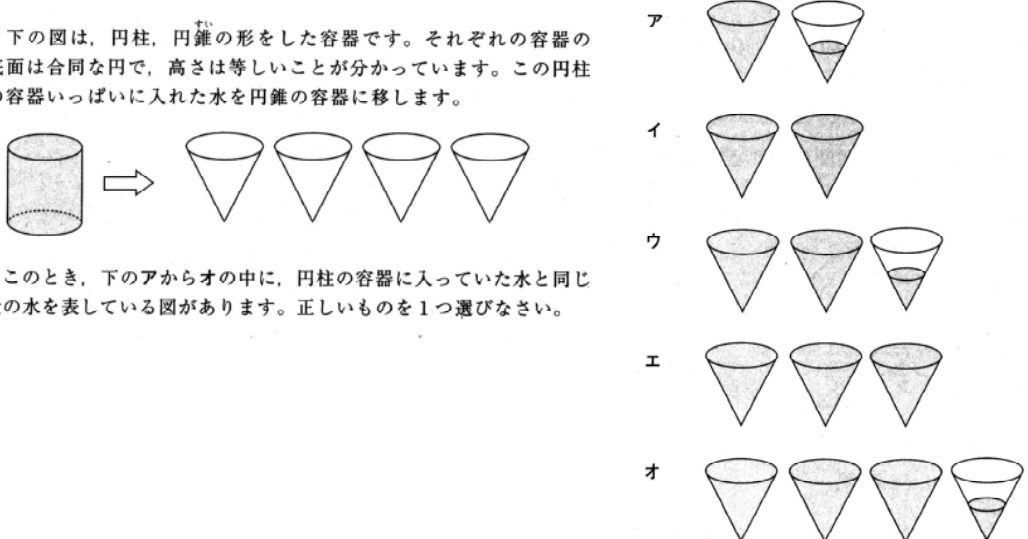
【学習指導上の改善点】

- 文字式に数を代入して、自らの判断を確かめるようにすることが大切である。  
本問題では、選択肢アを選んだ生徒に対しては、縦の長さ  $a$  を4、横の長さ  $b$  を6として、もとの式  $2(a+b)$  に代入して計算した値20が、長方形の面積24と一致しないことから、誤りに気付くようにすることが考えられる。
- 文字式を具体的な事象に即した言葉で表現し直す活動を通して、文字式が具体的な事象で何を表しているのかを理解できるようにすることが大切である。  
本問題では、選択肢ア、イを選んだ生徒に対しては、文字式  $2(a+b)$  を言葉で「縦の長さ と横の長さの和の2倍」と表し、この式が長方形の面積を表していないことに気付くようにすることが考えられる。
- 具体的な事象での数量やその関係を文字式や方程式で表すこと、文字式や方程式から具体的な事象の数量やその関係をよみとることの両方をできるようにすることが大切である。

○ 空間図形

円錐の体積を、底面が合同で高さが等しい円柱の体積との関係において理解することに課題がみられる。【正答率 37.7%】

(4) 下の図は、円柱、円錐の形をした容器です。それぞれの容器の底面は合同な円で、高さは等しいことが分かっています。この円柱の容器いっぱいに入れた水を円錐の容器に移します。



このとき、下のアからオの中に、円柱の容器に入っていた水と同じ量の水を表している図があります。正しいものを1つ選びなさい。

	数学A 5 (4)	解答類型	反応率 (%)	正答
1	アと解答しているもの		13.4	
2	イと解答しているもの		37.3	
3	ウと解答しているもの		8.5	
4	エと解答しているもの		37.7	◎
5	オと解答しているもの		2.4	
6	無解答		0.7	

【学習指導上の改善点】

- 柱体と錐体の体積の関係について、実験や実測を通して、実感を伴って理解できるようにすることが大切である。  
本問題では、水を円柱から円錐に移す場面において予想を立て、実験や実測を通して確かめることが考えられる。また、水を円錐から円柱に移すという逆の場面についても取り上げ、双方向から理解を深めることも考えられる。
- 平面図形の面積と空間図形の体積とを対比することで、それぞれの特徴を的確に理解できるようにすることが大切である。  
本問題で選択肢イを選んだ生徒には、底辺と高さがそれぞれ等しい三角形と平行四辺形の面積の比は1:2であるのに対し、底面積と高さがそれぞれ等しい円錐と円柱の体積の比は1:2とはならないこと等、平面図形の面積比と空間図形の体積比が異なることを数学的活動を通じて理解させることが大切である。
- 見た目だけで判断するのではなく、その判断の根拠を明らかにし、それに基づいて説明できるようにすることが大切である。

○ 確率の意味・場合の数

ある試行を多数回繰り返したときに、ある事象の起こる回数の割合は、ある安定した値をとるといった傾向がみられるといった「大数の法則」を基にして確率の意味を理解することに課題がみられる。【正答率 49.2%】

14 次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 1の目が出る確率が $\frac{1}{6}$ であるさいころがあります。このさいころを投げるとき、どのようなことがいえますか。下のアからオの中から正しいものを1つ選びなさい。

ア 5回投げて、1の目が1回も出なかったとすれば、次に投げると必ず1の目が出る。

イ 6回投げるとき、そのうち1回は必ず1の目が出る。

ウ 6回投げるとき、1から6までの目が必ず1回ずつ出る。

エ 30回投げるとき、そのうち1の目は必ず5回出る。

オ 3000回投げるとき、1の目はおよそ500回出る。

	数学A 14 (1)	解答類型	反応率 (%)	正答
1	アと解答しているもの		3.3	
2	イと解答しているもの		27.2	
3	ウと解答しているもの		10.6	
4	エと解答しているもの		8.6	
5	オと解答しているもの		49.2	◎
6	無解答		1.1	

【学習指導上の改善点】

○ 確率の学習においては、確率を求めることに重点が置かれることが多いが、確率の意味について理解できるようにすることも大切である。

例えば、確率を求める際に、その確率を基にして事象を振り返り、その確率が事象の起こり得る程度を表す数であることを確認することが考えられる。

○ さいころなどを多数回投げる実験を通して、投げた全体の回数に対するある事象の回数の割合が、途中で揺れ動くことはあっても、投げる回数を増やしていくと一定の値に近づいていくことを実感させることが大切である。その際には、途中の目の出方を振り返ることで、確率が日常的な事象では確定的な値ではないことを理解できるようにすることも考えられる。

「活用」に関する問題

○ 問題解決の構想と結果の振り返り

課題を解決するために用いる文字式を、与えられた条件を踏まえて見付け出し、さらに、その式が適切であることを数学的な表現を用いて説明することに課題がみられる。【正答率(式) 52.8%、(理由) 45.4%】

3 あるサッカー大会では、5チームが他のすべてのチームと1回ずつ試合をし、下の表のような結果になりました。

	勝った試合数	負けた試合数	引き分けた試合数
Pチーム	2	2	0
Qチーム	3	1	0
Rチーム	2	0	2
Sチーム	0	3	1
Tチーム	1	2	1

この大会では、次のようにして順位が決められました。

順位の決め方

1試合ごとに勝ったチームに3点、負けたチームに0点、引き分けると両チームに1点ずつ与え、合計点数の多いチームを上位として順位を決める。

次の(1)から(3)までの各問に答えなさい。

(1) 前ページの順位の決め方にしたがうと、Rチームの合計点数は何点になりますか。

(2) この大会で1位になったのはどのチームですか。下のアからオの中から1つ選びなさい。

ア Pチーム  
イ Qチーム  
ウ Rチーム  
エ Sチーム  
オ Tチーム

(3) この大会の順位は、前ページの順位の決め方から、勝った試合数を $a$ 、引き分けた試合数を $b$ とすると、 $3a + b$ の値で決まります。

麻衣さんは、この大会の順位の決め方について、次のように言っています。

負けたチームは0点とすることを变えずに、勝った場合や引き分けた場合に与える点数を変えると、順位が変わると考えて、新しい式をつくりました。その式で合計点数を計算すると、QチームとRチームの合計点数が同じで、両チームが1位になりました。

QチームとRチームの合計点数が同じで、両チームが1位になるような式を $a$ 、 $b$ を使って表しなさい。また、その式で、QチームとRチームが同点で1位になることを説明しなさい。

	数学B 3 (3) (式) 解答類型	反応率 (%)	正答
1	勝った場合の点数と引き分けた場合の点数の比が2 : 1になっている式を解答しているもの (点数が負の数場合は除く) 例1 $2a + b$ 例2 $4a + 2b$ 例3 $3a + 3b/2$	52.7	◎
2	上記1以外で、QとRが同点で1位になるような式を解答しているもの 例1 $2a + b + 1$	0.1	◎
3	勝った場合の点数と引き分けた場合の点数の比が2 : 1になっていない式を解答しているもの	14.5	
4	上記以外の解答	0.2	
5	無解答	32.5	

	数学B ③ (3) (理由)	解答類型	反応率 (%)	正答
	(正答の条件) 次の (a)、(b)、(c) について記述しているもの (a) QチームとRチームが同点になることを示す計算等 (b) QチームとRチームが1位になることを示す計算等 (c) QチームとRチームが同点で1位になるという結論			
1	(a)、(b)、(c) について記述しているもの		6.8	◎
2	(a)、(b) について記述しているもの		0.1	○
3	(a)、(c) について記述しているもの Qチームは、 $2 \times 3 + 0 = 6$ Rチームは、 $2 \times 2 + 1 \times 2 = 6$ したがって、QチームとRチームが同点で1位になる		38.5	○
4	(a) についてのみ記述しているもの		3.3	
5	説明が不十分なもの		13.1	
6	上記以外の解答		0.6	
7	無解答		37.6	

#### 【学習指導上の改善点】

- 問題の条件に基づいて試行を繰り返し、条件に合うものを考案する活動を取り入れることが大切である。

本問題では、問題に対して何をどのようにすればよいのか分からない生徒に対して、まず、教師が実際に式をつくって試行してみせ、それにならって生徒自身が式をつくり、見通しをもって試行を繰り返すことが考えられる。

例えば、仮に得点を求める式を「 $3a + 2b$ 」に変えた場合、QチームとRチームの得点を求め、同点にならないことを示し、その上で、どのように式を変えれば同点で1位になるかについて、生徒自身が見通しをもって試行を繰り返すようにする活動が考えられる。

- 説明には、結論を導くための根拠と筋道が必要である。必要な根拠とその示し方や説明の順序を、生徒自身が理解し構想した上で、実際に説明をしたり、手直ししてよりよいものにしたりすることが大切である。

本問題では、他チームとの比較を基に1位になることを記述していない生徒に対しては、1位であることを説明するには他のチームの点数との比較が必要であることを確認した上で、自分の説明を見直す機会を設けることが考えられる。

○ 事象の数学的な解釈と問題解決の方法

目的に応じて、時間と水温の関係を理想化したり、実験から得られたデータを単純化したりして一次関数とみなし、グラフの特徴を説明することに課題がみられる。【正答率 (2) 31.2%】

グラフに示されていない水温に対応する時間の求め方について、その方法を説明することに課題がみられる。【正答率 (3) 38.3%】

**5** 理科の授業で、水を熱したときの水温の変化を調べる実験をしました。右下の図は、水を熱し始めてからの時間と水温の関係を、2分ごとに10分後までかき入れたものです。

(3) 浩志<sup>ひろし</sup>さんと洋子<sup>ようこ</sup>さんは、「このまま熱し続けると、80℃になる時間は何分後だろうか。」と話し合っています。

**浩志さんと洋子さんの会話**

浩志さん「こんな方法を思いついたよ。」  
 洋子さん「どんな方法なの。説明してみてよ。」  
 浩志さん「 $x$ と $y$ の関係を表したグラフをのぼして、80℃になる時間は何分後かをよみとる方法だよ。」  
 洋子さん「でも、そのままグラフをのぼしても、グラフ用紙の外側になってよみとれないよ。」

水温が80℃になる時間は何分後かを求めるには、浩志さんの考えた方法のほかに、どのような方法が考えられますか。その方法を説明しなさい。  
 ただし、グラフ用紙をつぎたしたり、目盛りの取り方をかえてかき直したりして、グラフをのぼすことはできないこととします。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 水を熱し始めてから10分後の水温は何℃ですか。

(2) 洋子<sup>ようこ</sup>さんは、このグラフを見て、「水を熱し始めてから $x$ 分後の水温を $y$ ℃とすると、 $y$ は $x$ の一次関数とみることができる。」と考えました。「 $y$ は $x$ の一次関数とみることができる」のは、グラフのどのような特徴からですか。その特徴を説明しなさい。

	数学B 5 (2) 解答類型	反応率 (%)	正答
1	点がほぼ直線上に並んでいることを指摘しているもの	17.4	◎
2	上記1で、『まっすぐ』など直線と同様な意味をもつ言葉で解答しているもの	0.7	○
3	時間と水温の2つの量に着目し、「変化の割合が一定である」ことについて解答しているもの	6.8	◎
4	温度の変化のみに着目し、時間の変化について解答していないもの	6.0	○
5	グラフの傾きについて着目しているが、時間を区切ることにについて解答していないもの	0.3	○
6	比例という用語、あるいは比例のグラフの性質を用いて、解答しているもの	19.1	
7	上記以外の解答	21.6	
8	無解答	28.1	

	数学B ⑤ (3) 解答類型	反応率 (%)	正答
(正答の条件) <式を用いることについて記述している場合> 次の (a)、(b) について記述しているもの (a) 一次関数の式を求めて利用すること (b) 一次関数の式に $y = 80$ を代入して $x$ の値を求めること <表や数値を用いることについて記述している場合> 次の (c)、(d) について記述しているもの (c) 表や数値を用いて変化の様子を調べること (d) 水温が $80^{\circ}\text{C}$ のときの時間を調べること			
1	(a)、(b) について文で記述しているもの	13.6	◎
2	(b) において数値「 $y = 80$ 」の記述がないもの、または具体的に求めた式に誤りがある	6.4	○
3	(a)、(b) について文で記述せずに、実際に式から $y = 80$ のときの $x$ の値を求めているもの	1.4	◎
4	上記3で、式を求めて $y$ の値を代入しているが、式や計算に誤りがあるもの	0.8	○
5	(a) または (b) のみ等について記述しているもの	7.0	
6	(c)、(d) について記述しているもの、または実際に表や数値計算から $80^{\circ}\text{C}$ の時間を求めているもの	10.8	◎
7	(d) において数値「水温が $80^{\circ}\text{C}$ のとき」の記述がないもの、または表や計算のみを記述しているもので、その表や計算に誤りがあるもの	5.3	○
8	上記以外の解答	15.8	
9	無解答	38.9	

### 【学習指導上の改善点】

- 日常的な場面や他教科の学習において、数量の関係を理想化したり、実際のデータを単純化したりして、数学的な表現や処理をすることができるようにし、それらを用いて数量関係の特徴を明らかにし、分かりやすく説明することが大切である。  
 例えば、線香の燃える長さや時間のような場面では、燃え方を理想化したり、データを単純化したりすれば、「グラフの点の並び方」や「変化の割合」に着目して一次関数とみなすことができる。このように事象を数量化してとらえる学習場面を設けることが大切である。
- 一次関数と比例の特徴を区別して、ある事象を一次関数とみなせることを説明できるようにすることが大切である。  
 例えば、「比例」と答えた生徒は、「グラフが直線になる」という比例と一次関数とに共通する性質に基づいて判断していると思われる。「グラフは原点を通る」という比例の特徴から、「比例」と「一次関数」を区別する指導を重視することが考えられる。

	数学B ③ (3) (理由)	解答類型	反応率 (%)	正答
	(正答の条件) 次の (a)、(b)、(c) について記述しているもの (a) QチームとRチームが同点になることを示す計算等 (b) QチームとRチームが1位になることを示す計算等 (c) QチームとRチームが同点で1位になるという結論			
1	(a)、(b)、(c) について記述しているもの		6.8	◎
2	(a)、(b) について記述しているもの		0.1	○
3	(a)、(c) について記述しているもの Qチームは、 $2 \times 3 + 0 = 6$ Rチームは、 $2 \times 2 + 1 \times 2 = 6$ したがって、QチームとRチームが同点で1位になる		38.5	○
4	(a) についてのみ記述しているもの		3.3	
5	説明が不十分なもの		13.1	
6	上記以外の解答		0.6	
7	無解答		37.6	

#### 【学習指導上の改善点】

- 問題の条件に基づいて試行を繰り返し、条件に合うものを考案する活動を取り入れることが大切である。

本問題では、問題に対して何をどのようにすればよいのか分からない生徒に対して、まず、教師が実際に式をつくって試行してみせ、それにならって生徒自身が式をつくり、見通しをもって試行を繰り返すことが考えられる。

例えば、仮に得点を求める式を「 $3a + 2b$ 」に変えた場合、QチームとRチームの得点を求め、同点にならないことを示し、その上で、どのように式を変えれば同点で1位になるかについて、生徒自身が見通しをもって試行を繰り返すようにする活動が考えられる。

- 説明には、結論を導くための根拠と筋道が必要である。必要な根拠とその示し方や説明の順序を、生徒自身が理解し構想した上で、実際に説明をしたり、見直してよりよいものにしたりすることが大切である。

本問題では、他チームとの比較を基に1位になることを記述していない生徒に対しては、1位であることを説明するには他のチームの点数との比較が必要であることを確認した上で、自分の説明を見直す機会を設けることが考えられる。



## ケ 全体的な考察と指導の工夫

正答数の分布は、全国と概ね同じ傾向がみられるが、「知識」「活用」のいずれに関する問題も全国に比べ、正答数の多い生徒の割合が高い。各設問ごとの正答率も高く、全国平均を上回る正答率であった問題は、「知識」に関する問題において36問中30問、「活用」に関する問題において17問中16問であった。

- 今後も引き続き、少人数指導やT T等のきめ細かな指導を積み重ねて、学習内容の確実な定着を図ることが大切である。
- 生活場面に近い課題を解決する学習を取り入れるなど、習得した知識や技能を「活用」する授業を構想し、展開することが大切である。

「知識」に関する問題では、底面積と高さが等しい円錐と円柱の体積の関係を明らかにするなど、求積公式についての意味理解に課題がある。

- 立体の体積の学習においては、公式を利用して求積する学習だけでなく、実験や実測といった数学的活動を通して、公式の意味を実感を伴って理解できるような授業を構想し、展開することが大切である。
- 円錐に貯めた水を円柱に移す場面について考察させる場合、逆に、円柱に貯めた水を円錐に移す場面についても考察させるなど、関係の理解においては双方向の見方や考え方を大切にして授業を構想し、展開することが大切である。

「活用」に関する問題では、課題解決の場面において、解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

- 課題解決の方法を説明する活動においては、「どのような概念や数学的表現を用いるのか」と、「それらをどう用いるのか」の両方を明確にするよう指導することが大切である。
- 数学的に説明する活動を用いた授業においては、口答のみならずその内容を論理的かつ合理的に「書く」活動も取り入れて指導することが大切である。
- 生徒同士で話し合い、補足し合って、よりの確な説明に高め合う活動を取り入れるなどの工夫をした授業を構想し、展開することが大切である。
- 記述式の問題における「無解答」が多くみられたことから、日頃から記述による評価方法を取り入れ指導することが大切である。

「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」と答えた生徒の平均正答率が高い傾向がある。

- 課題に対してあきらめずにいろいろな解決方法を模索する意欲や態度を醸成するためには、様々な解法の存在を確認し合う学習活動によって、「解決方法は1つではない」ことを感得させるような授業を構想し展開することが大切である。

### (3) 質問紙調査の結果

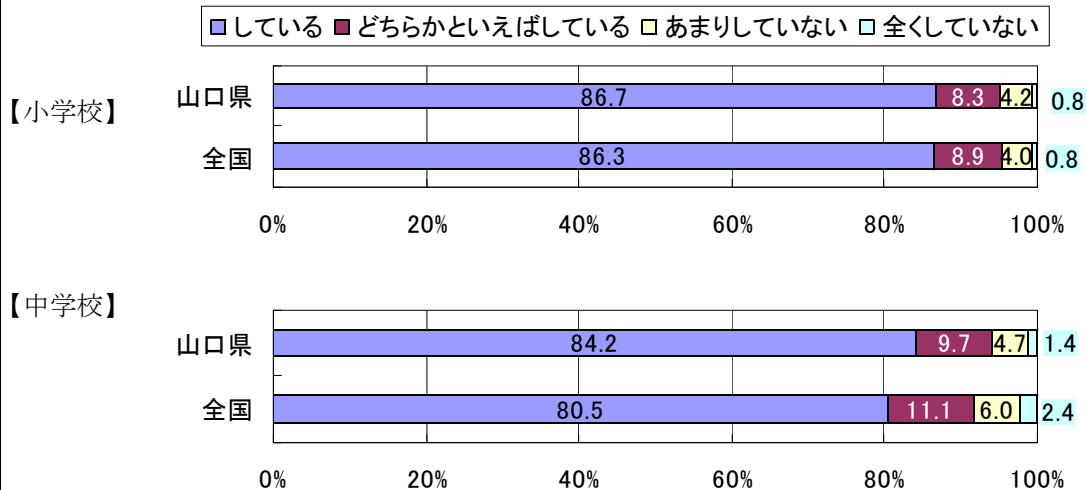
#### ① 児童生徒

##### ア 山口県と全国との比較

##### (ア) 朝食

全国に比べると、朝食を毎日食べている児童生徒の割合は、小学校は同程度、中学校はやや高い傾向にある。

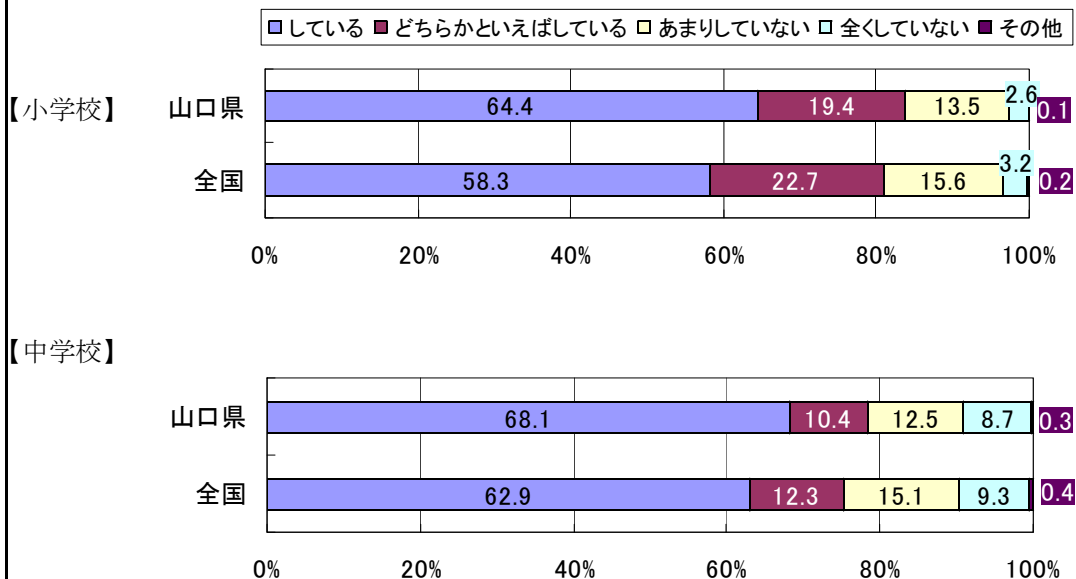
\* 質問 1 朝食を毎日食べていますか。



##### (イ) 外遊び・運動・スポーツ

外に出て遊んだり、運動やスポーツをして体を動かしたりしている児童生徒の割合は全国に比べて高い傾向にある。

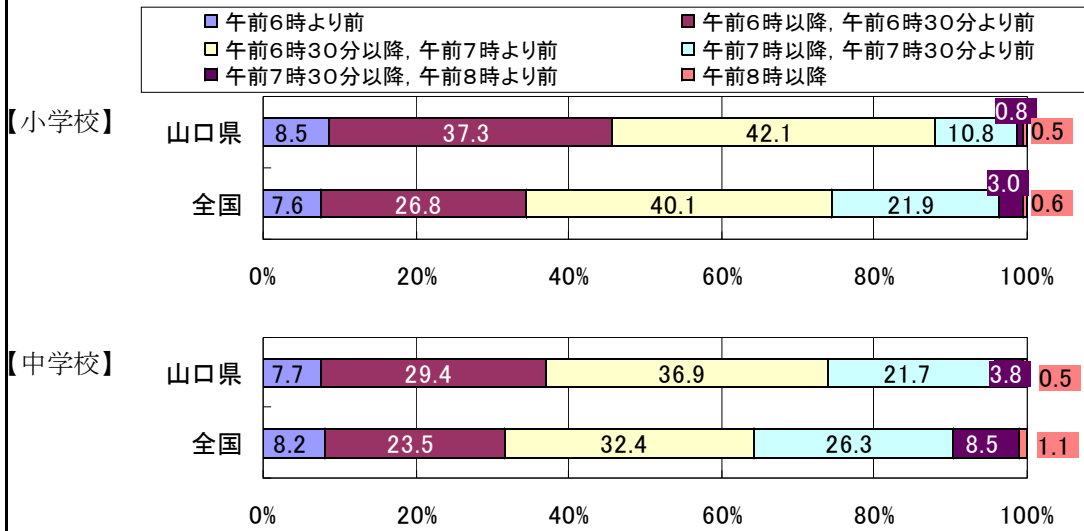
\* 質問 8 外に出て遊んだり、運動・スポーツをして体を動かしたりしていますか。



## (ウ) 起床時間

午前6時30分以前に起きる児童生徒の割合は、全国に比べて高い傾向にある。

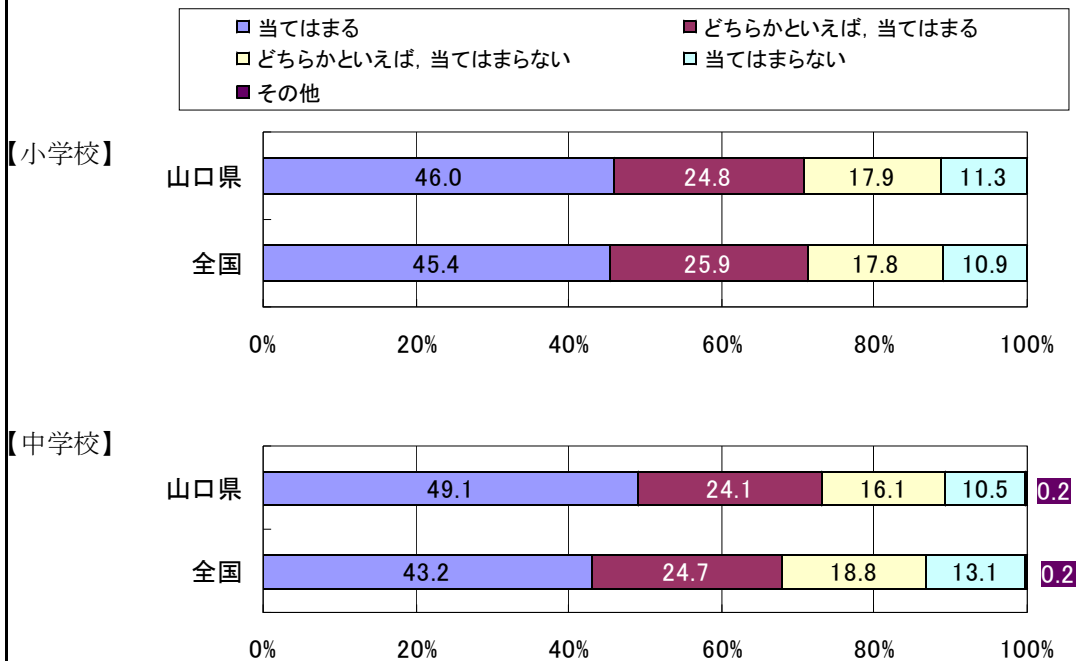
\* 質問13 普段（月～金曜日）、何時ごろ起きますか。



## (エ) 読書

小学校は全国と同じ状況であるが、中学校では読書が好きな生徒の割合が、全国と比べて高い傾向にある。

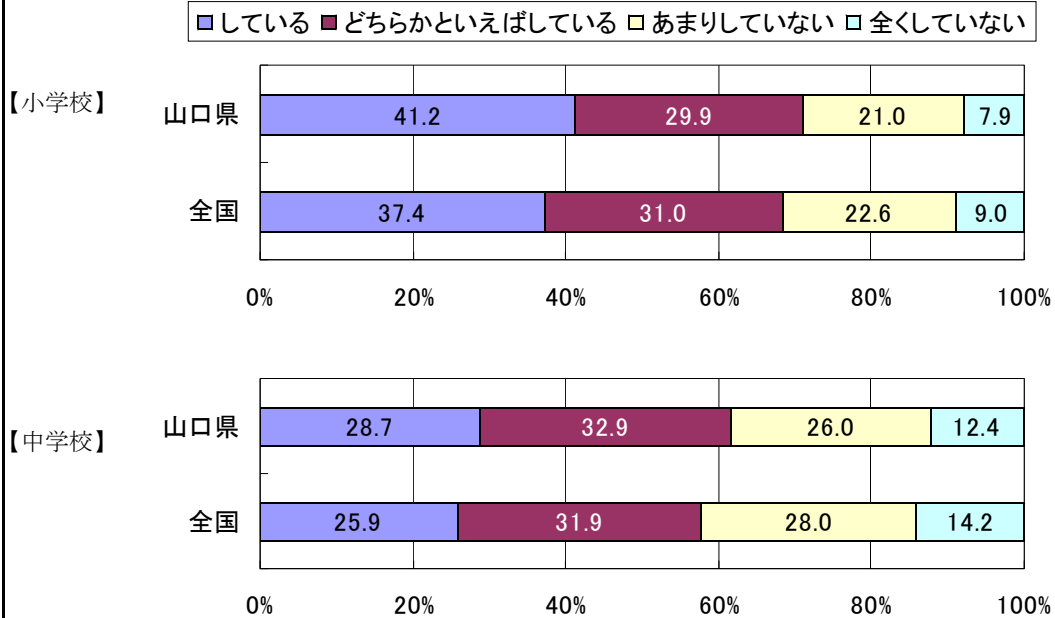
\* (小) 質問71 (中) 質問73 読書は好きですか。



## (オ) 家族とのコミュニケーション

家族とコミュニケーションをとっている児童生徒の割合は、全国とほぼ同様か、やや高い傾向にある。

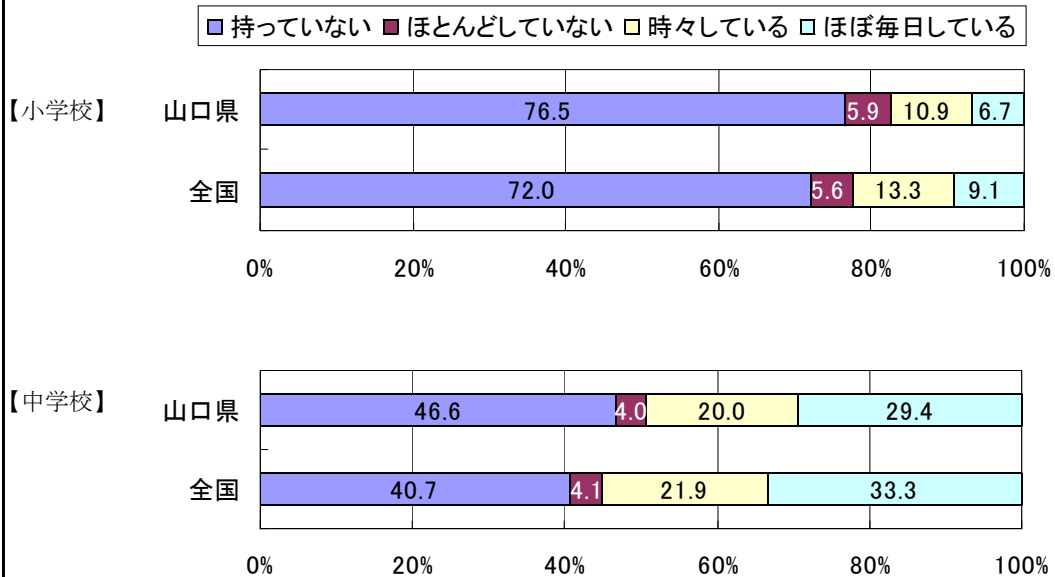
\* (小) 質問27 (中) 質問28 家の人に学校での出来事について話をしていますか。



## (カ) 携帯電話・メールの使用状況

携帯電話・メールを使用している児童生徒の割合は、全国に比べて少ない傾向にある。

\* 質問19 携帯電話で通話やメールをしていますか。



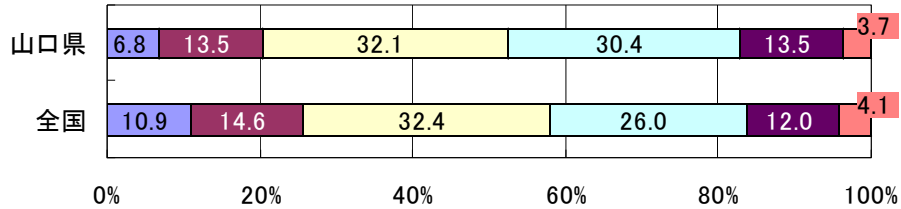
## (キ) 学校の授業時間以外の学習時間

学校以外での学習時間は、全国に比べて少ない傾向にある。

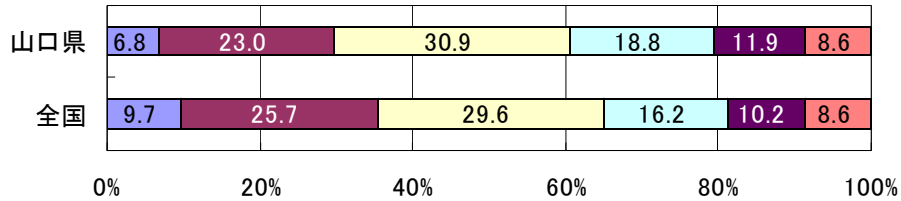
\* 質問21 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

■ 3時間以上      ■ 2時間以上, 3時間より少ない      □ 1時間以上, 2時間より少ない  
□ 30分以上, 1時間より少ない      ■ 30分より少ない      ■ 全くしない

【小学校】



【中学校】



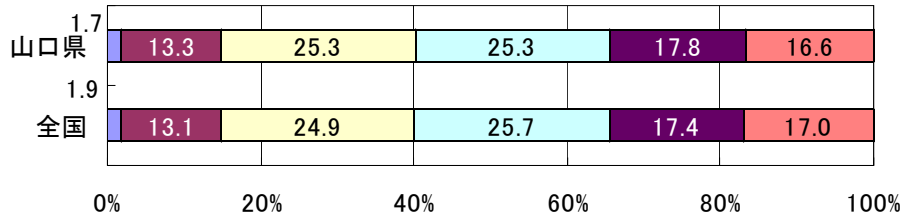
## (ク) テレビやビデオ・DVDの視聴時間

テレビやビデオ・DVDの視聴時間は、全国とほぼ同じ状況にある。

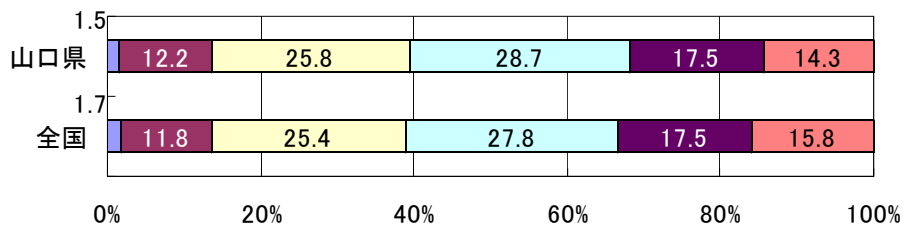
\* 質問17 普段（月～金曜日）1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか。

■ 全く見たり, 聞いたりしない      ■ 1時間より少ない      □ 1時間以上, 2時間より少ない  
□ 2時間以上, 3時間より少ない      ■ 3時間以上, 4時間より少ない      ■ 4時間以上

【小学校】



【中学校】



イ 生活習慣等と教科の結果との関連（詳細なデータは110ページ以降の資料参照）

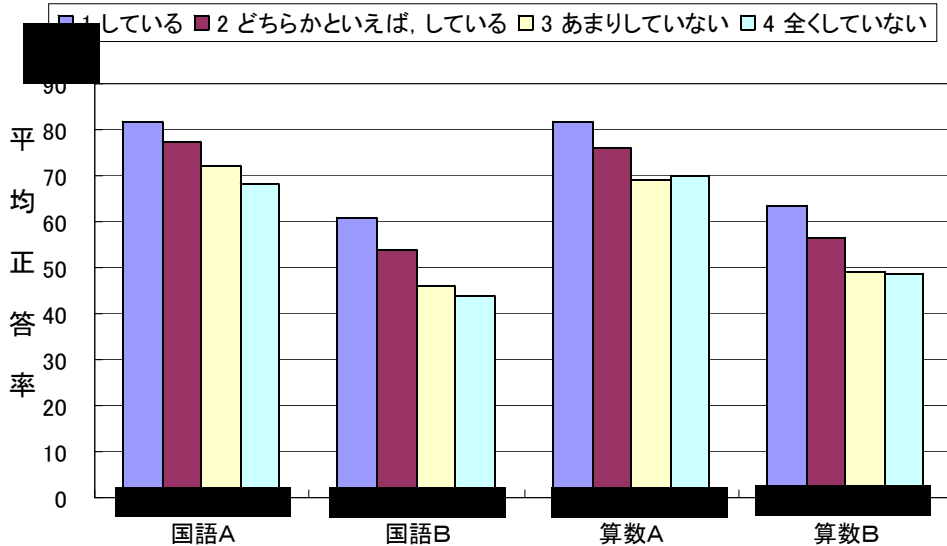
**（ア）生活習慣について**

**【朝食】**

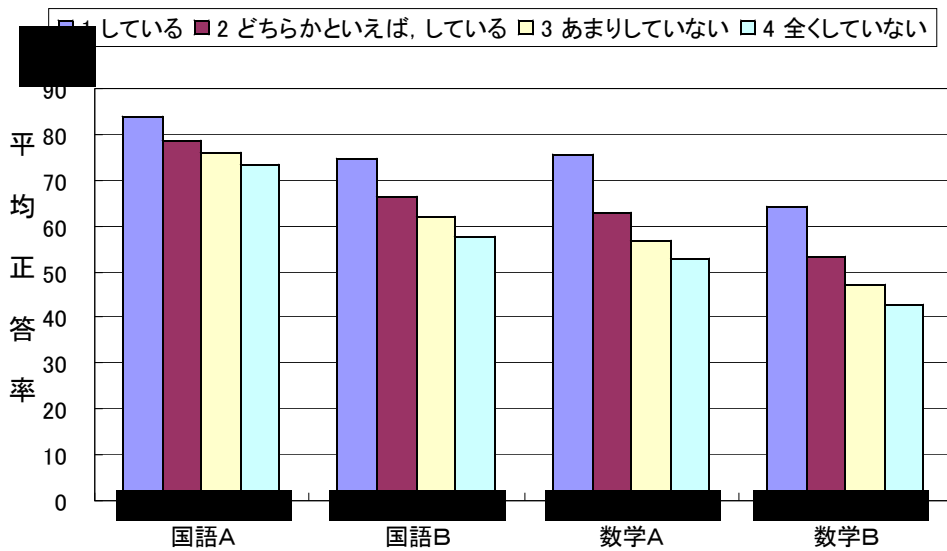
毎日、朝食を食べている児童生徒の平均正答率が高くなっている。また、毎日、朝食を食べている児童生徒は、小・中学校ともに8割を上回っている。

\*質問1 朝食を毎日食べていますか。

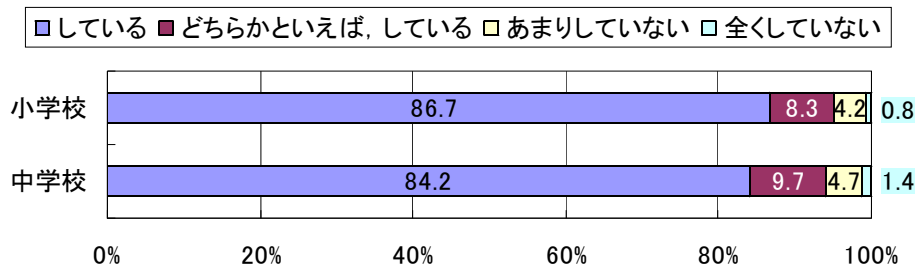
【小学校】



【中学校】



【割合】

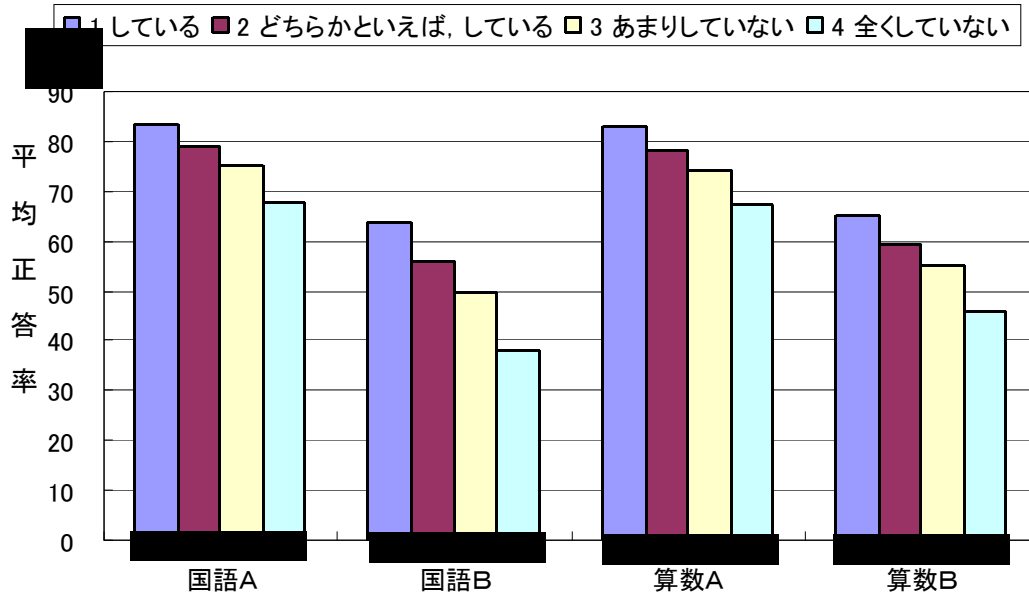


**【 持参物の確認 】**

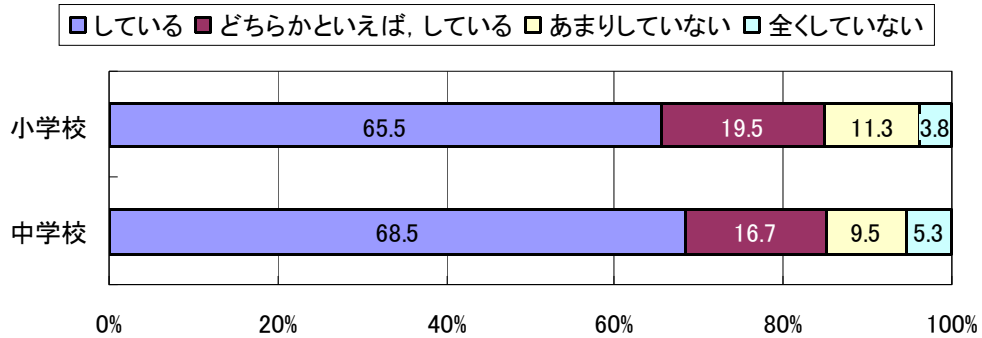
毎日、学校へ持って行くものを確認している児童の平均正答率が高くなっている。  
また、持参物を確認している児童生徒の割合は、小学生も中学生も同じ傾向にある。

\* 質問2 学校に持って行くものを、前日かその日の朝に確かめていますか。

【小学校】



【割合】

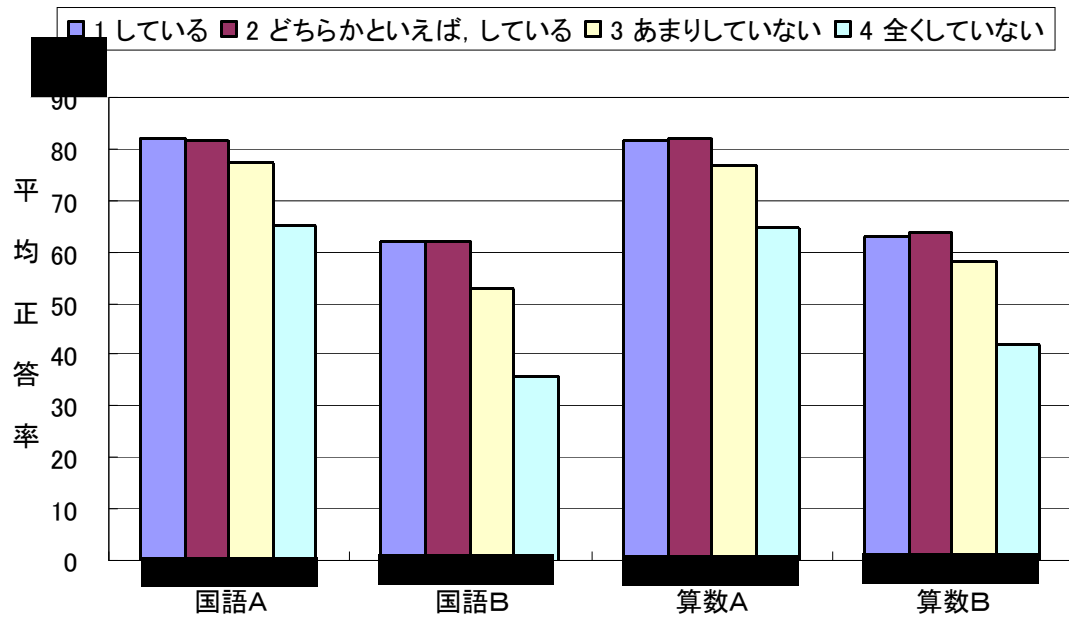


## 【身の回りのこと】

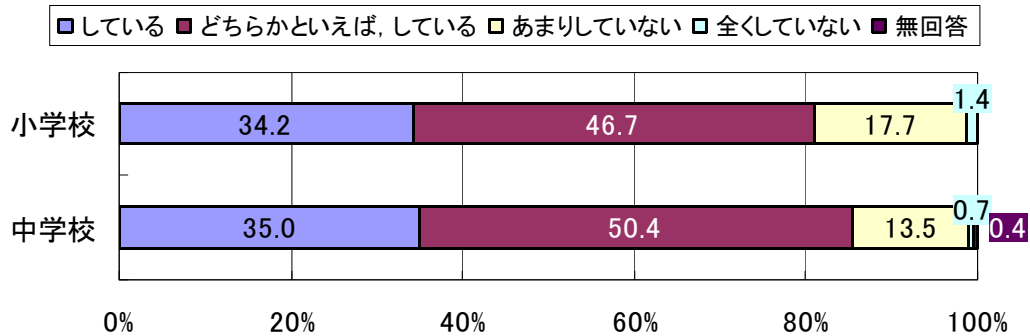
身の回りのことを自分では全くしていないと答えた児童の平均正答率が最も低くなっている。また、小学校で約20%、中学校で約15%の児童生徒が、身の回りのことを自分ではあまりしていないと答えている。

\* 質問3 身の回りのことは、できるだけ自分でしている。

【小学校】



【割合】



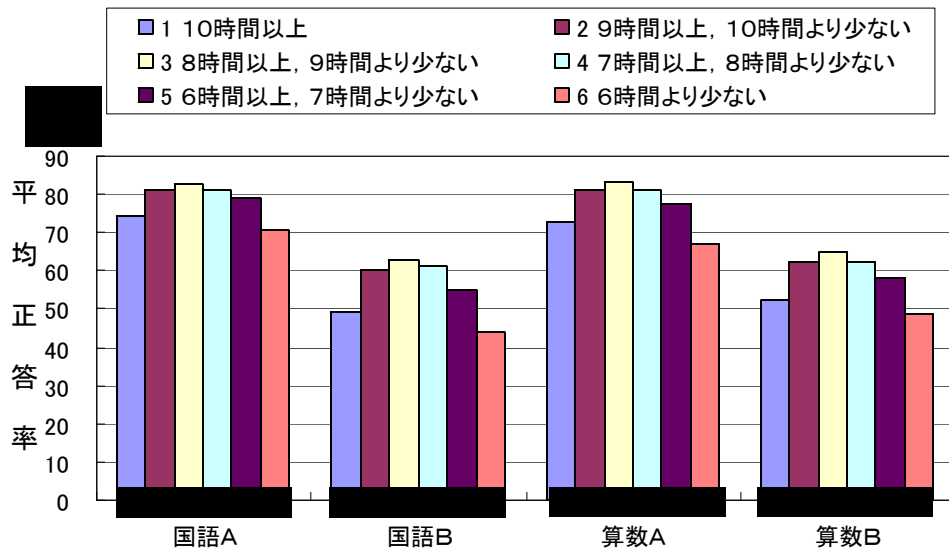


**【睡眠時間】**

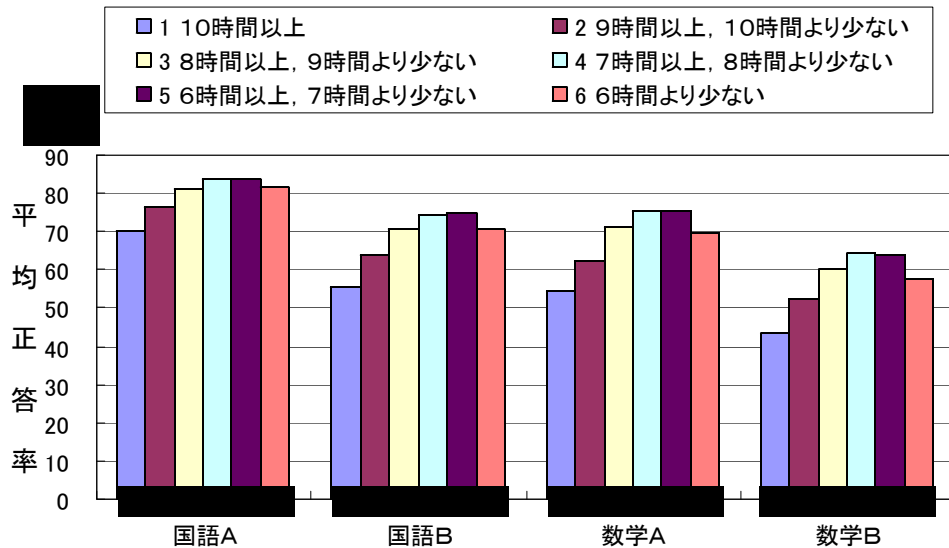
小学校では、睡眠時間が6時間より少ない児童、中学校では、睡眠時間が10時間以上の生徒の平均正答率が最も低くなっている。また、中学生になると、睡眠時間が少なくなっている。

\* 質問16 普段（月～金曜日）、1日にどれくらいの時間、睡眠をとることが多いですか。

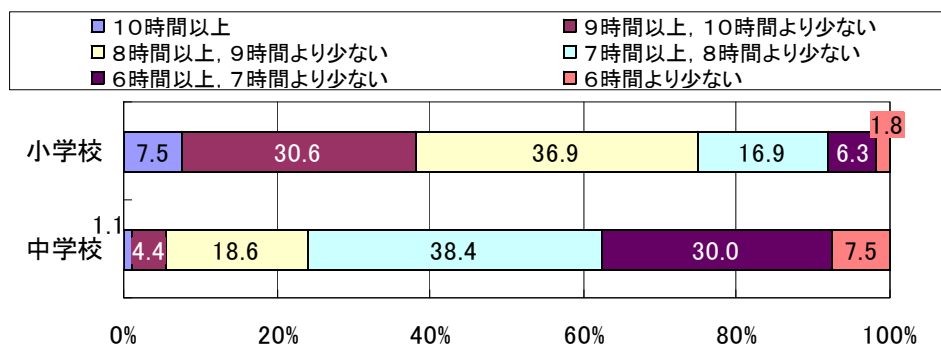
【小学校】



【中学校】



【割合】

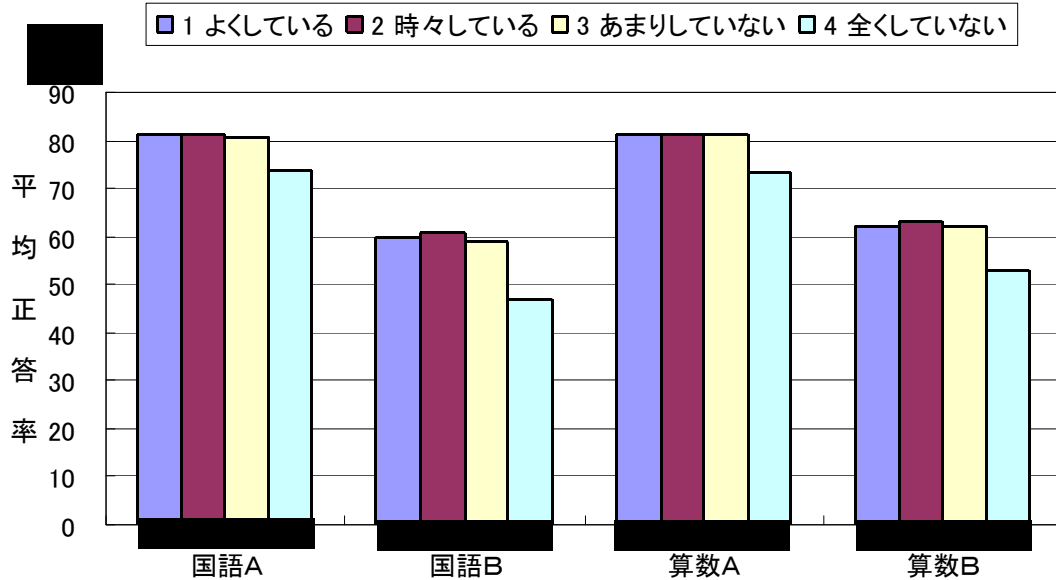


## 【家での手伝い】

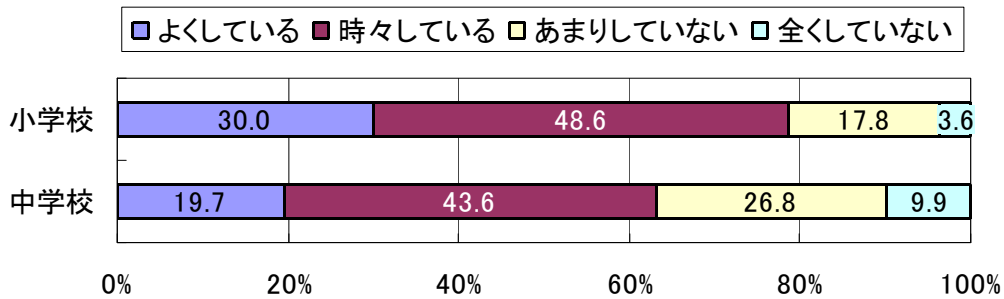
家で手伝いを全くしていないと答えた児童の平均正答率が低く、小学校国語の「活用」の問題では、他の児童と10ポイント以上の差がみられる。また、中学校では手伝いをしていない生徒の割合が高くなっている。

\* (小) 質問29 (中) 質問30 家の手伝いをしていますか。

【小学校】



【割合】



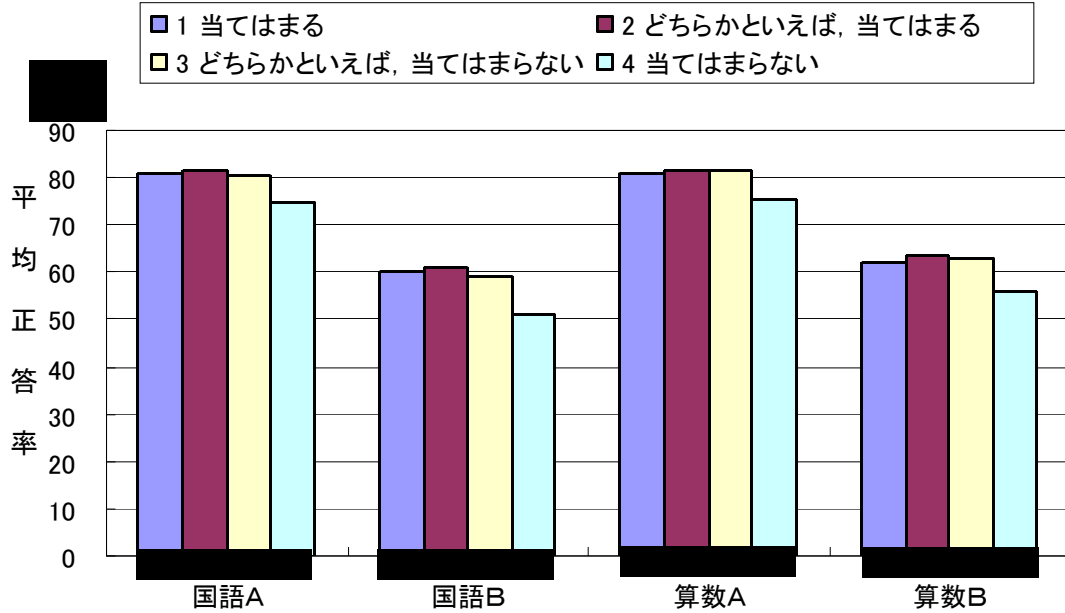
**(イ) 自分自身について**

**【将来の夢や目標】**

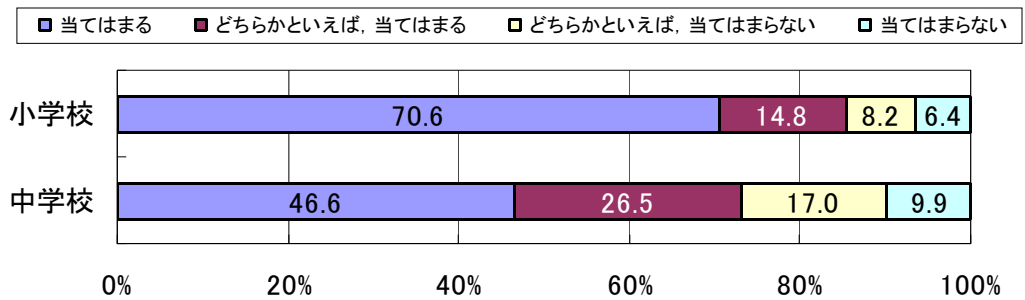
将来の夢や目標をもっていない児童の平均正答率が最も低くなっている。小学校では8割以上の児童がどちらかといえば夢や目標をもっていると答えているが、中学生になると、夢や目標をもっていないと答える割合が増えている。

\* 質問12 将来の夢や目標をもっていますか。

【小学校】



【割合】

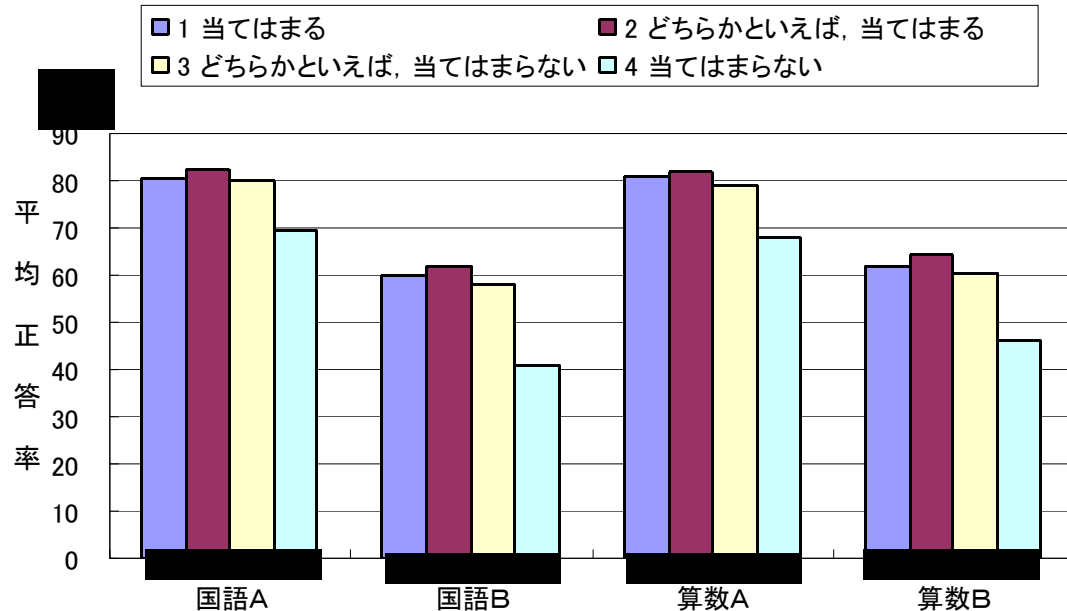


## 【挑戦する意欲】

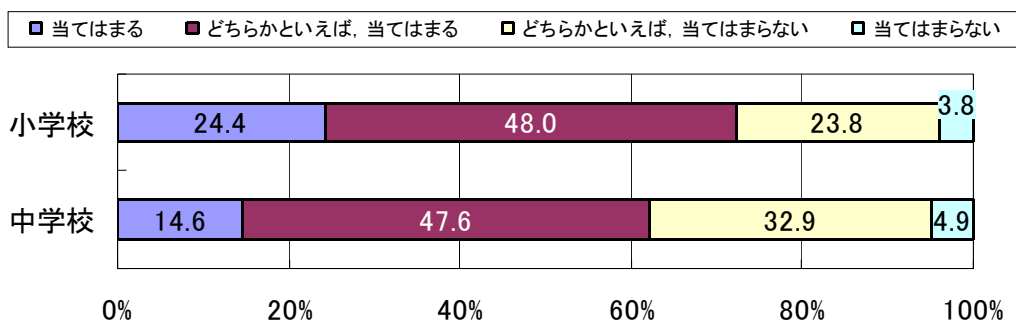
難しいことでも失敗をおそれず挑戦しているかという問いに、当てはまらないと答えた児童の平均正答率が最も低く、小学校ではすべての問題で、他の児童と比べ10ポイント以上の差がみられる。また、その割合は中学校の方が高くなっている。

\* 質問10 難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。

【小学校】



【割合】

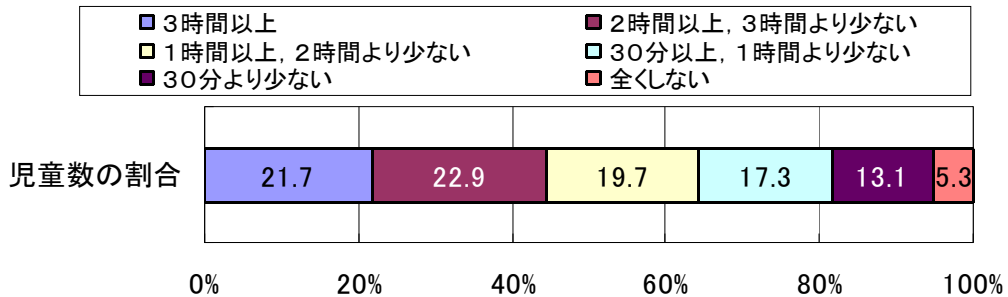
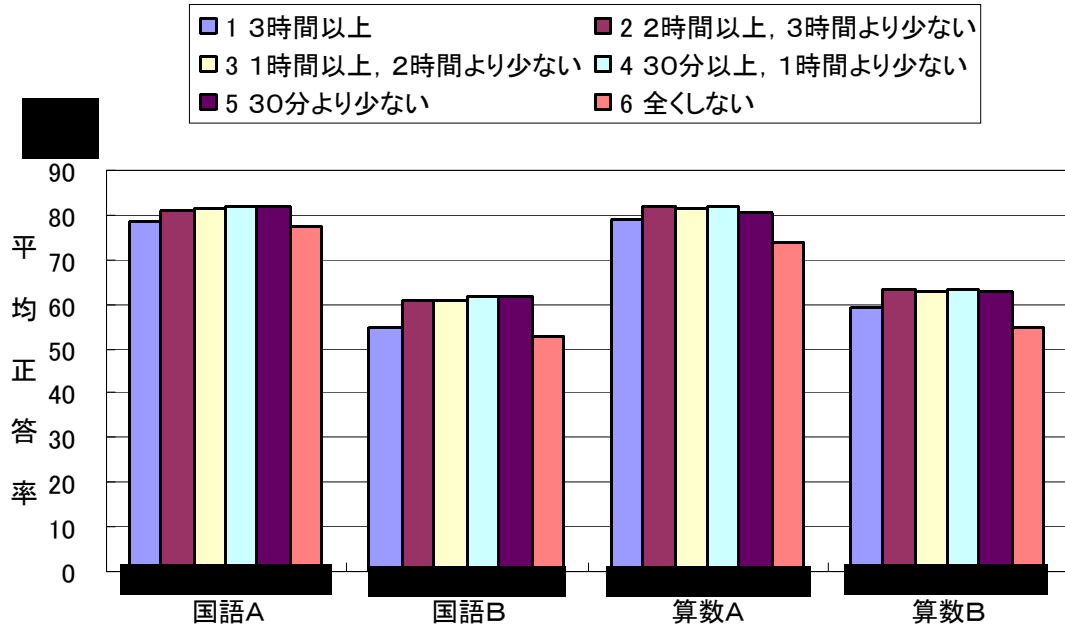


## 【運動・スポーツの時間】

小学校では、運動を全くしないと答えた児童の平均正答率が最も低く、その次は3時間以上運動している児童の平均正答率が低くなっている。

\* 質問20 体育の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、運動・スポーツをしますか。

【小学校】

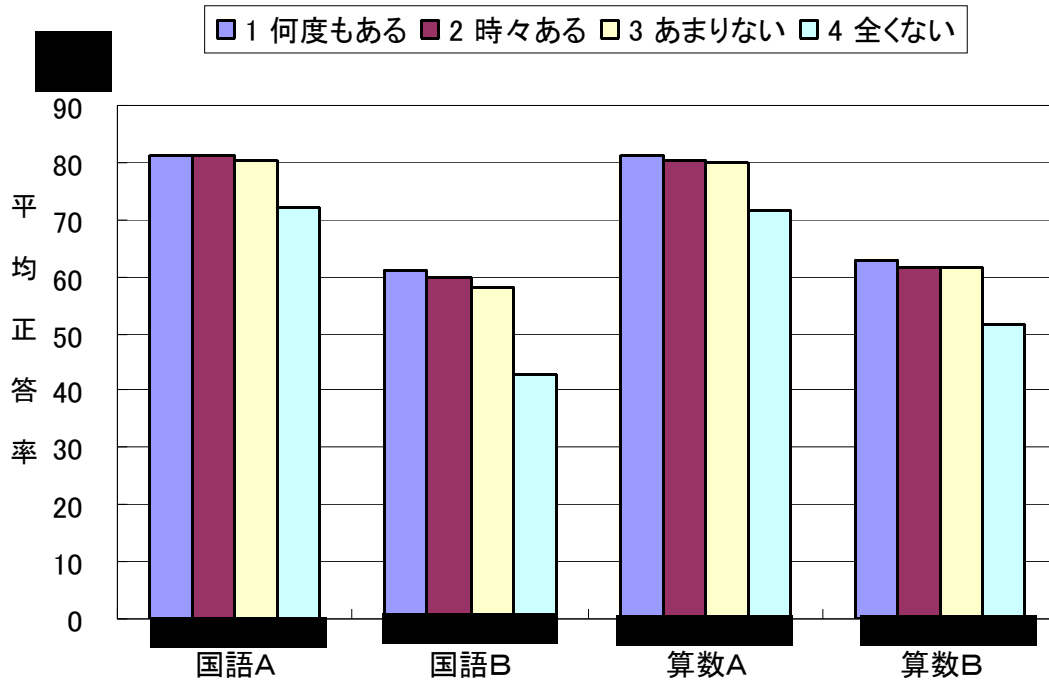


**(ウ) 体験活動について**

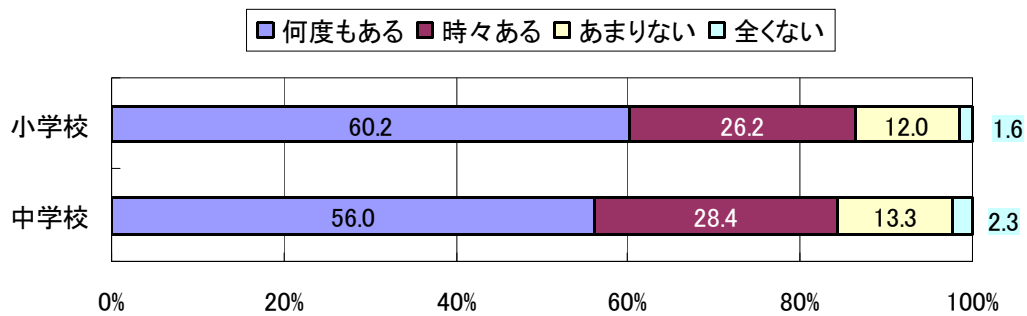
野外で遊んだ体験が少ないと回答した児童の平均正答率が低くなっている。特に、体験が全くないと答えた児童は、それ以外の児童と比べると、「活用」の問題の平均正答率が10ポイント以上低くなっている。また、体験していると回答した児童生徒の割合は、小学校も中学校もほぼ同程度である。

\* (小) 質問51 (中) 質問53 海、山、湖、川などで遊んだことがありますか。

【小学校】



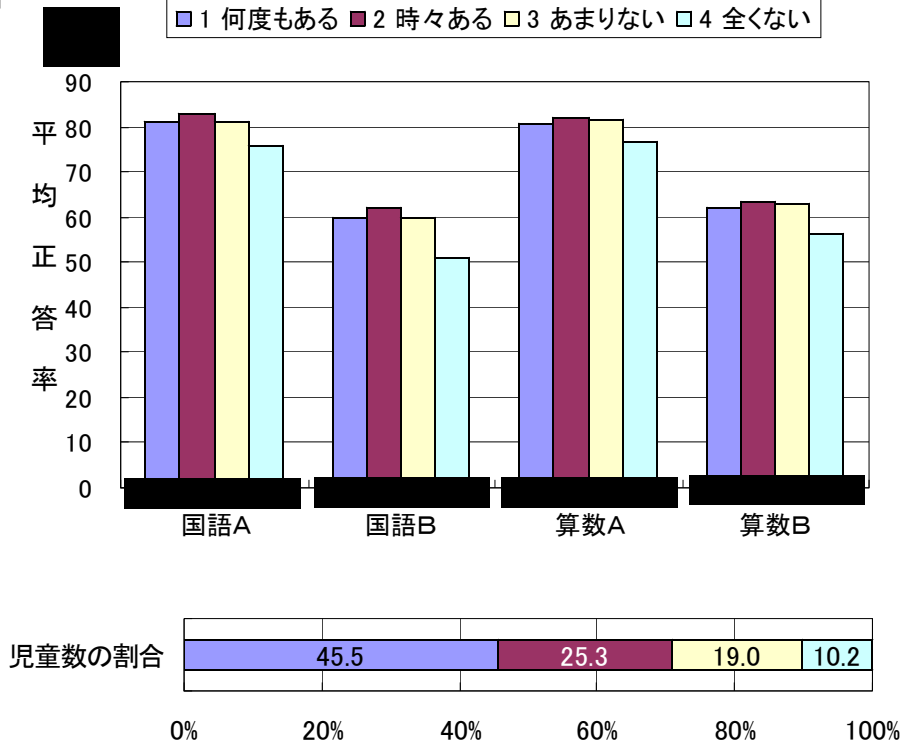
【割合】



小学校では、約1割の児童が花を咲かせたり野菜を育てたりする体験や、小さい子どもをおんぶやだっこしたり遊んであげたりする体験が全くないと答えており、そのように答えた児童の平均正答率が低くなっている。

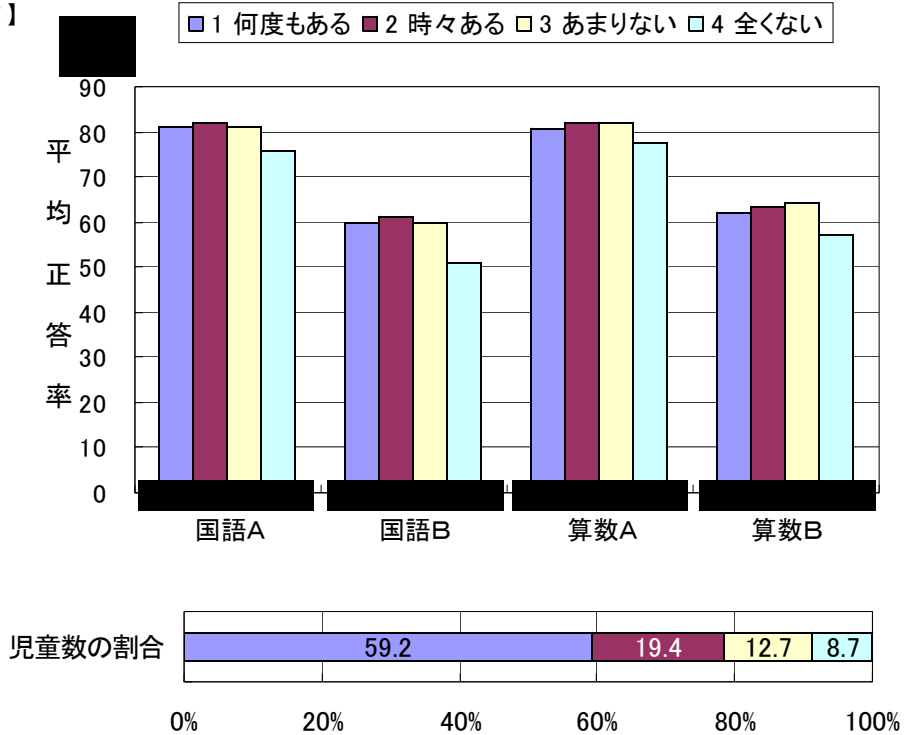
\* (小) 質問54 花を咲かせたり、野菜を育てたりしたことがありますか。

【小学校】



\* (小) 質問55 小さい子どもをおんぶやだっこしたり、遊んであげたりしたことがありますか。

【小学校】

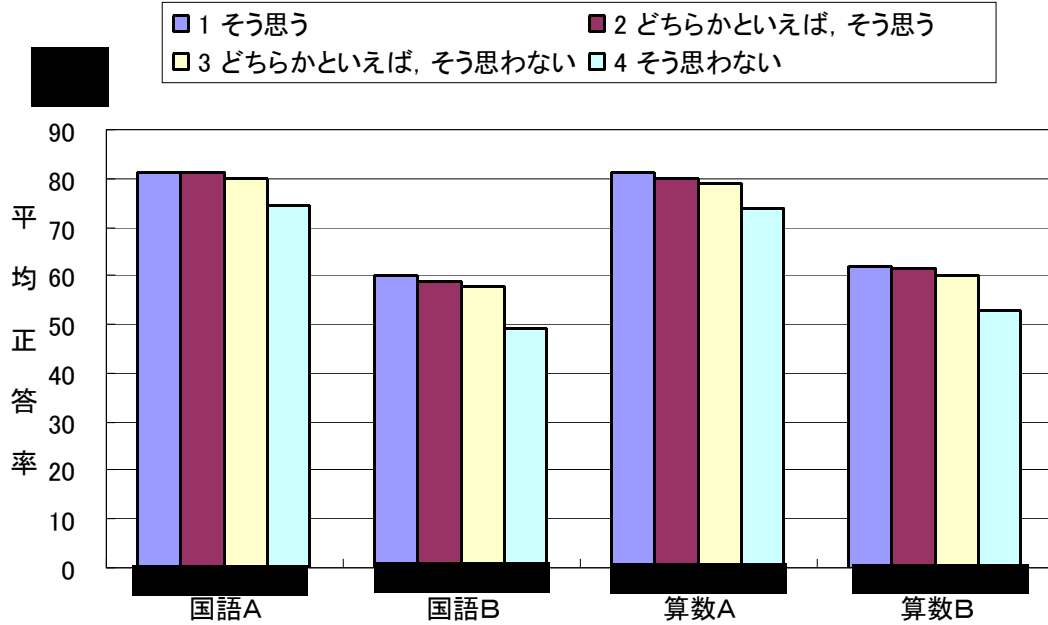


**(エ) 学校への期待について**

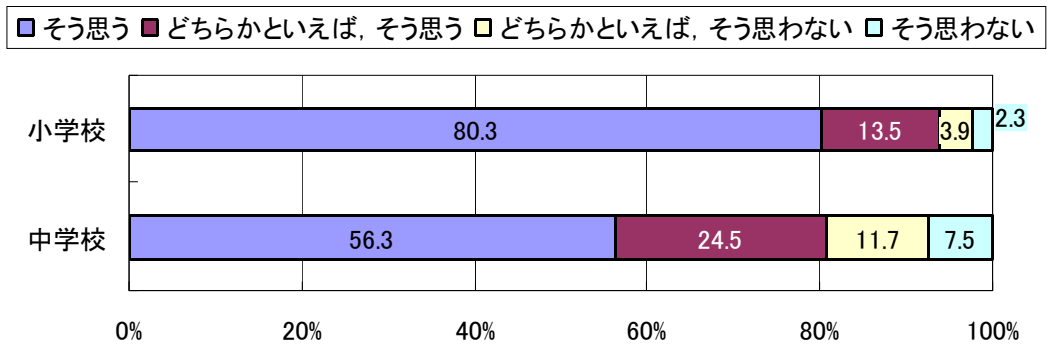
学校では好きな授業がないと答えている児童の平均正答率が、どの問題でも最も低くなっている。また、中学生になると、好きな授業がないと答えた生徒の割合が増えている。

\* (小) 質問37 (中) 質問39 学校で好きな授業がありますか。

【小学校】



【割合】

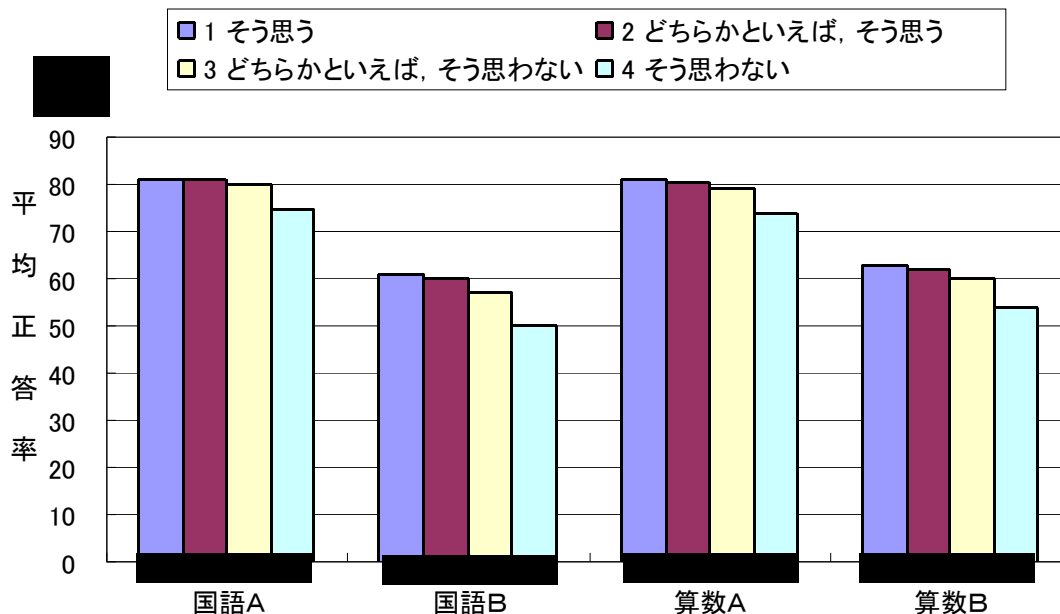




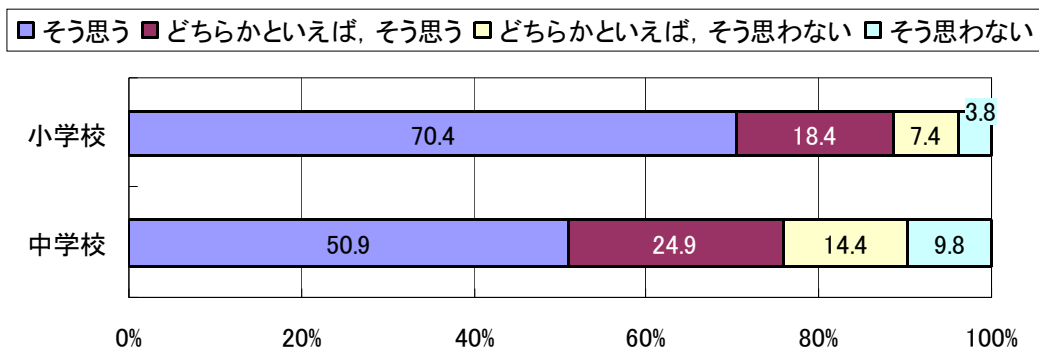
学校で楽しみにしている活動がないと答えている児童の平均正答率が、どの問題でも最も低くなっている。また、中学生になると、学校で楽しみにしている活動がないと答えた生徒の割合が増えている。

\* (小) 質問38 (中) 質問40 学校で楽しみにしている活動がありますか。

【小学校】



【割合】



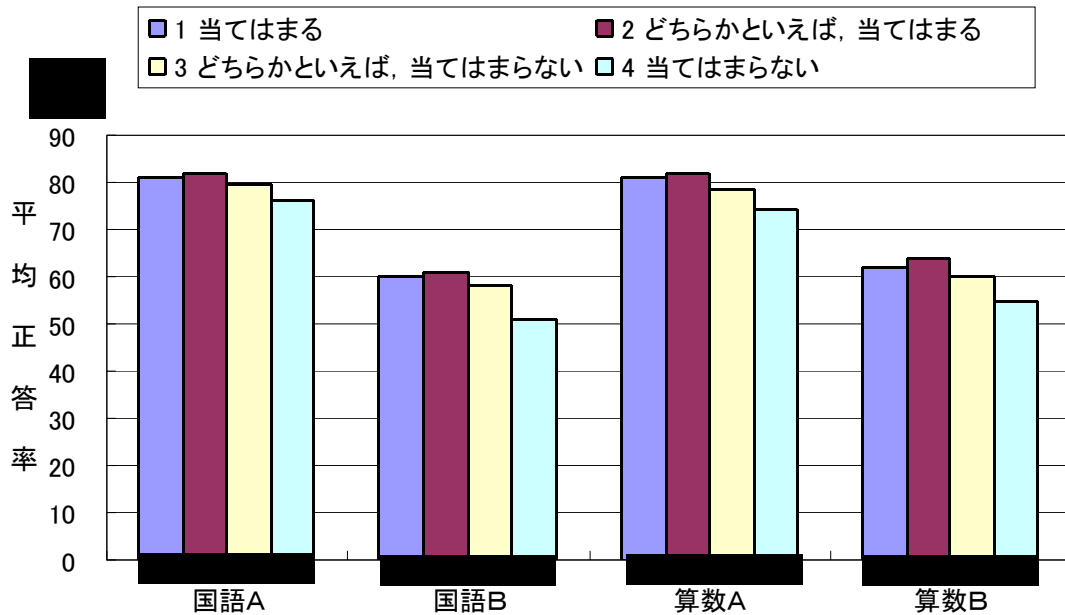
**(オ) 地域・社会とのかかわりについて**

**【地域への思い】**

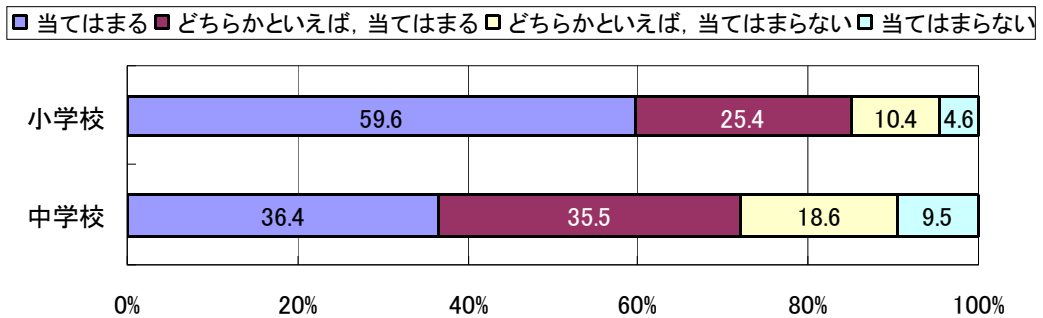
住んでいる地域が好きではないと感じている児童の平均正答率が低くなっている。また、中学生になると、住んでいる地域が好きではないと答えた生徒の割合が増加している。

\* (小) 質問41 (中) 質問43 今住んでいる地域が好きですか。

【小学校】



【割合】

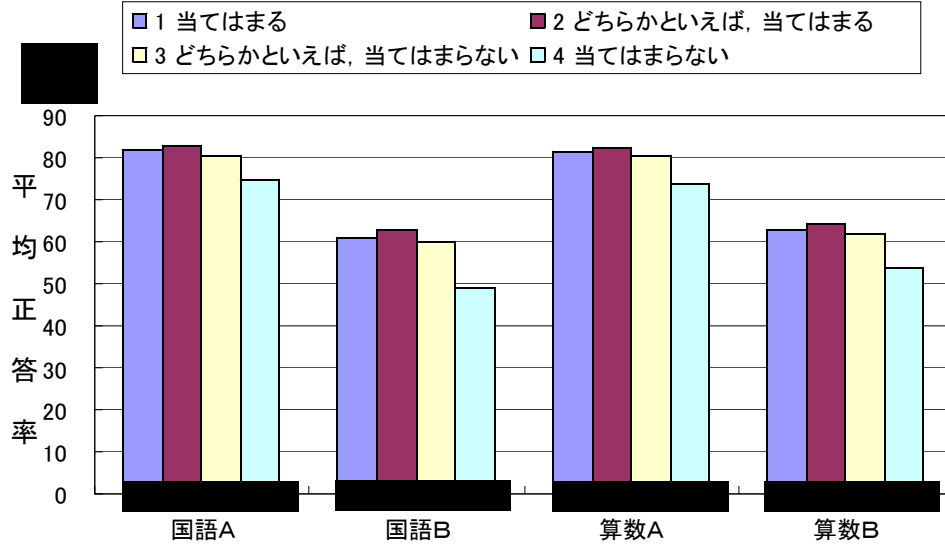


## 【地域行事への参加】

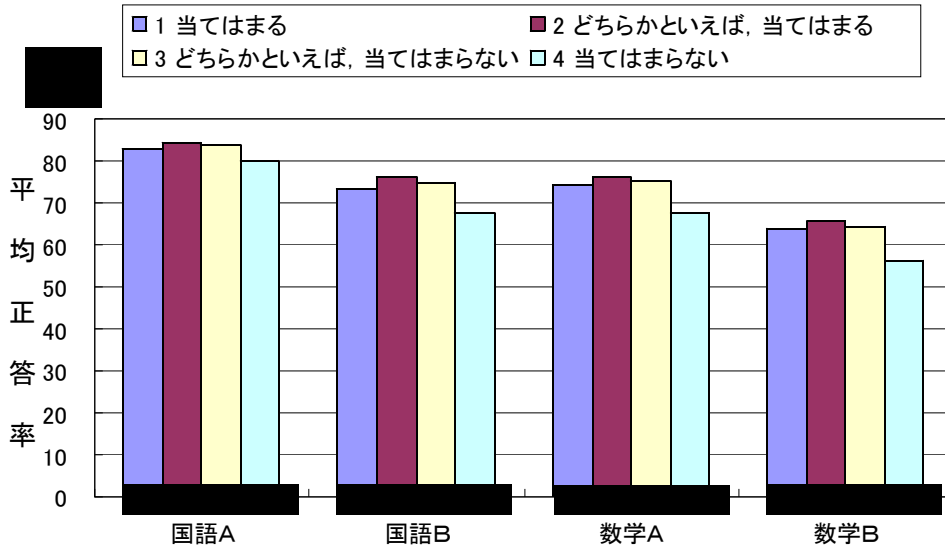
地域の行事に参加していない児童生徒の平均正答率が低くなっている。また、中学生になると、地域行事に参加しない生徒の割合が増加している。

\* (小) 質問43 (中) 質問45 今住んでいる地域の行事に参加していますか。

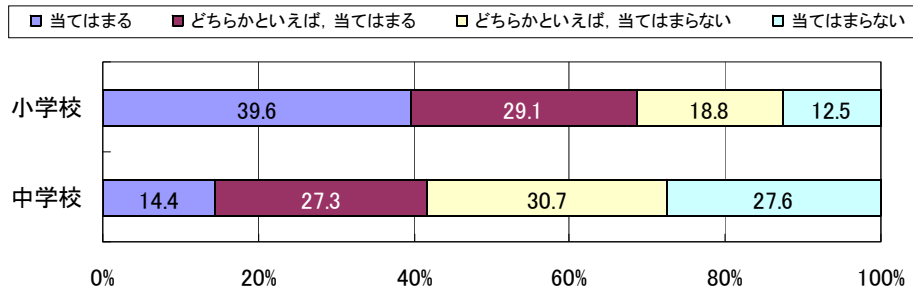
【小学校】



【中学校】



【割合】

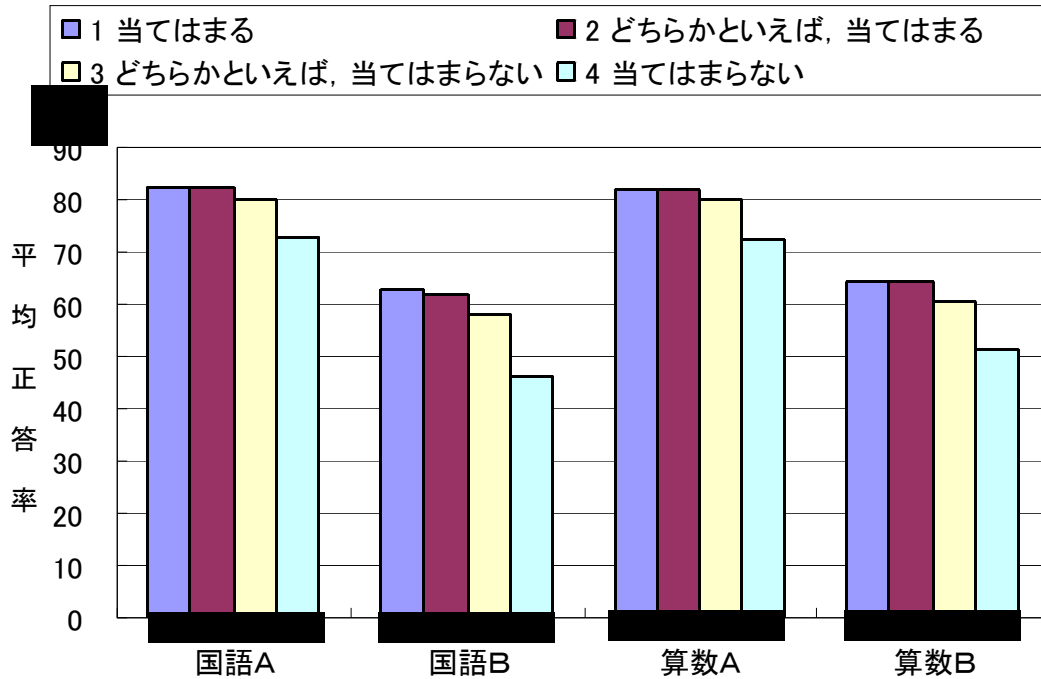


## 【社会への関心】

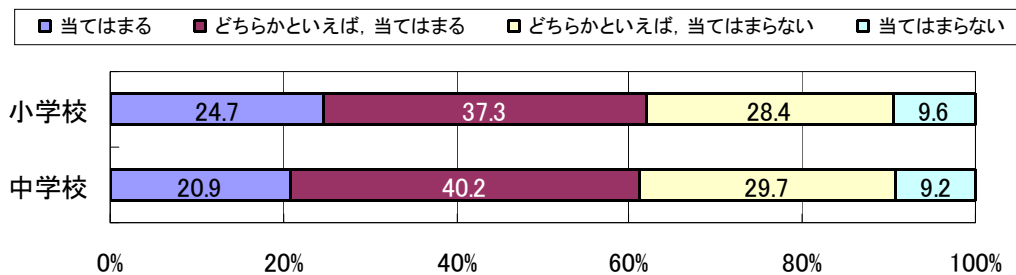
世の中の出来事等にあまり関心がない児童の平均正答率が低くなっている。特に、小学校国語の「活用」の問題では、当てはまらないと答えた児童の平均正答率は、それ以外の児童と比べると、10ポイント以上低くなっている。また、社会への関心がある児童生徒の割合は、小学校も中学校もほぼ同程度である。

\* (小) 質問40 (中) 質問42 世の中のいろいろな出来事に興味がありますか。

【小学校】



【割合】

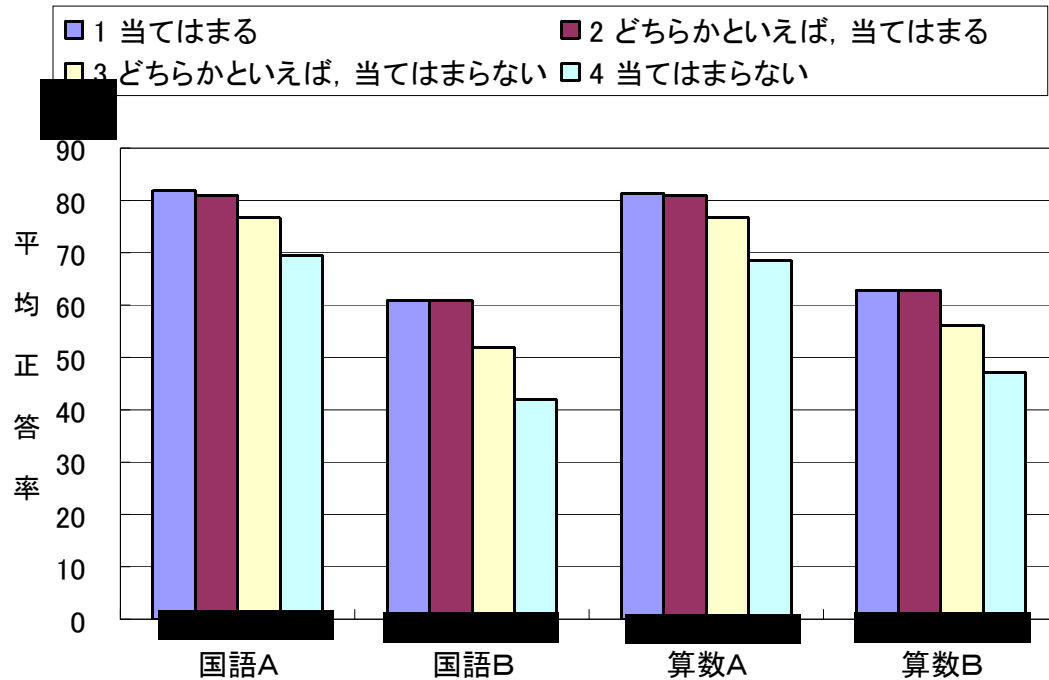


**【社会生活における態度】**

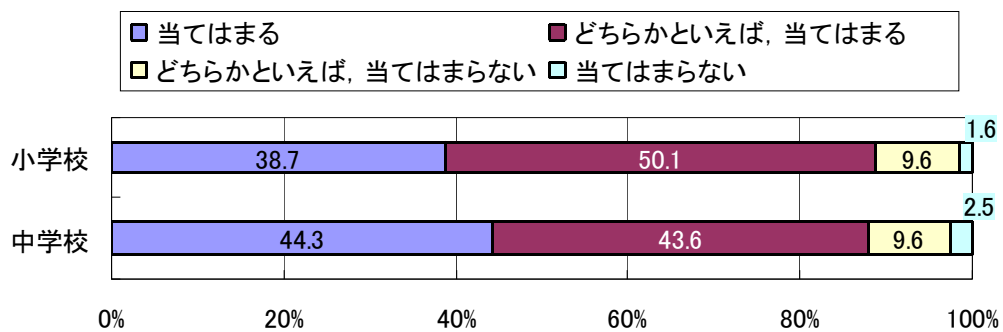
学校のきまりを守っている児童の平均正答率が高くなっている。また、学校のきまりを守る児童生徒の割合は、小・中学校ではあまり変わりはない。

\* (小) 質問44 (中) 質問46 学校のきまりを守っていますか。

【小学校】



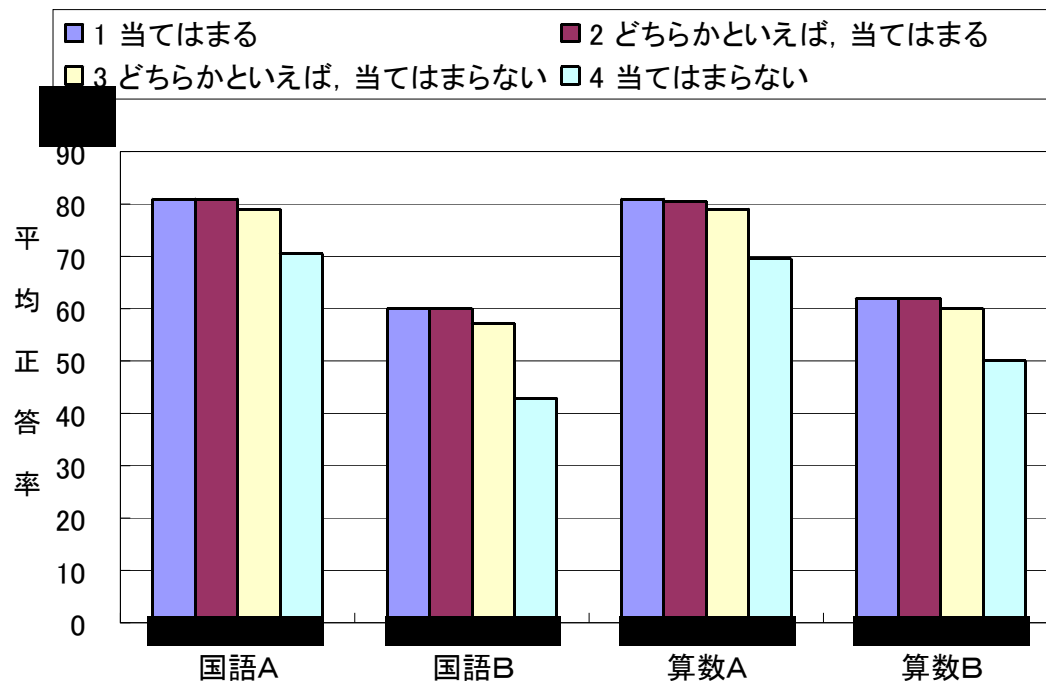
【割合】



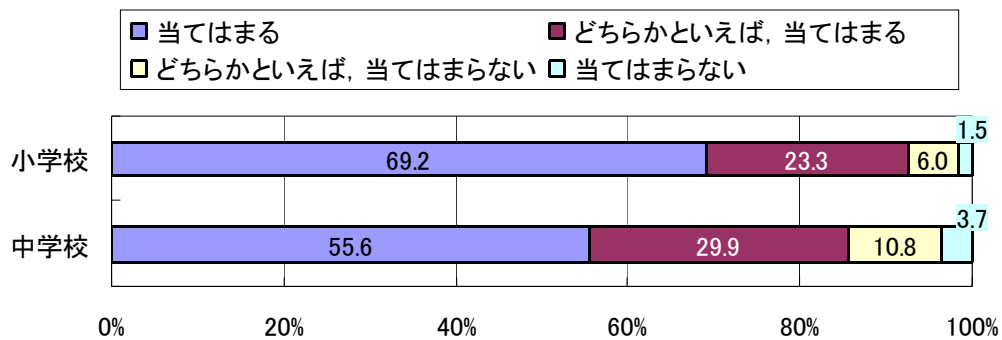
近所の人にあいさつをする児童の平均正答率が高くなっている。また、中学生になると、あいさつをする生徒の割合が少なくなっている。

\* (小) 質問47 (中) 質問49 近所の人に会ったときは、あいさつをしますか。

【小学校】



【割合】



## ウ 児童生徒質問紙調査結果の考察

毎日決まった時間に起床し、きちんと朝食を食べ、学校へ持っていくものを確認して登校するという規則正しい生活習慣を身に付けることが大切である。

「毎日朝食を食べる」「学校に持っていくものを前日かその日の朝に確かめている」「身の回りのことをできるだけ自分でしている」といった児童生徒の平均正答率が、そうでない児童生徒と比べると、すべての問題で最も高くなっていることから、規則正しい生活習慣が身に付いている児童生徒ほど平均正答率が高い傾向にある。

また、睡眠時間が6時間よりも少ない児童生徒の平均正答率が、睡眠時間が6～8時間の児童生徒よりも低いことから、睡眠時間が不足している児童生徒は平均正答率が低い傾向にある。

これらのことから、規則正しい生活習慣を身に付けることが大切であることが分かる。

将来の夢や目標をもち、自ら意欲的、積極的に物事に取り組む姿勢をもつことが大切である。

将来の夢や目標をもっていますか、難しいことでも失敗をおそれないで挑戦していますかという質問に対して、「当てはまらない」と答えた児童の平均正答率が国語A・B、算数A・Bの全てにおいて最も低いことから、将来の夢や目標をもち、自ら意欲的、積極的に取り組む姿勢をもつことが大切であることが分かる。

ただし、中学生では、将来の夢や目標をもっていないと答えた生徒の割合が、小学生より高い傾向にある。これは、中学生になると、現実を直視することが増え、単なるあこがれだけでは、将来の夢を実現できないと不安を抱く生徒が増えてくると考えられる。

また、難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していると答えた中学生の割合も、小学生より少ない傾向がある。しかし、中学生でも、筋道を立てて分かりやすく説明するように心がけたり、部活動に積極的に参加したりしている生徒は、そうでない生徒に比べると平均正答率が高い傾向にある。

児童生徒の心に残る豊かな体験活動を充実させることが大切である。

海、山、湖、川などで遊んだことがありますかという質問に対して、「全くない」と答えた児童の平均正答率は、それ以外の児童生徒に比べると、「活用」

の問題で、10ポイント以上低い。

また、小学校で「花を育てたり、野菜を育てたりしたことが全くない」と答えた児童が約1割程度いるが、実際にはすべての学校で実施していると考えられることから、体験していても児童の心に残っておらず、豊かな体験活動となっていないのではないかと考えられる。

これらのことから、豊かな体験活動の重要性を認識するとともに、児童生徒の心に残る体験活動の仕組み方を工夫することが大切であることが分かる。

学校教育活動の中に、児童生徒が意欲をもって取り組める授業や活動を仕組むことが大切である。

「好きな授業がある」「学校で楽しみにしている活動がある」と答えた児童生徒は、「ない」と答えた児童生徒に比べると、平均正答率が高い傾向にあることから、学校教育活動の中に、児童生徒が意欲をもって取り組める授業や活動を仕組むことが大切であると考えられる。

また、中学生になると、「好きな授業がない」「学校で楽しみにしている活動がない」と答える生徒が増えている。中学校では、小学校に比べ、生徒の興味・関心の高い課題や情報を把握しにくいといった面があるとも考えられるが、生徒の実態をしっかりと把握し、適切な活動を仕組むことが大切である。

地域や社会に関心を持ち、積極的にかかわる態度が大切である。

地域行事に参加していますか、世の中の出来事に関心がありますかという質問に対して、「当てはまらない」と答えた児童生徒の平均正答率は、それ以外の児童生徒に比べると低い傾向があり、「活用」の問題で、その差が大きくなっている。

さらに、学校のきまりを守っているか、近所の人に会ったときにあいさつをするかという問いに対して、「当てはまらない」と答えた児童生徒の割合はわずかであるが、その平均正答率はどの問題でも最も低くなっている。

これらのことから、地域や社会に関心を持ち、積極的にかかわる態度が大切であることが分かる。

また、中学生になると、「住んでいる地域が好きではない」「地域の行事に参加していない」と答える生徒が増えている。これは、中学生の時期は、部活動やその他の交流活動等が忙しくなる時期であり、地域とのかかわりについてあまり意識することがない生徒が増えると考えられる。



## ② 学 校

### ア 児童生徒の学習意欲・生活態度

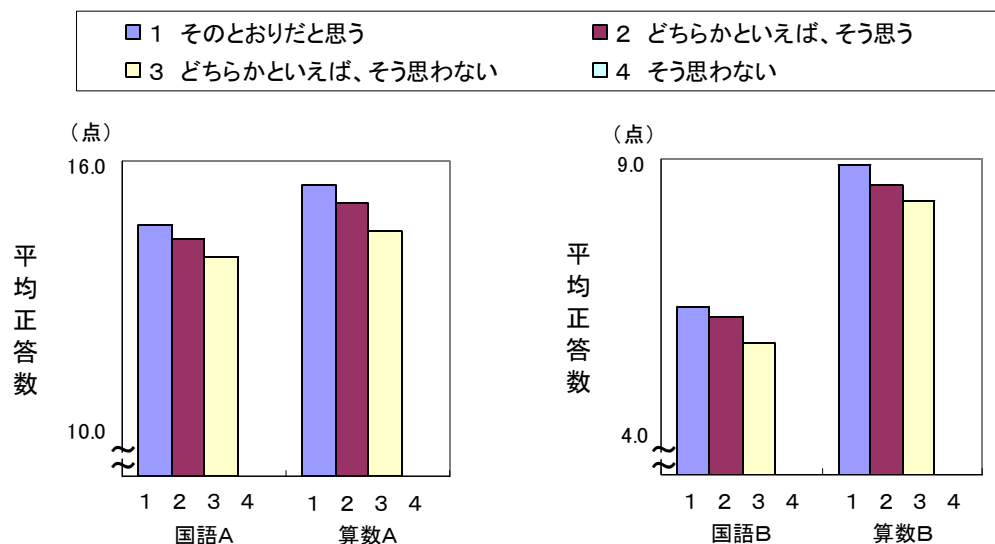
#### (ア) 学習意欲

児童生徒は、熱意をもって勉強していると思いますかという問いに対して、小学校では、「そのとおりだと思う」と答えた学校の平均正答数が、「どちらかといえば、そう思わない」と答えた学校よりも高い。中学校では、「そのとおりだと思う」と答えた学校の平均正答数が最も高く、「どちらかといえば、そう思う」「どちらかといえば、そう思わない」と答えた学校の平均正答率が低くなっている。

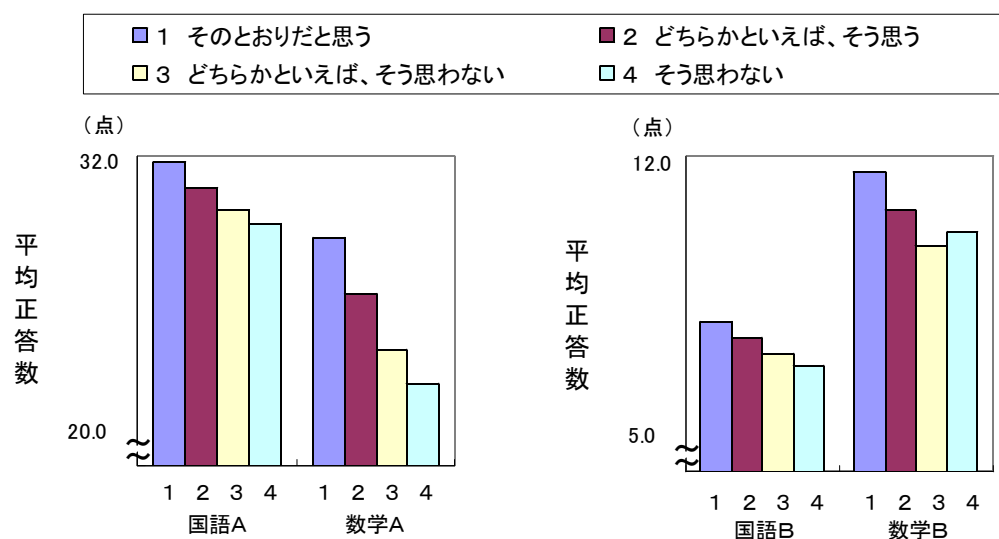
このことから、学習に主体的に向かう態度が児童生徒に身に付いている学校ほど、平均正答数が高い傾向があるとみられる。

\* (小・中) 質問16 「児童生徒は、熱意をもって勉強している」にどの程度当てはまりますか。

【小学校】



【中学校】



## (イ) 落ち着き

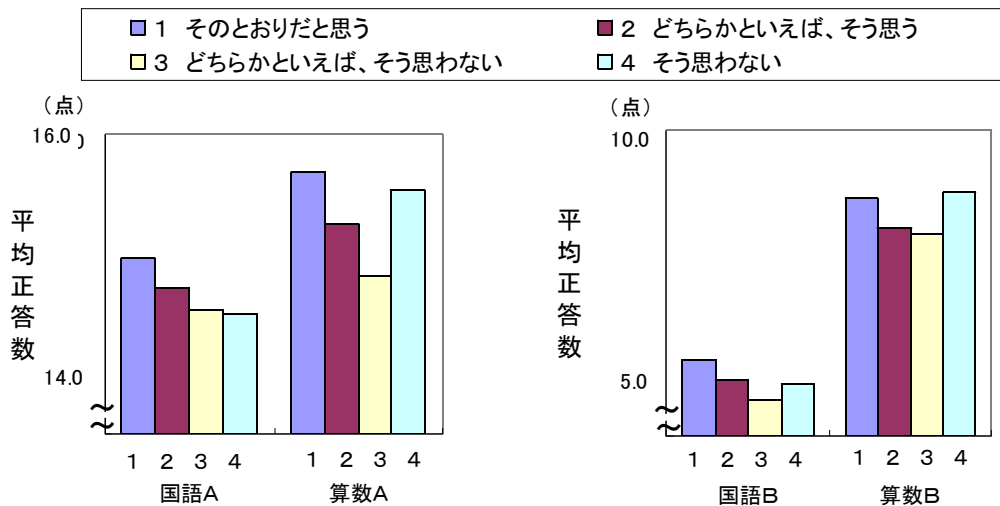
児童生徒は、授業中の私語がなく、落ち着いていますかという問いに対して、「そのとおりだと思う」と答えた学校の平均正答数が最も高く、「どちらかといえば、そう思う」、「どちらかといえば、そう思わない」と答えた学校の平均正答数が順に低くなっている。

このことから、学習習慣が児童生徒に身に付いている学校ほど、平均正答数が高い傾向があるとみられる。

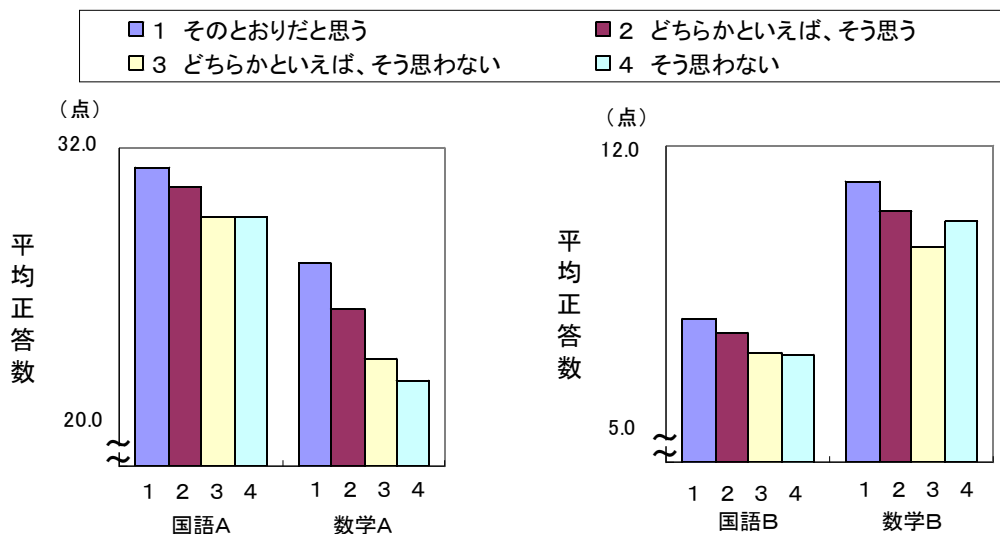
※ 小・中学校ともに、選択肢4（そう思わない）を選択した学校数が少数のため、選択肢4を選択肢3（どちらかといえば、そう思わない）に含めて分散分析を行った。

\* (小・中) 質問17 「児童生徒は、授業中の私語がなく、落ち着いている」にどの程度当てはまりますか。

【小学校】



【中学校】



**(ウ) 礼儀正しさ**

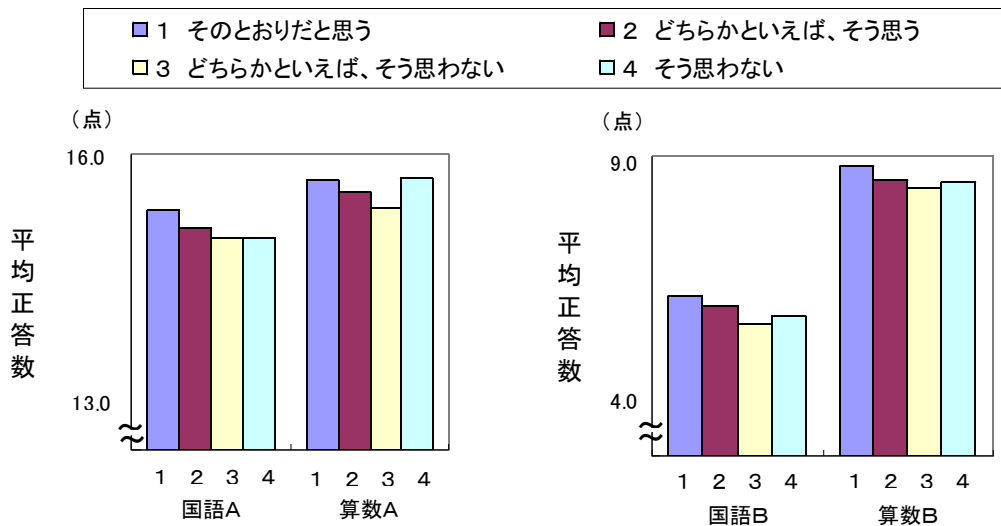
児童生徒は、礼儀正しいですかという問いに対して、小学校では、国語A・Bにおいて、「そのとおりだと思う」と答えた学校の平均正答数が最も高く、「どちらかといえば、そう思う」「どちらかといえば、そう思わない」と答えた学校の平均正答数が順に低くなっている。中学校では、国語・数学ともに、「そのとおりだと思う」、「どちらかといえば、そう思う」と答えた学校に比べ、「どちらかといえば、そう思わない」と答えた学校の平均正答数が低い。

このことから、児童生徒が礼儀正しい学校ほど、平均正答数が高い傾向があるとみられる。

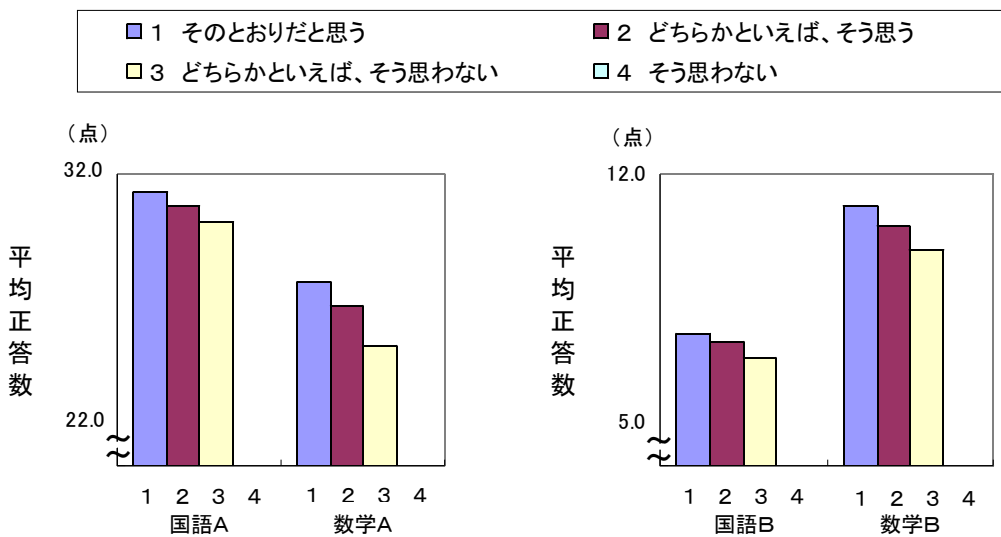
※ 小学校は、選択肢4（そう思わない）を選択した学校数が少数のため、選択肢4を選択肢3（どちらかといえば、そう思わない）に含めて分散分析を行った。

\* (小・中) 質問18 「児童生徒は、礼儀正しい」にどの程度当てはまりますか。

【小学校】



【中学校】



## イ 学力向上に向けた取組

### (ア) 朝の読書

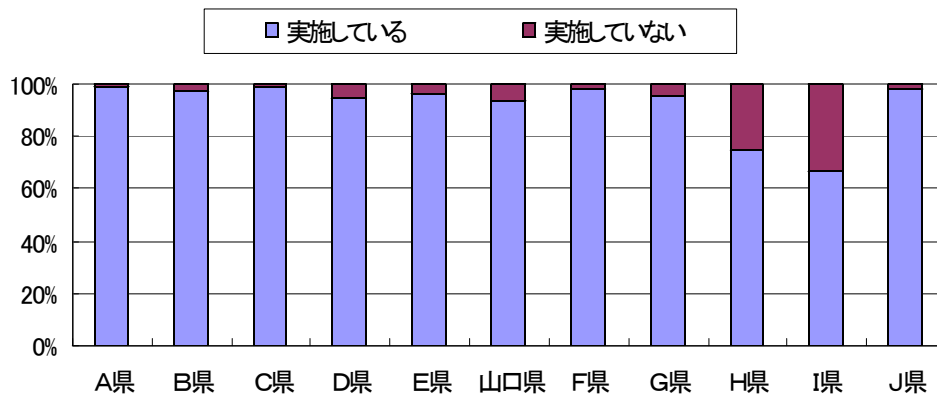
「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けていますかという問いに対して、小学校において、全国で平均正答率が高い傾向のあった5県と山口県を比較すると、A県、C県は、山口県より朝の読書を実施している割合が高い傾向がある。また、全国で平均正答率が低い傾向のあった5県と山口県を比較すると、山口県は、H県、J県より朝の読書を実施している割合が高い傾向がある。

このことから、朝の読書の実施と平均正答率には、関連があると考えられる。

- \* (小) 質問30 第6学年の児童に対して、前年度までに「学力向上」や「学習の定着」等を目的に取り組んできたことについて、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けていますか。

#### 【小学校】

平均正答率の高かった5県及び低かった5県と山口県の朝の読書を実施している割合の比較



- ※ 全国で平均正答率が高い傾向のあった5県：A～E県  
全国で平均正答率が低い傾向のあった5県：F～J県

## ウ 指導方法

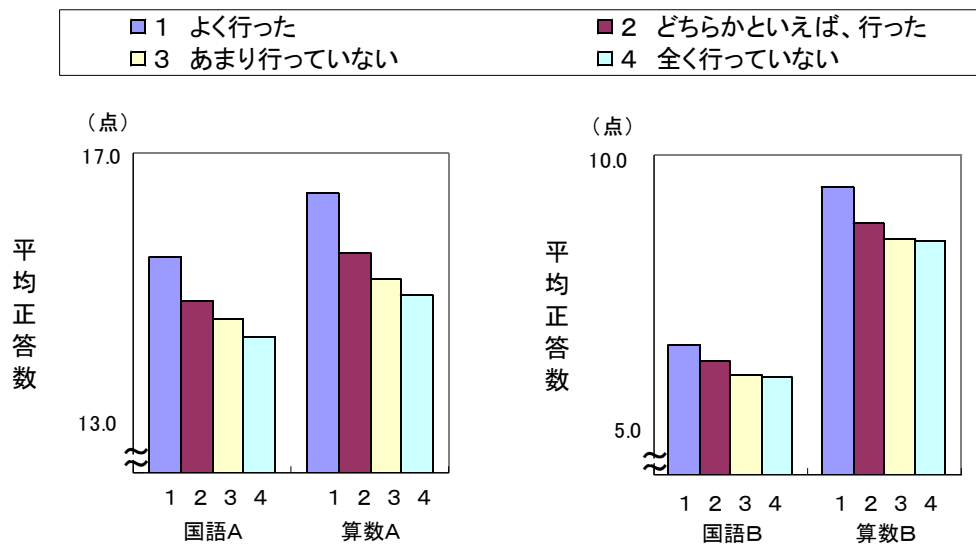
### (ア) 国語科の発展的な学習の指導

第6学年の児童に対する国語の指導として、発展的な学習の指導をどの程度行いましたかという問いに対して、「よくやった」と答えた小学校が、「あまり行っていない」、「全く行っていない」と答えた学校よりも、国語A・B、算数A・Bの平均正答数が高い。

このことから、国語科の発展的な学習の指導を行っている学校ほど、平均正答数が高い傾向があるとみられる。

\* (小) 質問50 第6学年の児童に対する国語の指導として、発展的な学習の指導をどの程度行いましたか。

【小学校】



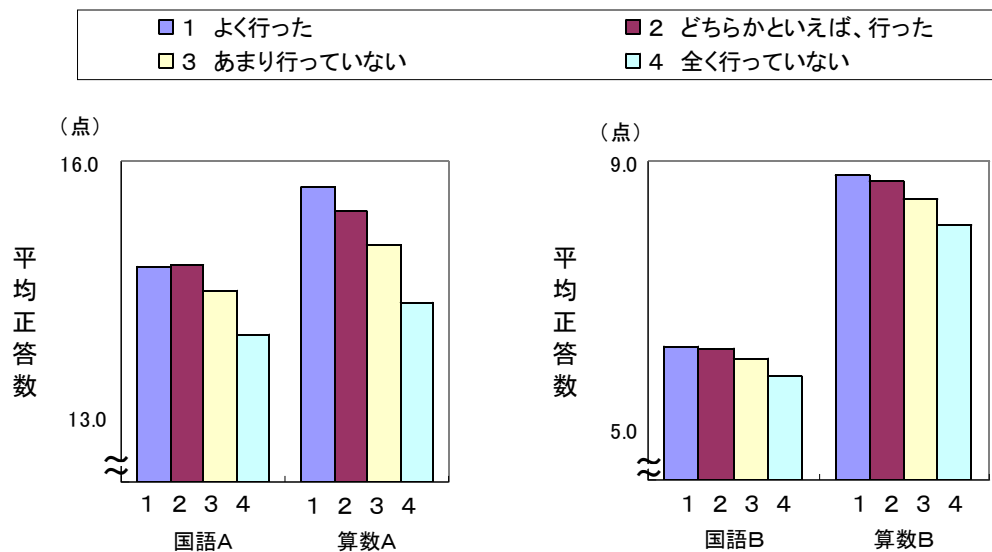
## (イ) 算数・数学科の発展的な学習の指導

第6学年の児童に対する算数の指導として、発展的な学習の指導をどの程度行いましたかという問いに対して、小学校の国語Aにおいては、「よく行った」、「どちらかといえば、行った」と答えた学校の平均正答数が、「全く行っていない」と答えた学校よりも高い。また、算数Aにおいては、「よく行った」と答えた学校の平均正答数が、「あまり行っていない」、「全く行っていない」と答えた学校よりも高く、「どちらかといえば、行った」と答えた学校が、「全く行っていない」と答えた学校よりも高い。さらに、算数Bにおいては、「よく行った」と答えた学校が、「全く行っていない」と答えた学校よりも高い。

このことから、算数科の発展的な学習の指導を行っている小学校ほど、平均正答数が高い傾向があるとみられる。

\* (小) 質問58 第6学年の児童に対する算数の指導として、発展的な学習の指導をどの程度行いましたか。

【小学校】



## エ 家庭との連携

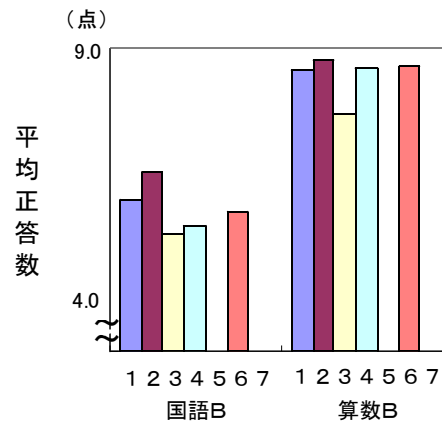
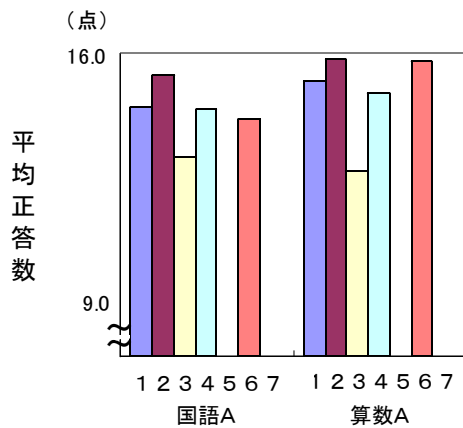
### (ア) 授業参観の実施

第6学年を対象とした授業参観を、前年度、どれくらい実施しましたかという問いに対して、小学校の国語A、算数Aにおいて、「年間に5回以上」、「年間に4回」と答えた学校の平均正答数が、「年間に3回」と答えた学校よりも高い。また、算数Aにおいて、「いつでも参観できるようにしている」と答えた学校の平均正答数が、「年間に3回」と答えた学校よりも高い。

このことから、授業参観を積極的に行い、授業公開を行っている学校ほど、平均正答数が高い傾向があるとみられる。

\* (小) 質問75 第6学年を対象とした授業参観を、前年度、どれくらい実施しましたか。

【小学校】



**オ 開かれた学校・学校評価**

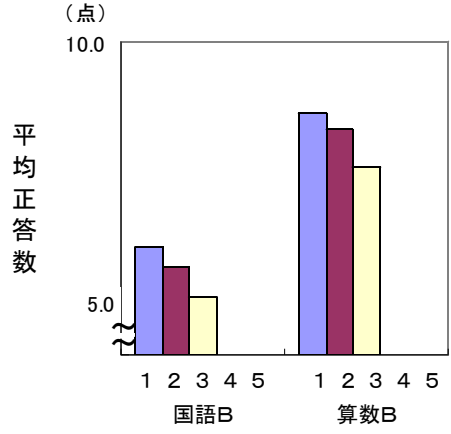
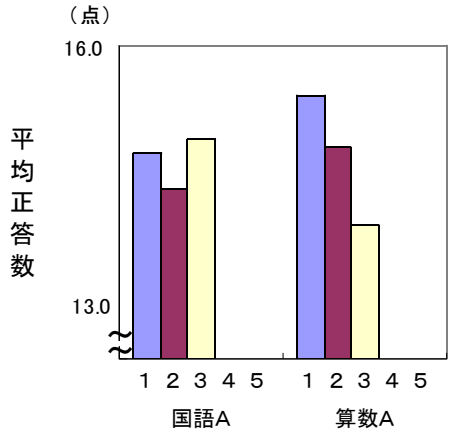
**(ア) 自己点検を生かした学校運営の改善**

学校の自己点検評価の結果を学校運営の改善に生かしていますかという問いに対して、小学校の国語A・B、算数A・Bにおいて、「生かしている」と答えた学校の平均正答数が、「どちらかといえば、生かしている」と答えた学校よりも高い。

このことから、学校の自己点検を生かして学校運営を改善している学校ほど、平均正答数が高い傾向があるとみられる。

\* (小) 質問 8 3 学校の自己点検評価の結果を学校運営の改善に生かしていますか。

【小学校】





## (イ) 自己点検結果の公表

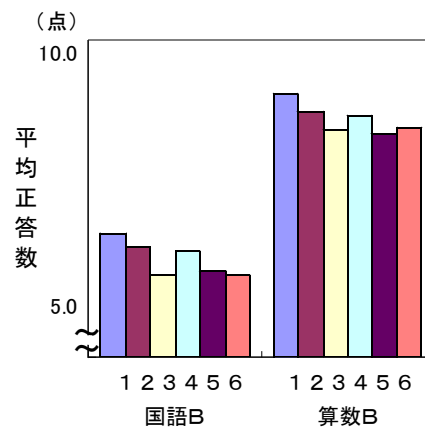
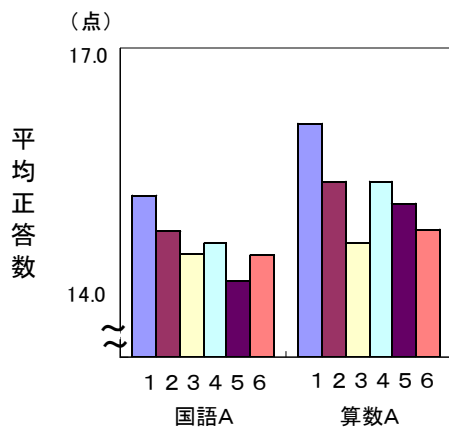
学校のホームページを利用して、自己点検評価の結果を公表していますかという問いに対して、小学校国語Aにおいて、「公表している」と答えた学校の正答数が、「公表していないし、今後も公表する予定はない」と答えた学校よりも高い。また、小学校算数A、国語のBにおいて、「公表している」と答えた学校の平均正答数が、「公表していないが、今後、公表する予定である」と答えた学校よりも高い。

このことから、学校のホームページを利用して、自己点検評価の結果を公表している学校ほど、平均正答数が高い傾向があるとみられる。

\* (小) 質問84 学校のホームページを利用して、自己点検評価の結果を公表していますか。

【小学校】

- 1 公表している
- 2 ホームページは利用していないが、学校便りなどを利用して公表している
- 3 公表していないが、今後、公表する予定である
- 4 公表していないが、今後は未定である
- 5 公表していないし、今後も公表する予定はない
- 6 自己点検評価を行っていない



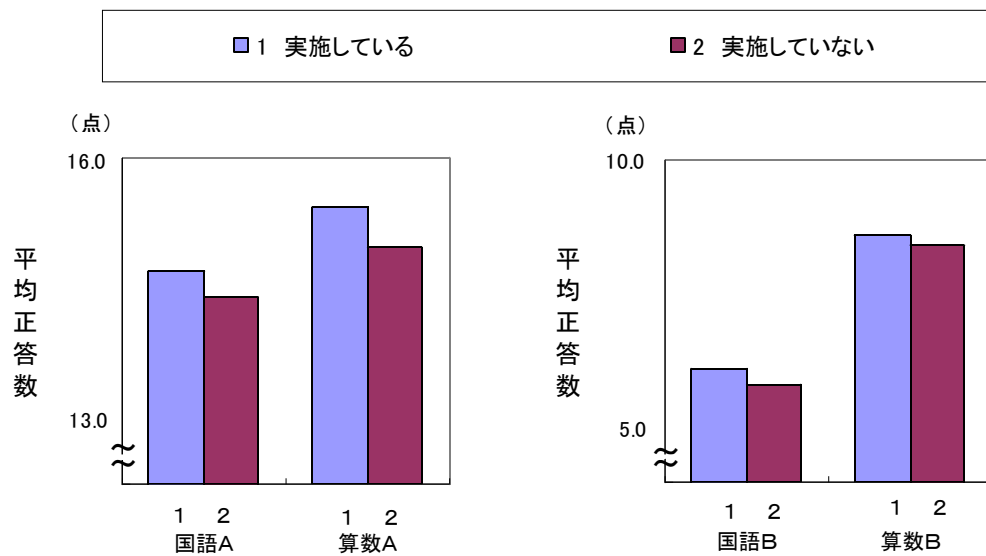
## (ウ) 児童生徒による授業評価の実施

児童による授業評価を実施していますかという問いに対して、小学校国語A、算数Aにおいて、「実施している」と答えた学校の平均正答数が、「実施していない」と答えた学校よりも高い。

このことから、児童生徒による授業評価を実施している学校ほど、平均正答数が高い傾向があるとみられる。

\* (小) 質問85 児童による授業評価を実施していますか。

【小学校】



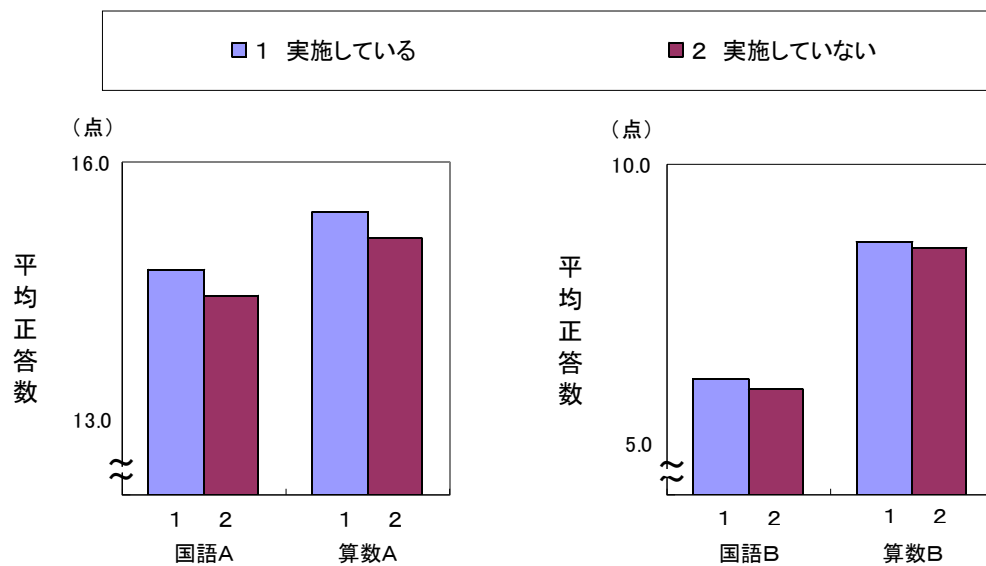
## (エ) 保護者や地域の人等による外部評価の実施

保護者や地域の人などの外部評価者による外部評価を実施していますかという問いに対して、小学校の国語A・B、算数Aにおいて、「実施している」と答えた平均正答数が、「実施していない」と答えた学校よりも高い。

このことから、外部評価者による外部評価を実施している学校ほど、平均正答数が高い傾向があるとみられる。

\* (小) 質問 8 6 保護者や地域の人などの外部評価者により構成される委員会などによる外部評価を実施していますか。

【小学校】



## カ 教員研修

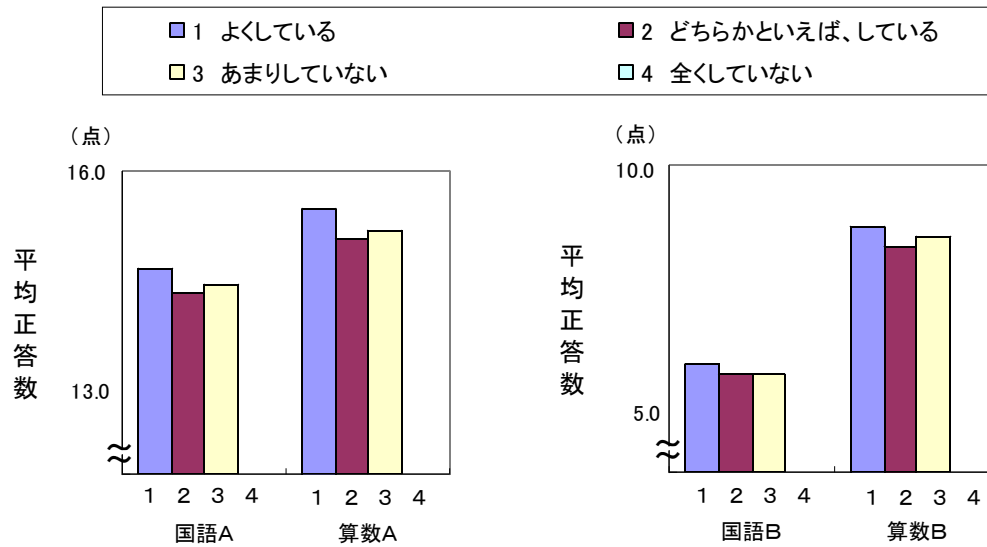
### (ア) 基礎学力の定着についての研修の実施

基礎学力の定着について、研修を行っていますかという問いに対して、小学校国語Aにおいて、「よくしている」と答えた学校の平均正答数が、「どちらかといえば、している」と答えた学校よりも高い。また、小学校算数A、Bの合計正答数では、「よくしている」と答えた学校の平均正答数が、「あまりしていない」と答えた学校よりも高い。

このことから、基礎学力の定着について研修をよく行っている学校ほど、平均正答数が高い傾向があるとみられる。

\* (小) 質問89 「基礎学力の定着について、研修を行っている」にどの程度当てはまりますか。

【小学校】



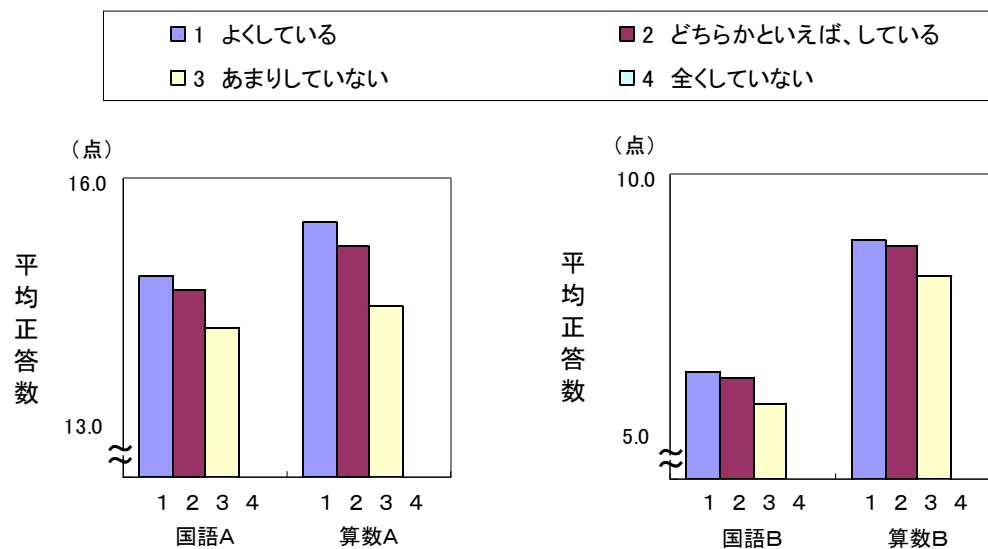
## (イ) 模擬授業や事例研究等、実践的な研修の実施

模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますかという問いに対して、小学校では、「よくしている」、「どちらかといえば、している」と答えた学校の平均正答数が、「あまりしていない」と答えた学校よりも高い。

このことから、模擬授業や事例研究など、実践的な研修をよく行っている学校ほど、平均正答数が高い傾向があるとみられる。

\* (小) 質問90 「模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている」にどの程度当てはまりますか。

【小学校】



## キ 学校質問紙調査結果の考察

熱意をもって勉強し、授業中の私語がなく落ち着いて学習するという学習態度や礼儀正しさを身に付けることが大切である。

児童生徒が熱意をもって勉強している学校、授業中の私語がなく落ち着いて学習している学校の正答数は、そうでない学校と比べると、全ての問題で高くなっていることから、学習に主体的に向かう態度や学習習慣が身に付いていることが大切であることが分かる。また、児童生徒が礼儀正しい学校の正答数は、そうでない学校と比べると、小学校の算数を除く全ての問題で高くなっていることから、望ましい生活規律を身に付けることも必要である。

国語科、算数・数学科の発展的な学習の指導の工夫・改善が大切である。

発展的な学習の指導をよく行った学校の正答数が、そうでない学校と比べると高い傾向があることから、一人ひとりの可能性やよさを伸ばす指導の工夫・改善が大切である。

学校の自己点検や保護者・地域の人等による外部評価を実施し、評価を公表して学校運営の改善に生かすことが大切である。

学校の自己点検評価の結果を学校運営の改善に生かしている学校や自己点検評価の結果を公表している学校、保護者・地域の人等による外部評価を実施している学校の正答数は、そうでない学校と比べると、高い傾向があることから、学校評価の充実が大切であることが分かる。そのため、自己評価や外部評価を実施するだけでなく、教職員が評価結果の分析について協議し、改善すべき点とともに取り組む学校体制づくりや、保護者・地域の人等に評価結果とともに学校の取組を説明するなどの開かれた学校づくりが必要である。

児童生徒による授業評価を実施し、模擬授業や事例研究等の実践的な研修や、授業研究を通じて校内研修を充実させることが大切である。

児童生徒による授業評価や、模擬授業や事例研究等の実践的な研修、授業研究を伴う校内研修を実施している学校の正答数が、していない学校と比べると高い傾向があることから、授業評価や校内研修の充実が大切であることが分かる。山口県では多くの学校で校内研修が行われており、研修の充実のためには、単なる実施回数ではなく、課題解明に向けた研究協議や仮説の検証が回を追って深まることが重要であり、模擬授業や事例研究、指導力や企画構成力を高める実践的な内容等、研修の質の向上が必要である。

## Ⅱ 学校改善支援プラン

### 1 作成に当たって

#### (1) 基本的な考え方

全国学力・学習状況調査結果の分析及び考察により明らかになった山口県の課題について、その改善につなげるための取組を「学校改善支援プラン」としてまとめ、学校や教育委員会への提言とする。

各学校・教育委員会においては、「学校改善支援プラン」を活用し、児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上を図る。

#### (2) 全体構成について

「総論」と「各論」から構成し、「総論」において改善に向けての取組を総括的に示し、「各論」において各取組ごとに関連する全国学力・学習状況調査の結果や具体的な取組例等を示す。

### 2 活用について

#### (1) 各学校・各地域の実態に応じた活用

ここに示すプランは、山口県の児童生徒全体の状況からみた課題等を踏まえて作成したものであり、多くの学校や教育委員会で活用できると考えている。

しかし、児童生徒や地域の実態は、各学校・地域によって異なり、抱える課題も一様ではない。従って、プランに示す取組を全て一律に進めていくのではなく、実態に応じて取組を進めていくことが大切である。

#### (2) 学校における学力向上プランとの関連

平成17・18年度には、山口県内の全ての公立小学校5年生・中学校2年生を対象に、山口県独自の学力調査が実施され、その結果として「基礎的な学習内容の理解や基本的な計算等の技能は、おおむね定着しているが、読解力、思考力、表現力に課題がみられ、今後、学習習慣の確立を含めた学力向上のさらなる取組が必要である」ことが明らかになった。

この結果を踏まえ、学校全体の学力向上の取組を支援するために、「学力向上プログラム」(平成19年3月 学力向上プロジェクト委員会 山口県教育委員会)が作成され、各学校に配付された。この中には、学校の学力向上の取組をまとめた「学力向上プラン」の作成について示されており、県内小・中学校では、各学校の実態に応じた学力向上プランを作成し、すでに取組を進めているところである。したがって、「学校改善支援プラン」で示す取組については、各学校における「学力向上プラン」の見直しを図る際に活用することが効果的であると考えられる。

### 3 総論

#### ■ 学校では

##### (1) 指導方法や教育課程の工夫・改善

###### ア 「活用」する力を高める指導の工夫・改善

- ・ 基礎的・基本的な内容の定着に向けた学習との関連を図りながら、具体的な評価規準を設定し、「活用」する力を高める学習を指導計画に明確に位置付ける。
- ・ 児童生徒の生活場面において、各教科で身に付けた知識や技能を使って問題を解決する学習を取り入れる。
- ・ 同じ教科における別の単元や他の教科で身に付けた知識を使うなど、いくつかの知識・技能を組み合わせることにより解決する教材（問題）を開発する。
- ・ できることや分かることなどの喜びだけでなく、考えることの楽しさを児童生徒に感じ取らせるように、指導方法を工夫する。

###### イ 知識・技能の確実な定着

小学校では、基礎・基本の確実な定着を図るために、児童の理解度に応じた指導を充実するとともに、長いスパンでの繰り返し学習の充実等の観点から、単元の指導計画、年間の指導計画、学年間の指導計画の関連等を見直す。

###### ウ 思考力を高める「書く」「話す」活動の充実

各教科において、資料等から読み取ったことを文章にまとめたり、自分の考えを分かりやすく論述したりする活動の充実を図り、思考力や表現力を高める。

###### エ 生活場面や実社会との関連

教科等の指導において、児童生徒の生活場面や実社会とつながりがもてるような工夫をする。そのことにより、学習に対する興味・関心や有用感を高める。

##### (2) 落ち着いた環境づくりのための指導の充実

###### オ 望ましい学習態度の育成

児童生徒が集中して学習に取り組めるように、学習上のルール等についての継続的な指導を行うとともに、全校での支援体制を整備する。

##### (3) 授業力を高める校内研修の実施

###### カ 教員の授業力の向上

授業研究を伴う校内研修を充実するとともに、模擬授業の実施等実践的な研修を取り入れることにより、教員の授業力の向上を図る。

##### (4) 保護者・地域との連携の強化

###### キ 情報公開と学校評価の活用

学校便りや学校のホームページ等により、児童生徒の様子や学校の取組、自己点検評価等の情報を公表するとともに、学校評価の活用に努める。

###### ク 保護者への継続的な働きかけと地域人材の活用

基本的な生活習慣の確立や家庭学習の重要性について、保護者への継続的な啓発活動を行う。また、保護者を含めた地域の人材を積極的に活用する。



## **(5) 学力についてのPDCAサイクルの構築**

### **ケ 課題を踏まえた学力向上プランの見直し**

児童生徒の実態に応じた学力向上の取組を推進するために、全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえ、教職員の共通理解を図りながら、「学力向上プラン」を継続的に見直す。

## **■ 教育委員会では**

### **(1) 教員の授業力向上支援**

#### **コ 優れた実践情報の提供**

各学校に児童生徒の「活用」する力を高めるための実践事例や教材、基礎的基本的な内容の定着を図るための効果的な指導方法、優れた学力向上プラン等の情報を提供する。

#### **サ 研修機会の拡充と内容の工夫**

教育研修所における研修講座や各教育委員会が主催する研修会のテーマ・内容について、それぞれの地域の課題等を踏まえたものとなるよう工夫することで、課題の改善に向けての取組を支援する。

また、学校における授業改善等の取組が推進されるよう学校訪問の機会を増やしたり、内容を工夫したりする。

### **(2) 課題に応じた重点的な支援**

#### **シ 実態に応じた人的措置**

学力向上についての各学校の課題に応じるために、必要に応じた教員の加配や外部人材の活用等の措置を講じる。

### **(3) 協力体制の整備**

#### **ス 関係機関等との協力体制の整備**

教育委員会内における学校教育、社会教育、幼児教育等各関連部署との連携を密にするとともに、小・中学校教育研究会、PTA連合会等関係団体との協力関係を強化する。

## 4 各 論

### ■ 学 校 で は

#### (1) 指導方法や教育課程の工夫・改善

##### ア 「活用」する力を高める指導の工夫・改善

- ・ 基礎的基本的な内容の定着に向けた学習との関連を図りながら、具体的な評価規準を設定し、「活用」する力を高める学習を指導計画に明確に位置付ける。
- ・ 児童生徒の生活場面において、各教科で身に付けた知識や技能を使って問題を解決する学習を取り入れる。
- ・ 同じ教科における別の単元や他の教科で身に付けた知識を使うなど、いくつかの知識・技能を組み合わせることにより解決する教材（問題）を開発する。
- ・ できることや分かることなどの喜びだけでなく、考えることの楽しさを児童生徒に感じ取らせるように、指導方法を工夫する。

「知識」に関する問題（問題A）と「活用」に関する問題（問題B）の平均正答率の比較より、児童生徒の「活用」に関する力に課題がみられることが明らかになった。

その要因の一つとして「活用」問題についての実践の蓄積が少ないことが考えられる。学習指導要領は、知識・技能を「活用」する学習活動が十分ではなかったという課題を踏まえて改訂されることからこのことがいえるであろう。

各教科において、児童生徒の「活用」する力を高めるための学習について、国語や算数・数学の時間だけでなく各教科や総合的な学習の時間に位置けるとともに、効果的な指導の在り方について、校内研修等を通じて実践・研究を深めることが必要である。

指導に当たっては、「難しい」と感じる児童生徒も予想されることから、評価を工夫することにより、学習意欲の向上を図ることが必要である。

各教科における平均正答率（山口県）

		「知識」に関する問題	「活用」に関する問題
小学校	国語	80.6%	60.0%
	算数	80.5%	62.1%
中学校	国語	82.7%	73.0%
	数学	73.3%	62.4%

##### イ 知識・技能の確実な定着

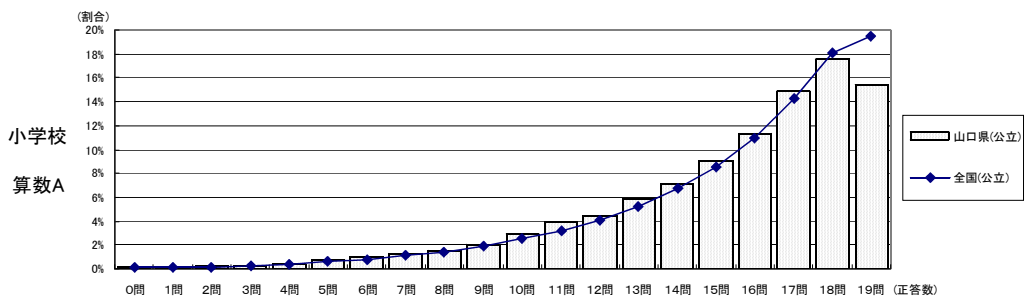
小学校では、基礎・基本の確実な定着を図るために、児童の理解度に応じた指導を充実するとともに、長いスパンでの繰り返し学習の充実等の観点から、単元の指導計画、年間の指導計画、学年間の指導計画の関連等を見直す。

小学校算数における「知識」に関する問題について、正答数の分布を全国と比較すると、全問正答している児童の割合が低い傾向があり、国語においても同様の傾向がみられた。

知識の確実な定着を図るためには、個に応じた指導の充実を図るとともに、単元相互の関連を図りながら、繰り返し学習を取り入れることが効果的ではないかと考える。例えば、算数の「知識」に関する問題で最も正答率が低かった問題は、分数と小数の大きさを比べて数直線に表す問題であったが、「分数」の単元で「小数」を取り扱うなどの工夫が考えられる。

また、単元末、学期末、学年末等の復習や個別指導を確実にを行い、知識の定着を図ることも必要だと考える。

正答数の分布（小学校算数A）



**ウ 思考力を高める「書く」「話す」活動の充実**

各教科において、資料等から読み取ったことを文章にまとめたり、自分の考えを分かりやすく説明したりしたりする活動の充実を図り、思考力や表現力を高める。

教科の調査結果として、小学校国語では、読み取った内容を観点に沿ってまとめる活動を充実させることの必要性について述べた。中学校の数学でも、論理的かつ合理的に書く活動の大切さを述べてきた。また、小学校算数では根拠を明らかにしながら順序立てて説明したり、その説明のよさを話し合ったりする活動を工夫することの大切さについても触れた。

このように、学習指導上の改善点として「書く」「話す」活動の重視を挙げてきたが、大切なことは、単に書かせればよい、話させればよい、ということではない。

例えば「二つの資料を比較して、共通点を抜き出す」というような具体的な課題を与えることにより、何をすればよいのかを明確に示したり、「分かりやすく説明する」活動にあたっては、適切な接続語の使い方を併せて指導するなどの工夫をすることが必要であると考える。

**エ 生活場面や実社会との関連**

教科等の指導において、児童生徒の生活場面や実社会とつながりがもてるような工夫をする。そのことにより、学習に対する興味・関心や有用感を高める。

「活用」に関する問題では、書店にある本の紹介カードの表現を比べる問題、割引の仕方ケーキの値段を比べる問題、ファミリーレストランでカロリーと値段を考慮してメニューを決める問題等、生活場面が多く取り上げられた。

また、質問紙調査では、社会の出来事に関心があるほど教科の正答率が高いという傾向がみられた。

日頃の授業においても、児童生徒の日常生活を題材

**4**

まなぶさんの町にケーキ屋があります。  
このケーキ屋のロールケーキ、チーズケーキ、イチゴケーキ、チョコレートケーキの定価は、次のとおりです。

ロールケーキ 250円	チーズケーキ 300円	イチゴケーキ 350円	チョコレートケーキ 400円

このケーキ屋は、木曜日と日曜日が安売りの日です。木曜日と日曜日は、次のようにケーキを売っています。

<p><b>木曜日</b></p> <p>すべてのケーキを定価の20%引きで売ります。 例えば、定価250円のケーキは、50円引きになって200円になります。</p>	<p><b>日曜日</b></p> <p>定価が320円よりも安いケーキは、どれも200円で売ります。</p>
---	---

とした学習を、各教科で積極的に取り入れたり、実社会との関連を図るような取組を推進したりすることが、教科の学習への興味・関心を高めることにつながると考える。

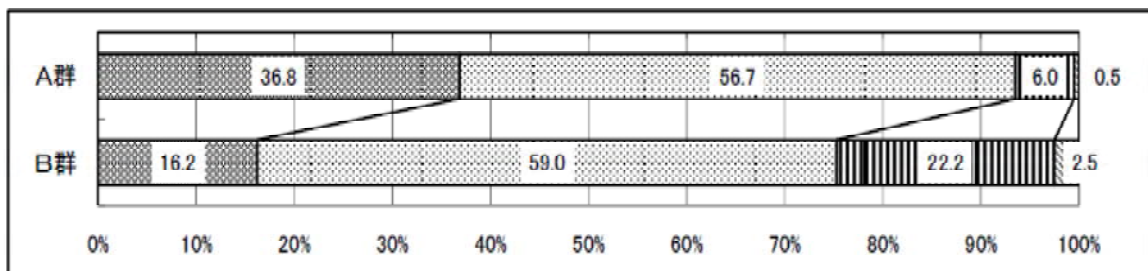
## (2) 落ち着いた環境作り

### オ 望ましい学習態度の育成

児童生徒が集中して学習に取り組めるように、学習上のルール等についての継続的な指導を行うとともに、全校での支援体制を整備する。

学校質問紙調査では、「児童生徒は、授業中の私語がなく、落ち着いているか」という質問項目があった。その質問に対して、「そのとおりだと思う」と答えた学校の平均正答率が最も高く、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえば、そう思わない」と答えた学校の平均正答率が順に低くなっている。このことは、全国でも同様の状況がみられた。

\*質問 17：第6学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか



学校の平均正答率が、国語A、B、算数A、Bのすべてにおいて、公立学校に在籍する児童の正答率の全国平均を5ポイント以上、上回る公立学校を「A群」、全国平均を5ポイント以上、下回る公立学校を「B群」とする。

(平成19年度全国・学力学習状況調査【小学校】報告書 P74 文部科学省 国立教育政策研究所)

学力向上には、課題に応じた指導方法の工夫等の授業改善を進めるとともに、学習上のルールを児童生徒に身に付けさせる指導を継続的に行う必要がある。その際、特定の学級・学年で取り組むよりも、共通理解を図りながら全校的な取組を推進することが大切であると考えられる。

また、落ち着いた環境づくりのために、管理職、養護教諭、スクールカウンセラーや補助教員等、学校全体で学級担任や教科担任をサポートする体制を整備することも必要であると考えられる。

## (3) 授業力を高める校内研修の実施

### カ 教員の授業力の向上

授業研究を伴う校内研修を充実するとともに、模擬授業の実施等実践的な研修を取り入れることにより、教員の授業力の向上を図る。

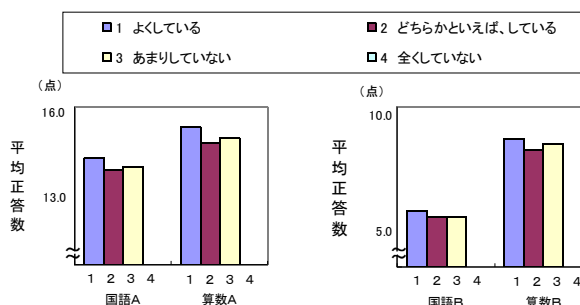
教員の授業力の向上には、学習指導案の検討、公開授業の実施、授業を踏まえた協議等、授業研究を伴う校内研修が大切であり、山口県では多くの学校で実施されている。

このような研修を数多く行い、授業改善を進めていくことは望ましいことではあるが、実際には学校規模等様々な条件により、すべての学校で同じように実施することは難しい。

そこで、教員を対象とした模擬授業を校内研修の一つとして取り入れるなど、より実践的な研修を組み合わせることで、教員の授業力向上を図る工夫が必要であろう。

\* (小) 質問90

模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている。



(4) 保護者・地域との連携の強化

キ 情報公開と外部評価の活用

学校便りや学校のホームページ等により、児童生徒の様子や学校の取組、自己点検評価等の情報を公表するとともに、学校評価の活用にも努める。

学校への質問紙調査結果によると、授業参観の機会を多く設けたり、自己点検評価の情報を公表したりする学校の平均正答率が高い傾向がみられた。学校の情報を様々な方法で発信する取組を推進する必要があると考える。

また、学校の様々な教育活動において、保護者や地域の人々の学校に対する評価を積極的に活用した学校づくりに努めることも大切である。

ク 保護者への継続的な働きかけと地域人材の活用

基本的な生活習慣の確立や家庭学習の重要性について、保護者への継続的な啓発活動を行う。また、保護者を含めた地域の人材を積極的に活用する。

毎朝朝食を食べる、学校に持って行く物を準備する習慣を身に付けるなどの生活習慣と教科の正答率には関連があるとの調査結果がみられた。山口県の児童生徒は、「早寝早起き、朝ごはん、外遊び」などの生活習慣は比較的身に付いているが、このことは、これまでの様々な取組の成果もあるのではないかと考える。

各家庭の状況は様々であり、保護者への働きかけはすぐに一律に効果が現れるものではないが、PTA総会や学校便り等を通じて、上記の調査結果のような情報を提供し、継続的に啓発を行うことが今後とも必要であろう。

また、地域の人材を活用することは、児童生徒の学習意欲を向上させるとともに、地域への教育活動の発信にもつながると考える。

## (5) 学力についてのPDCAサイクルの構築

### ケ 課題を踏まえた学力向上プランの見直し

児童生徒の実態に応じた学力向上の取組を推進するために、全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえ、教職員の共通理解を図りながら、「学力向上プラン」を継続的に見直す。

児童生徒の学力の向上には、教育課程や指導方法の工夫・改善、落ち着いた学習環境づくり、教員の研修体制の充実、保護者・地域との連携の強化等の取組を総合的・計画的に進めていく必要がある。

このような取組を推進するため、各学校では「学力向上プラン」に沿って実践を進めているが、プランは作成することが目的ではなく、それぞれの取組を評価し、継続的にプランの見直しを図ることが大切である。

なお、プラン作成は、教職員全員の共通理解を図りながら進めることが大切である。

#### 【事例1：小学校】

下に示しているのは、小学校での学力向上プランであり、各取組の評価に工夫がみられる事例である。評価にあたっては、各取組ごとに教職員に対するアンケート調査を行い、次年度に向けた取組についてもまとめている。

評価アンケートを取り入れたものについては、右に示している。

### 学力向上プラン

平成19年度学力向上プラン

〇〇小学校

	課題	課題解決の方法	評価
指導方法の工夫改善	読む力 家庭学習アンケートによると、家庭での読書の習慣がっていない児童が全校で15%いる。	・読書…読書カードや紹介カードを使用したり、読書の時間を設定（木曜日のふれあいタイム）したりすることにより、児童が豊かに読書活動を行えるようにする。 ・音読…国語の時間における積極的な音読や音読カードを用いた家庭での音読を重視し、読む力を高める。 ・詩の暗唱…学年に応じた音読集などを用いて、詩の暗唱をする。	
	表現する力 平成8年度より始まった音読集会により、児童は大勢の前で自信をもって自分の表現を伝えようとする態度が養われてきている。	・表現する場の設定…音読集会、委員会集会、学習発表会、夏休み作品発表会など全校で表現する場を設ける。 音読集会…月2回実施 各学年の発表では、発表の後によかったところなどを発表し、相互評価する場を設ける。 全校児童での群読を行う。 ・学級で朝の会でのスピーチなど、自分の考えを表現する場を設ける。	
	書く力 日常生活の中で漢字を活用する習慣が身に付いていない児童が多い。また、書くことへの抵抗感を感じている児童も多い。	・各教科で書く活動を積極的に取り入れる。 ・作文、日記…テーマの設定や書き出しの工夫をした作文、日記指導を行う。 「漢字の広場」を使った効果的な作文指導を行う。 ・漢字…新出漢字の指導の工夫、家庭学習の充実、定期的な漢字テストの実施を図る。 ・チャレンジ学習…全教職員による指導により、漢字などの定着を図る。	
	算数 基礎的・基本的な内容 学習内容の定着は各学年個人差が大きい。 数学的な考え方 自力解決の時間を増やし、解決方法について話し合うようにしているが、まだ不十分である。	・プリントなどを用い、学習内容の定着を確かめ、個別指導を徹底する。 ・計算の習熟…朝学や家庭学習の充実を図る。 ・チャレンジ学習…全教職員による指導により、計算などの定着を図る。 ・授業の中で一人ひとりが、自分なりの考え方で問題に取り組む時間を確保し、自分なりの考えをもてるようにする。 ・それぞれの考え方を発表し、考え方を比較し合い、よりよい解決方法について話し合う時間をとるようにする。	
学習習慣	話し合いの仕方 子ども同士の磨き合いが不十分である。また、発表する時、語尾がはっきりしない児童がいる。	・「論理的思考力」の育成…自分の考えの根拠を話す。 「～と思います。理由は～です。」 ・「共に学び合う力」の育成…友だちの発言につなげて話す。 「～さんは、…と言いました。私は少し違って～と思います。」など ・「です」や「ます」をつけて、最後まではっきりと話す。	
	家庭学習の定着 家庭学習アンケートによると、家庭学習の習慣が身に付いていない児童が数名いる。	・学年×10～15分の家庭学習の定着を図る。 ・家庭学習アンケート（5月、11月）を実施し、実態に基づき家庭と連携して指導を行う。 ・高学年…自主学習のよい取組を学級便りで紹介するなどして、自主学習の定着を図る。	
	基本的な学習の構え 学習習慣の定着については、引き続き指導が必要である。	・「物構え・身構え・心構え」…共通理解をし、定着を図る。 （話の聞き方、発表の仕方、本の持ち方、姿勢）	
	学習用具 昨年度より、学習用具の点検をすることで、学習に対する構えができてきた。	・学習用具のチェックリストを活用し、指導する。（月頭）	
研修体制	校内で教職員同士が指導方法などをより高め合えるようにしたい。	・全教職員の授業公開（国語科か算数科）と研究協議により授業力の向上を図る。 ・外部講師による講話、指導により研修を深める。 ・校内研修で、指導方法を紹介し合う。 ・研修会に参加した後復伝し、校内へ還元をする。（校内研修、職朝）	

年度末の学力向上プラン 評価アンケート

平成19年度学力向上プラン 評価アンケート

課題	課題解決の方法	◎△▽で評価 ⑤ ④ ③ ② ①	学年末より上が がなくてもよ いものに△	課題	来年度新たに取 り進めたいこと
読む力	家庭学習アンケートによる と、家庭での読書の習慣が ついていない児童が全校で15 %いる。	4 2 0 2 4 0 3 3 0		読書カードや紹介カードを使用したり、読書の時間を設定（休日のふれあいタイ ム）したりすることにより、児童が意欲的に読書活動を行うようにする。 ・音読・国語の時間における積極的な音読や音読カードを用いた家庭での音読を重視し、読 む力を高める。 ・1年の読書…学年に応じた音読本などを用いて、読書の習慣を促す。	・読書を「家庭読書」にまで広められた らすべし。 (保護者を巻き込むとい うこと)
指導方法の工夫改善	児童8年度より始まった音読 集会により、児童は大勢の同 じ内容をもち自分の表現を 伝えようとする態度が養われ てきている。	4 2 0		・使用する場の設定…音読集会、委員会集会、学習発表会、夏休み作品発表会など全校でま つる場を設ける。 ・音読集会…月や国語 ・各学年の発表では、発表の場によつたことなどを発表し、相互評価する場 を設ける。 ・全校児童での音読集会を行う。 ・全校児童でのスピーチなど、自分の考えを表現する場を設ける。	・児童・保護者から地域へと表現の場を 広げること。 ・地域公開の発表日に、音読への機会 を設けてはどうだろうか。(具体化をす めたい)
算数	日常生活の中で漢字を応用す る習慣が身に付いていない児 童が多い。また、書くことへ の抵抗感を感じている児童も 多い。	1 5 0 0 6 0 3 3 0 4 2 0 2 4 0		・各教科で書く活動を積極的に取り入れる。 ・作文、日記…テーマの設定や書き出しの工夫をした作文、日記指導を行う。 ・漢字の広場…漢字の広場、を使った発見的な作文指導を行う。 ・漢字…新出漢字の指導の工夫、家庭学習の充実、互いの漢字テストの実施を図る。 ・チャレンジ学習…全教職員による指導により、漢字などの定着を図る。 ・プリントなどを用い、学習内容の定着を促す。 ・計算の工夫…算学や家庭学習の充実を図る。 ・チャレンジ学習…全教職員による指導により、計算などの定着を図る。	・作文、日記、手紙 …お礼の手紙に 時候の挨拶を書く子が増えた。自然に目 を向ける意味でも大変よい。 ・読書ノート等による感想文を書くこ と。
話し合いの仕方	子ども同士の働き合いが不十 分である。また、発表する時、 聴能がはつきりしない児童が いる。	1 5 0 0 5 1 3 3 0		・「話し合いの仕方」の育成…自分の考えの根拠を話す。 →と聞いています。理由は…です。 ・「共に学び合う力」の育成…互いの発言につなげて話す。 →と聞きました。私に少し違つて…と聞きます。など →「です」や「ます」をつけて、最後まではっきりと話す。	・話し合う場をつくるための学習課題づくり、授業づく り、茶田双づくり。(※2) ・考えられる中、発表する手が限られてしまうこと。 ・今後も課題になり得る。このことは、授業以外でも大切なこと であり「生きる力」につながる。 ・※2 ・学習動機不足。
家庭学習の定着	家庭学習アンケートによる と、家庭学習の習慣が身に付 いていない児童が数人いる。	2 4 0 0 5 1 0 4 1		・学年×1.0～1.5分の家庭学習の定着を図る。 ・家庭学習アンケート(5月、11月)を実施し、実際に書く家庭と連携して指導を行う。 ・高学年…自主学習のよい取組を学校内で紹介するなどして、自主学習の定着を図る。 ・「納めえ・育備え・心構え」…共通理解をし、定着を図る。 (話の聞き方、発表の仕方、本の持ち方、姿勢)	・家庭も本気になってほしい。どうすればよいか。(※3)
学習用具	昨年度より、学習用具の点検 をすることで、学習に対する 興味ができてきた。	1 5 0		・学習用具のチェックリストを活用し、指導する。(月集)	
研修	校内で教員同士が指導方法 を学ぶことで、学習に対する 興味ができてきた。	1 5 0 0 5 1 0 3 3 0 5 1		・全教職員の授業公開(国語科が重点)と研究協議により授業力の向上を図る。 ・外部講師による講話、指導により研修を深めよう。 ・校内研修で、指導方法を相互に合う。 ・研修会に参加した教員を、校内へ還元する。(校内研修、職員)	・※3 ・忘れ納カードに毎日記入させ、家の人に影響を知ってもらおう とした。今年度の学習効果はあったが、家庭の協力がなかな か得られないこともある。

その他、学力向上に向けて取り組むことにより、子どもに大きな力がつく。音読はその一つであるが、それを定着させること、さらに書くことにおいて、全体的な取組は考えられないであろうか。  
・一人力をつけて、全学年で取り組むことにより、子どもに大きな力がつく。音読はその一つであるが、それを定着させること、さらに書くことにおいて、全体的な取組は考えられないであろうか。  
・読書力をつけることで、習得事項の能力をつける。(読書の習慣)  
・学習の進め、監理とんをチェックリストにおけること。

読書・書くこと・共に学び合う力」の育成・家庭学習(自主学習)・指導法の共有

**【事例2：中学校】**

この事例は、中学校の事例である。

自校の課題を分析し課題解決の方法や実践の具体例を示している。中学校は教科担任制ではあるが、教科での取組と学校全体の取組をまとめることにより、全校体制での取組を促進している。

課題の分析結果を示すことで、具体的な方法を検討できるようにしている。

〇〇中学校学力向上改善プラン

全国学力学習状況調査の問題ごとに学校の課題を分析し、改善策を示している。

校内研修の実施方法について、現状の分析を行い改善策を示している。

調査結果だけでなく、今後独自の実態調査を行うなど、継続的な実態把握の方法が示されている。

実践の具体策を示すことにより、授業に生かすプランとなるようにしている。

家庭学習の習慣化について、家庭との連携を図るとともに、学校としてできることを考え取組を進めようとしている。

学習規律の意義について、教職員の共通理解を図り、学校全体で取り組む重要性が記されている。

	全国学力・学習状況調査より	課題についての分析	課題解決の方法	実践の具体策
国語 指導方	知識 平均正答率が国や県の平均よりやや下回っている。「書くこと」の領域に課題があり、「意欲・関心・態度」のポイントも低い。	非連続テキスト以外の読解力はまずまずだが、手紙文に関する知識など、特徴的な表現形式や、文脈に即しての漢字の読み取りには課題がある。	手紙文、案内文などの特徴ある表現形式の習得など日常生活を意識した言語活動や、音読を多用し、文脈に即した漢字の習得に努めたい。	①読書活動を充実させた作品 ②授業者の意欲を高める ③日 ④他 ⑤他 ⑥他 ⑦他 ⑧他 ⑨他 ⑩他
	活用 平均正答率は80%であり、ほぼ満足できる。しかし、設問によっては課題がある。	新しい傾向の問題に関して応用力がある。非連続テキストの比較はできるが、その中の情報を取り出し、自分なりにまとめることは課題がある。	様々な情報を取り出し、それについて自分の考えをまとめるような活動を、国語科はもちろん、他の教科などでも意識したい。	①百 ②各 ③各 ④各 ⑤各 ⑥各 ⑦各 ⑧各 ⑨各 ⑩各
研修 授業評価による授業改善	知識 平均正答率が、国や県の平均と比較して著しく下回っており重要な課題である。殊に「数量関係」の理解が不足している。	分数、四則計算、一次関数、連立方程式等に関する理解が不十分である。合同や比例関係や確率についても課題がある。	基本的な問題の反復練習を繰り返すことで、計算能力の向上を目指す必要がある。全体的に基礎的な力の定着を図りたい。	①校内 ②各 ③各 ④各 ⑤各 ⑥各 ⑦各 ⑧各 ⑨各 ⑩各
	活用 平均正答率が、国や県の平均と比較して著しく下回っている。特に「図形」の応用や「数と式」に課題がある。	基礎的な能力が不十分なことが一因となっている。文字を使うなど数学的な表現を使って説明する力に課題がある。	単に正解を求めるばかりでなく、解決の過程を重視した授業展開が必要である。他の生徒に説明させる場面を取り入れたい。	①校内 ②各 ③各 ④各 ⑤各 ⑥各 ⑦各 ⑧各 ⑨各 ⑩各
家庭学習の定着	年間7回の授業研究会を実施し、研究協議を重ねることで各教科の授業力向上には一定の成果を挙げることができた。また、その成果も全体で共有されているが日々の授業実践にどのように生かしていくかは具体的にされていない。	授業研究会の回数は多いが、教師1人あたり年間1回であり少ない。そのため、研究授業そのものが特別なものになり普段の授業に反映させにくい面があった。また、生徒の意欲を育てるといった観点から不足しており、その具体的手法についても検討が必要がある。	今後は、平素からお互いの授業を参観し、意見交換ができる体制作りの構築を図りたい。また、生徒の知的好奇心を育成するという視点での授業評価を継続する必要がある。そのための形式も検討する。	①校内 ②各 ③各 ④各 ⑤各 ⑥各 ⑦各 ⑧各 ⑨各 ⑩各
	校内研修体制の充実 校内研修会の講師による模範授業実施等では、大きな成果を挙げることができ、教師の意識は向上した。学校評価のアンケート結果によると生徒や保護者の理解は得られているが、なかなか生徒の学力向上に結びついていない。	まず先に教師の意識や意欲を向上させることで、生徒の学力向上も可能になると考える。今後、一層の教師相互の評価と情報交換を密にし、全校的な取組としての体制作りが必要である。	生徒の学力は、ただ単に点数だけでは計れない。息の長い継続的な取組が必要である。また学習意欲の向上や学習環境づくり、人間関係づくりなども合わせた総合力としての生きる力の育成が必要である。	①日々の ②家庭 ③特活 ④以外の
学習環境 学習規律教室環境	県や国の平均と比べ、明らかに家庭学習の時間が少ないことがわかる。(市内の他の学校と同傾向と同じ)生徒の意識だけでなく、保護者を含めた家庭の意識改善が必要である。	本校の生徒は概ね課題学習(宿題)にはまじめに取り組むが、支援を必要とする生徒ほど自主的な家庭学習が定着しにくい。今後、基礎的な学力育成と併せ、家庭学習への意欲をどのように育てるかが課題である。	現在も普段生徒に課している家庭学習の量や内容を把握・調整している。今後はさらに、個人の能力に応じたものにすることや、自主的な学習への取組を促進するような動機付けを含んだ指導を展開する必要がある。	①宿題 ②曜日 ③配慮 ④自主 ⑤自己 ⑥自己 ⑦自己 ⑧自己 ⑨自己 ⑩自己
	基本的な生活習慣の改善 朝食を毎日食べることや起床時間などの生活リズムは、概ね良い状態である。通塾率の低さ一因であるが、テレビの視聴時間が幾分か長いことが気になる。	家庭でテレビやゲームの時間を自主的に管理する習慣が身につけられていない。家庭学習の時間確保やより規則正しい生活習慣の確立という点から改善が必要である。	保護者との連携を進め、学校便りやメール発信などの方法を通じて、生徒だけでなく保護者の理解協力も求める必要がある。参観日などの機会での啓発も必要である。	①学級 ②学級 ③学級 ④学級 ⑤学級 ⑥学級 ⑦学級 ⑧学級 ⑨学級 ⑩学級



## ■ 教育委員会では

### (1) 教員の授業力向上支援

#### コ 優れた実践情報の提供

各学校に児童生徒の「活用」する力を高めるための実践事例や教材、基礎的基本的な内容の定着を図るための効果的な指導方法、優れた学力向上プラン等の情報を提供する。

学校訪問等を通じて、各学校に様々な実践の情報を提供する必要がある。特に「活用」に関する問題については、学校での実践の蓄積が少ないので、先進的な取組等を紹介することにより、各学校の取組を支援する必要があると考える。

また、県教委と市町教委、市町教委間相互の連携を図ることで、このような情報を共有することが効果的な支援につながる。

#### サ 研修機会の拡充と内容の工夫

県教育研修所における研修講座や各教育委員会が主催する研修会のテーマ・内容について、それぞれの地域の課題等を踏まえたものとなるよう工夫することで、課題の改善に向けての取組を支援する。

また、学校における授業改善等の取組が推進されるよう学校訪問の機会を増やしたり、内容を工夫したりする。

教育委員会の主催する研修講座・研修会の内容については、該当地域の実態を踏まえたものにより、各学校の授業改善の取組を支援することができる。

また、教員を集めて行う集合研修だけでなく、指導主事等が学校を訪問して行う研修を拡充することにより、各学校の課題に応じた研修が行えるよう研修体制を整備する必要がある。特に、重点的な支援を必要とする学校に対しては、専門家を派遣するなどの取組が考えられる。

また、学校訪問時における指導内容についても、教員を対象に模擬授業を行うなど、教員の授業力の向上につながる実践的な指導となるよう工夫する。

### 【事例1：指導主事の授業提供】

学校園訪問等において学校からの要望により、指導主事の授業提供を行い、授業をもとにした協議により、学力向上に向けた取組が具体的に進められるようにしている。

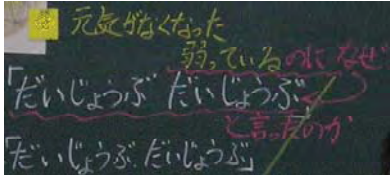


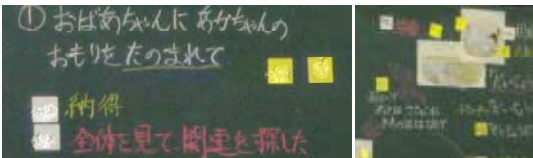
#### ◆ 提供授業の実際（小学校国語）

物語文教材の学習において、学習課題を明確にした話し合い活動を設定し、活動の中で自分たちが使った技能等を自覚させ、次の学習で使えるようにすることをめざして実践した。



【指導の流れ】

(教材文が横書きであり板書も横書きで対応)

学習活動及び内容	指導のポイント
<p>1 物語を音読し、学習問題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文脈に即した読み</li> <li>・ 学習問題の自覚</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作者の表現意図が表れている部分を音読させ、言葉と場面状況の矛盾等から学習問題をとらえさせるようにする。</li> </ul> 
<p>2 自分なりの考えを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係する叙述の確認</li> <li>・ 叙述に対する意味付け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の考えを把握するとともに、叙述のみを取り上げている児童に対しては、そこからどう思うのか問いかけ、意味付けができるようにする。</li> </ul> 
<p>3 一人ひとりの考えをもとに、問題の解決に向けて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作者の表現意図</li> <li>・ 意図を考えながら聞くこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポイントになる言葉をもとに、学習の流れを切らないように整理し、場面の関連を意識させる。</li> </ul> 
<p>4 本時を振り返り、学びのよさを交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の学習の中での学びのよさを価値付けることと、解決に向けて使った技能等を意識させる。</li> </ul> 

【事例2：学習指導カウンセリング事業】



市内研修主任の研修のようす

児童生徒へ質の高い授業の提供を目指し、教員は、授業の構想と実践を繰り返しているが、市教育委員会では、このような教師を支援するために、平成17年度より「学習指導カウンセリング事業」を実施している。

この事業は、教員自身が、授業づくりにおける課題を明確にし、その課題に迫るために、指導主事が支援するというものである。具体的な支援方法としては、教員が教育委員会を訪れるか、または、指導主事が学校を訪問して、指導案検討を行ったり、授業を参観し

て授業後の気付きを助言したりするものである。

この事業を普及させるために、「指導案検討や授業参観等の要請文書などの書類は小さい不要である」というように手続きを簡易にし、課題の設定や実施時期、回数等については、基本的に教員自身が設定するという自由度の高さにこだわった。もちろん校内研修の一環として学校全体でカウンセリングを受けることも自由である。

平成19年度は、市内16校のうち、学校全体としてカウンセリング事業を受けた学校が10校、個人としてカウンセリング事業を受けたものが8名であった。そして、述べ40回のカウンセリング事業を実施することができた。

今後は、教育委員会が各学校の研修主任を集めて行っている研修主任研究集会と連動させ、実際の学校の授業を参観し、より実効性のある校内研修の在り方や進め方について研修していきたいと考えている。このことによって、市内すべての学校に学習指導のリーダーを養成していきたい。

### 【具体的な事例3：ネットワークを活用した指導案集の作成】



授業を構想することは、教師にとって最も充実した活動である。

同時に、日々児童生徒と向き合い、多忙を極める教員にとって、この活動は、負担になることもある。

また、経験の少ない教員にとっては、実践的な資料に接することが、児童生徒に質の高い授業を提供するきっかけとなると思われる。

そこで、市教育委員会として、ネットワークを活用した指導案ライブラリーを作成し、授業構想の効率化と経験の少ない教員のための実践的な資料の蓄積を図ろうと考えた。

本市は、コンピュータのネットワーク化に先進的に取り組んできた。現在、学校間を結ぶ『しなやかネット』というネットワークで、教育委員会と市内のすべての学校が結ばれている。『しなやかネット』には、キャビネットと呼ばれるデータの共有機能がある。キャビネットによって電子媒体のマニュアルや様式等は、必要なときに必要なものを取り出して活用できるようになっている。

この機能を利用し、市教育委員会では、このキャビネットに指導案を共有できるフォルダを、校種、教科ごとに作成した。そして、学校訪問や学習指導カウンセリング、研究収録等において公開された指導案を、市内の教員からこのフォルダにアップロードしてもらい、指導案集を作成した。この指導案集の活用によって、授業構想の効率化を図ることができることを期待している。また、この指導案集に掲載された指導案をさらに工夫改善することによって、より質の高い授業を提供することもできる。

平成19年度は、小中学校合わせて99事例の指導案を提供していただいた。今後、学習指導要領の改訂に伴い、指導案の整理や、学校ごとに異なるファイル名の統一等、より活用しやすい効果的な方法を模索しているところである。

## (2) 課題に応じた重点的な支援

### シ 実態に応じた人的措置と支援体制の構築

学力向上についての各学校の課題に応じるために、必要に応じた教員の加配や外部人材の活用等の措置を講じる。

学校によっては、落ち着いた学習環境を保つために補助教員等を必要とすることもある。各教育委員会は、そのような学校の要請に対応できるように、実情に応じた支援体制を整備することが大切である。

#### 【事例1：学校支援ボランティアによる体験活動の充実】



ボランティア総会（ブロック別打ち合わせ）

地域の人々の力を学校運営に活かそうという発想のもと、平成15年度から学校支援ボランティア制度を導入している。

平成19年度は、冬休み終了時点で、1,704回の活動回数、述べ6,680人の参加人数があった。これらの数値は、地域の学校への関心の高さを表しているといえる。

この学校支援ボランティアによる活動は、植木の剪定や足ふきマットの製作などといった教育環境の整備であったり、スクールガードのような子どもたちの登下校の見守り活動であったりするなど、多様である。

そうした中、教育活動の支援も行われている。例えば、市内のある学校では、植物の栽培経験がほとんどない児童に、総合的な学習の時間において、ボランティアのメンバーから開放・提供された田んぼを活用して、稲の栽培から収穫までを行うなど体験的な学習を取り入れている。

学校支援ボランティア活動によって、地域の人材を活用し、学校における体験活動を充実させ、児童生徒の学力向上に結び付くよう期待している。

#### 【事例2：地域博物館構想による観察会の実施】

市教育委員会では、以前より、夏休みに児童生徒を対象とした理科観察会を行ってきた。これらをベースにして、平成18年度から新教育システムとして地域博物館構想を立ち上げ、授業ではなかなか実施できない野外における観察や授業で習った郷土を実際に訪れてるといった体験活動を仕組んでいる。具体的には、平成19年度は次のような観察会等を企画した。

- ・ダム周辺の植物観察会
- ・海岸の海辺の生き物観察会
- ・小学校における昆虫観察会
- ・星の見える丘工房における星座観察会
- ・池での野鳥観察会



海辺の生き物観察会のようす



星座の観察会の様子



同定会のようす

例えば、海辺の生き物の観察では、海辺の生き物を採集するだけでなく、海岸に生息しているハマボウフウの根を掘ってみたり、マテガイの採集を試みたりした。これらの観察会によって、興味・関心をもった児童生徒は、夏休みに採集活動を行い、夏休み後半に開かれる同定会で自分の採集した植物や貝殻、昆虫等を持ち寄り、観察会の講師に同定をしてもらうのである。同定会に参加した多くの児童生徒は、図鑑を見ずに次々に同定していく講師の専門的な知識にふれ、一層興味・関心を高めることができるのである。

このように、観察会に参加することによって、観察や採集したことだけでなく、専門的な知識をもつ人と接することで児童生徒の興味・関心が高まることを市教育委員会としては期待している。

### (3) 協力体制の整備

#### ス. 関係機関等との協力体制の整備

教育委員会内における学校教育、社会教育、幼児教育等各関連部署との連携を密にするとともに、小・中学校教育研究会、P T A連合会等関係団体との協力関係を強化する。

学校における学力向上の取組は総合的に進める必要があることから、教育委員会においても、総合的な支援ができるように連携を図ることが大切である。

教育委員会内だけでなく、関係団体との協力関係の構築も重要であり、例えば、教員の研修に関しては小中学校教育研究会、保護者との連携に関してはP T A連合会と連携することにより、効果的且つ効率的に取組が推進されると考える。